

奈良県感染症発生動向調査事業報告

令和2年 内科・小児科感染症の概要

1. 令和2年の流行状況（定点当たり）

令和2年(1月～12月の合計)の定点当たり報告数は、多い順から(定点当たり報告数)[報告実数]、①感染性胃腸炎(112.18)[3,814]、②インフルエンザ(107.80)[5,929]、③A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(39.85)[1,355]、④突発性発疹(19.85)[675]、⑤咽頭結膜熱(9.15)[311]、⑥ヘルパンギーナ(9.15)[311]、⑦伝染性紅斑(8.21)[279]、⑧水痘(7.68)[261]、⑨RSウイルス感染症(5.12)[174]、⑩手足口病(4.71)[160]、⑪流行性耳下腺炎(1.03)[35]であった。

2. 地区別（保健所別）での報告数（定点当たり）の状況（県平均との比較）

地区別(保健所別)で、県平均より報告数が多い疾病を見てみると、奈良市保健所(4疾患)は水痘、手足口病、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、郡山保健所(1疾患)は感染性胃腸炎、中和保健所(東)(4疾患)は咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発疹、ヘルパンギーナ、中和保健所(西)(10疾患)は手足口病を除く全ての疾患、内吉野保健所(1疾患)は流行性耳下腺炎、吉野保健所(3疾患)は、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎であった。

3. 月別の発生状況（定点当たり）

各疾病の月別流行状況を見てみると、1月が最多であった疾患は4疾患で、インフルエンザ 67.80(3,729人)、RSウイルス感染症 2.06(70人)、感染性胃腸炎 26.15(889人)、伝染性紅斑 3.82(130人)であった。以下、2月(3疾患)は咽頭結膜熱 1.18(40人)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 7.97(271人)、水痘 1.26(43人)、4月(1疾患)は手足口病 0.79(27人)、7月(1疾患)は突発性発疹 2.88(98人)、10月(2疾患)はヘルパンギーナ 3.97(135人)、流行性耳下腺炎 0.18(6人)であった。

4. 世代別（1歳平均）での報告数（実数）の状況

インフルエンザは学童期 298.7件、幼児期 273.2件の順で多く、RSウイルス感染症は乳児期 46.0件、幼児期 25.4件、咽頭結膜熱は幼児期 50.6件、乳児期 30.0件、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は幼児期 150.4件、学童期 59.9件、感染性胃腸炎は幼児期 349.4件、乳児期 231.0件、水痘は幼児期 18.0件、学童期 18.0件、手足口病は幼児期 24.8件、乳児期 19.0件、伝染性紅斑は幼児期 31.2件、学童期 13.2件、突発性発疹は乳児期 211.0件、幼児期 92.0件、ヘルパンギーナは幼児期 53.2件、乳児期 24.0件、流行性耳下腺炎は幼児期 2.6件、学童期 2.4件であった。

インフルエンザ定点分
(小児科定点・内科定点)

1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

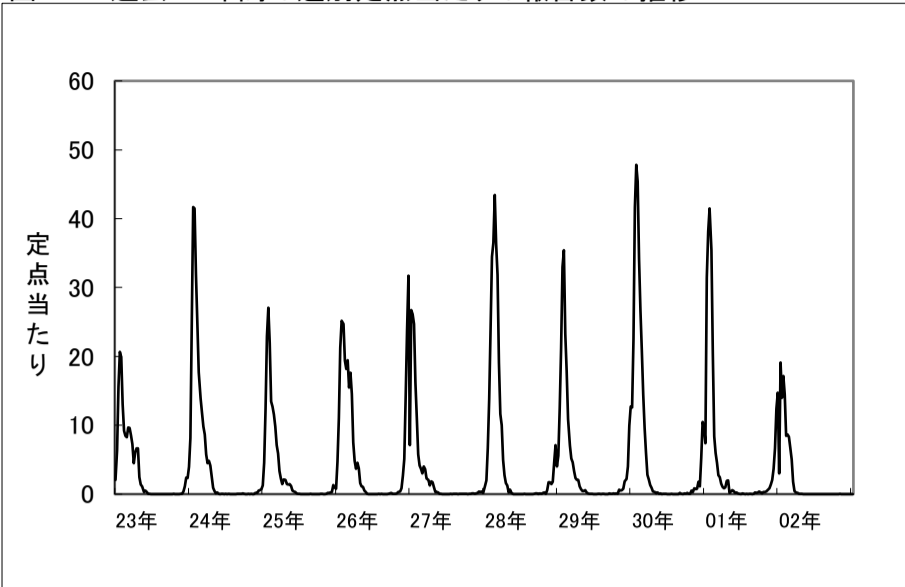


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

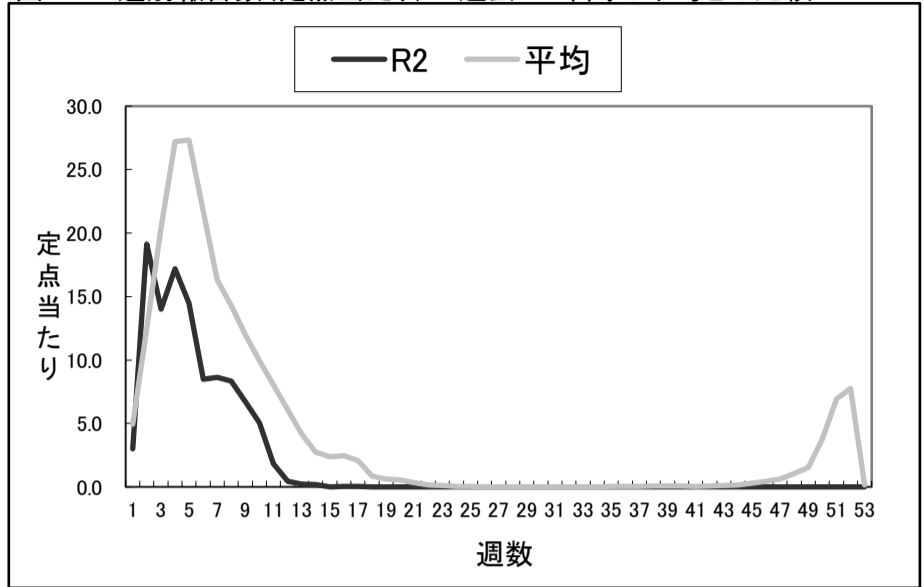


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

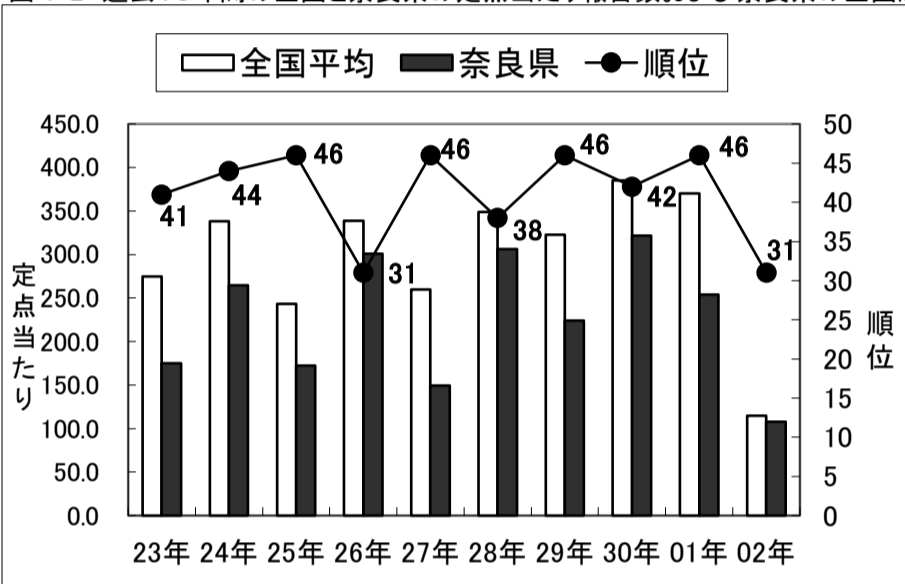


図 1-6 年齢別報告数(実数)

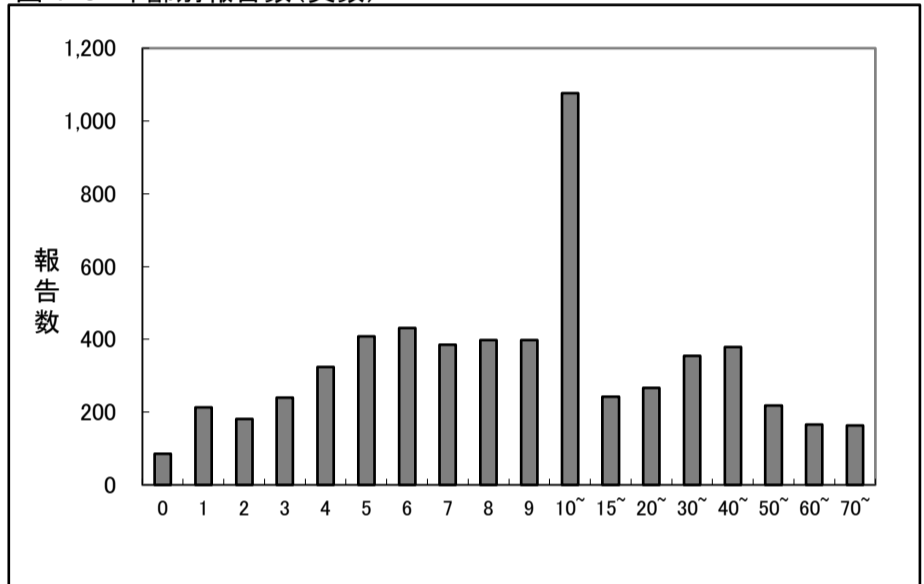
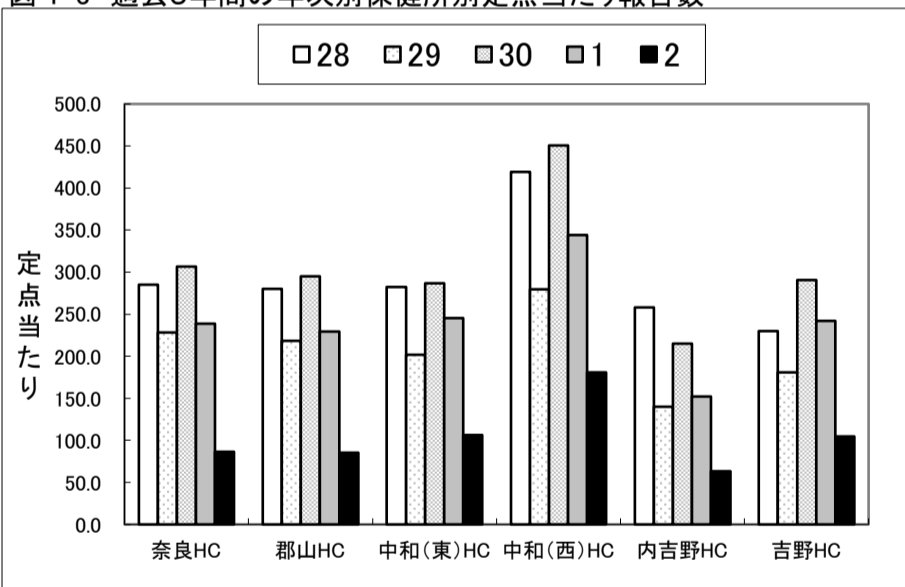


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

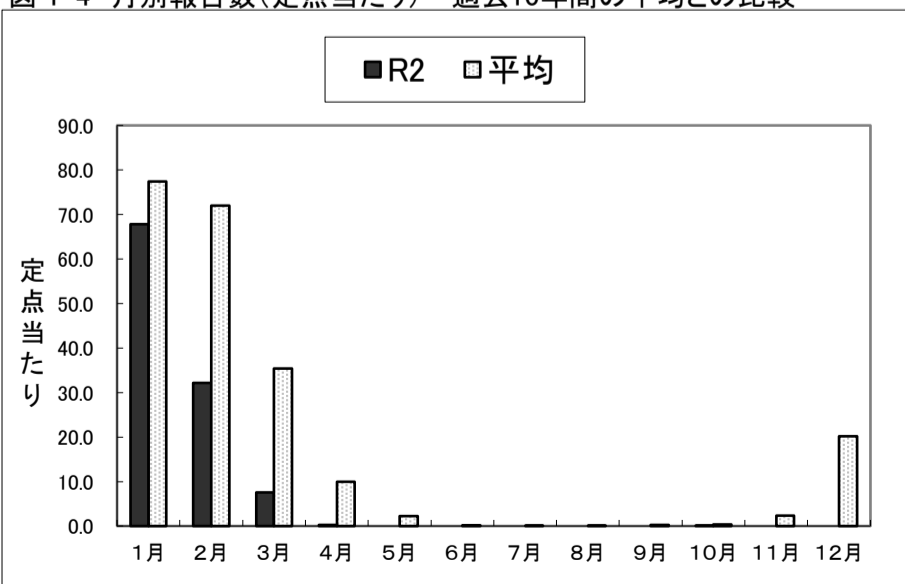


コメント

- ・定点当たりのインフルエンザ報告数は全国的に減少しており、奈良県でも107.80と昨年のほぼ半数まで低下し、全国31位であった。
- ・保健所別の定点当たりの報告数は、中和(西)保健所が180.90と最多であり、次いで中和(東)106.45、吉野104.75の順に多かった。
- ・月別では、定点当たりの報告数は、1月が67.80と最多で、3月には7.55まで低下した。4月以降はほぼ発生が見られず、例年小流行を認める11月、12月においても報告数はゼロであった。
- ・インフルエンザ及びインフルエンザ疑い患者より、2例の検査依頼があり、うち1例でB型(ビクトリア系統)1株を検出した。

(新川 邦浩 記)

図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



小兒科定点分

2.RSウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

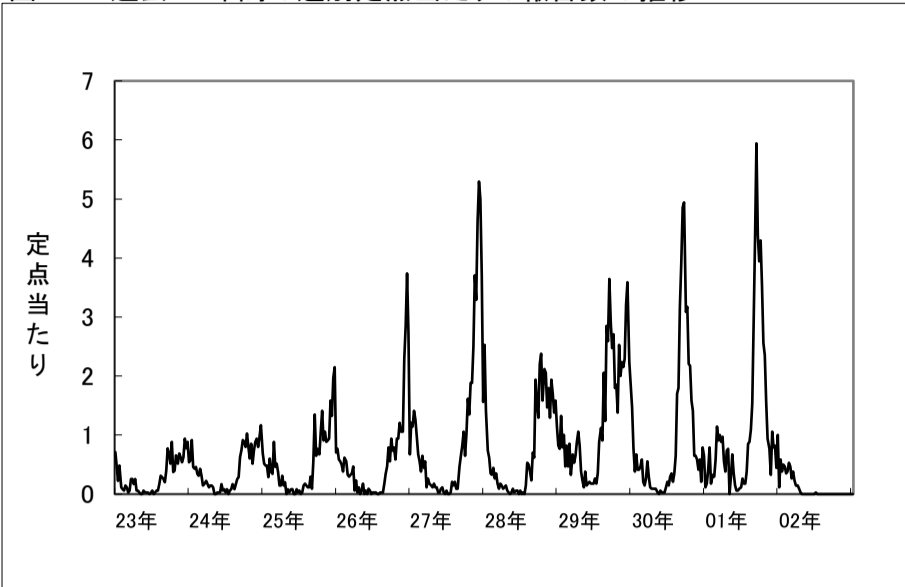


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

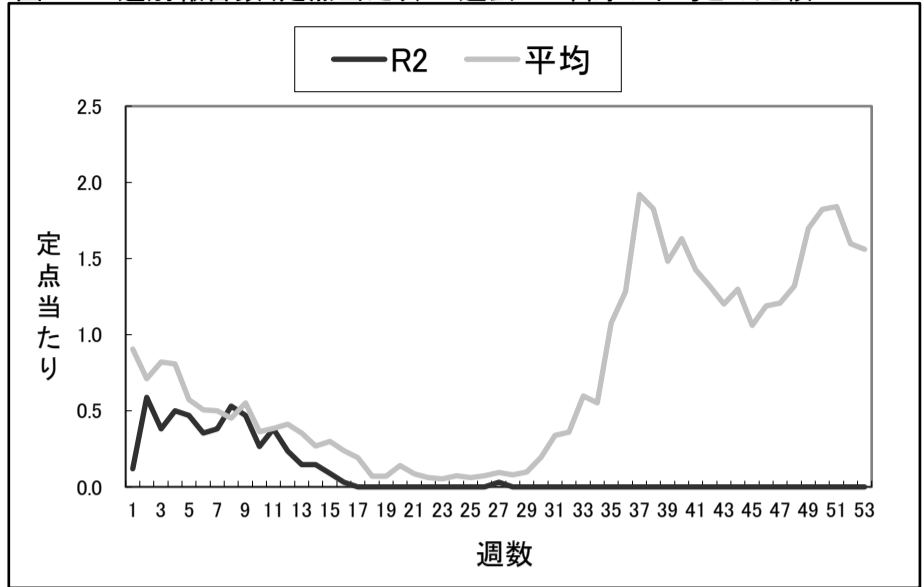


図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

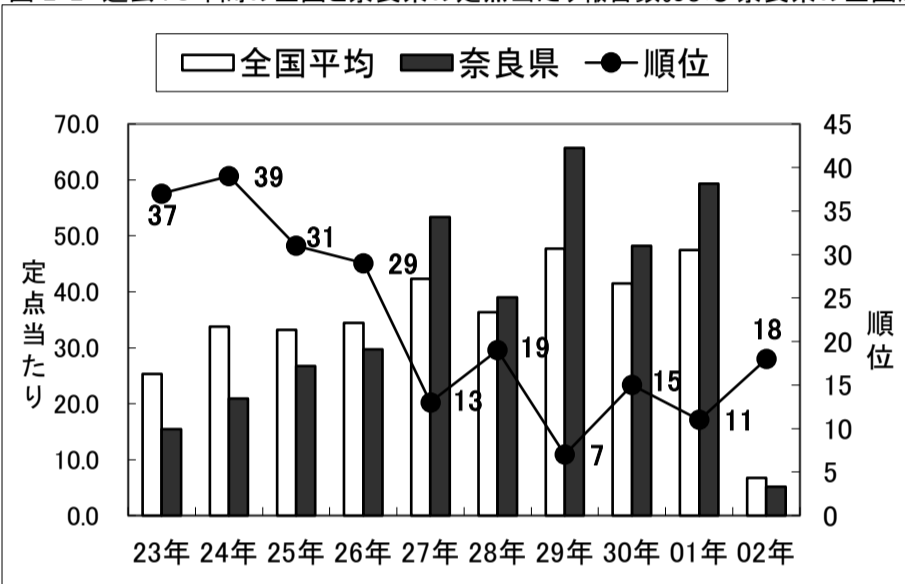


図 2-6 年齢別報告数(実数)

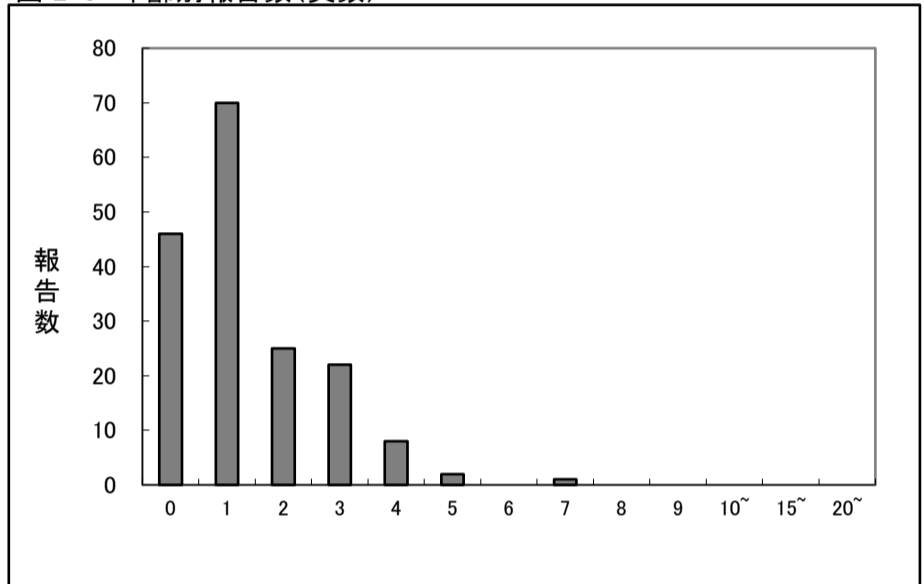


図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

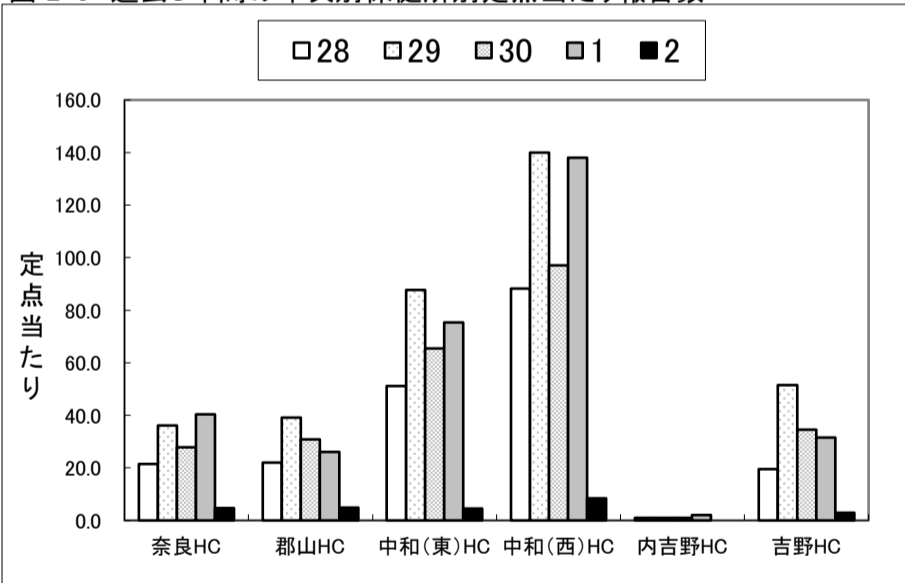
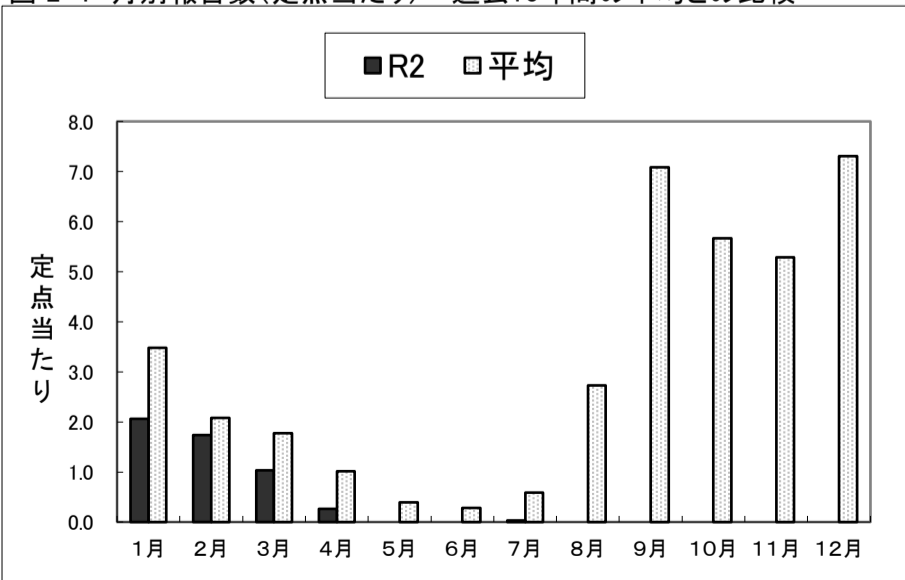


図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

・定点当たりのRSウイルス感染症報告数は例年と比べて、全国的に著明に減少しており、奈良県でも5.12と昨年より著減しており、全国順位は18位であった。

・保健所別の定点当たりの報告数は、中和(西)保健所が8.33と最多であり、次いで郡山4.89、奈良市4.67の順に多かった。

・月別では、定点当たりの報告数は、1月が2.06と最多で、5月以降の報告数はなく、昨年のような9月から10月にかけての流行は全く見られなかった。

(新川 邦浩 記)

3.咽頭結膜熱

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

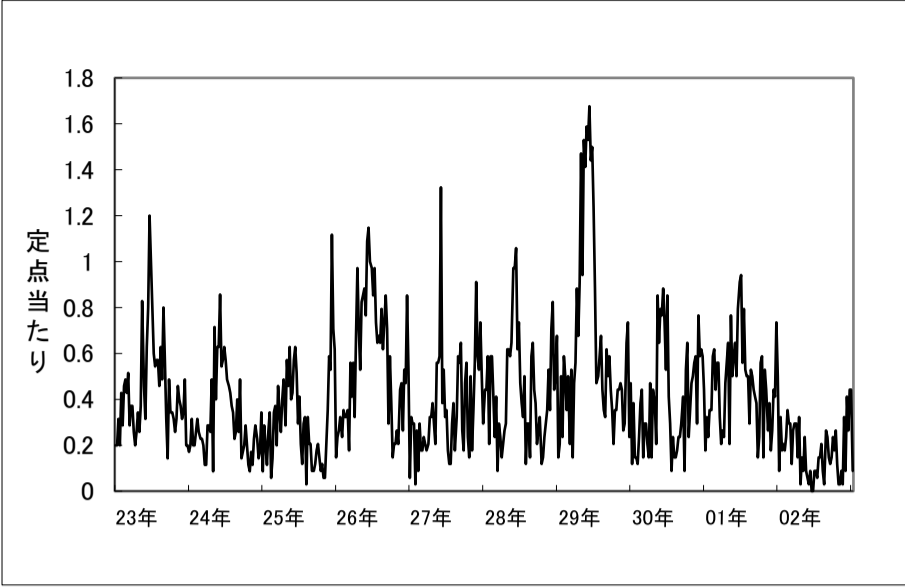


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

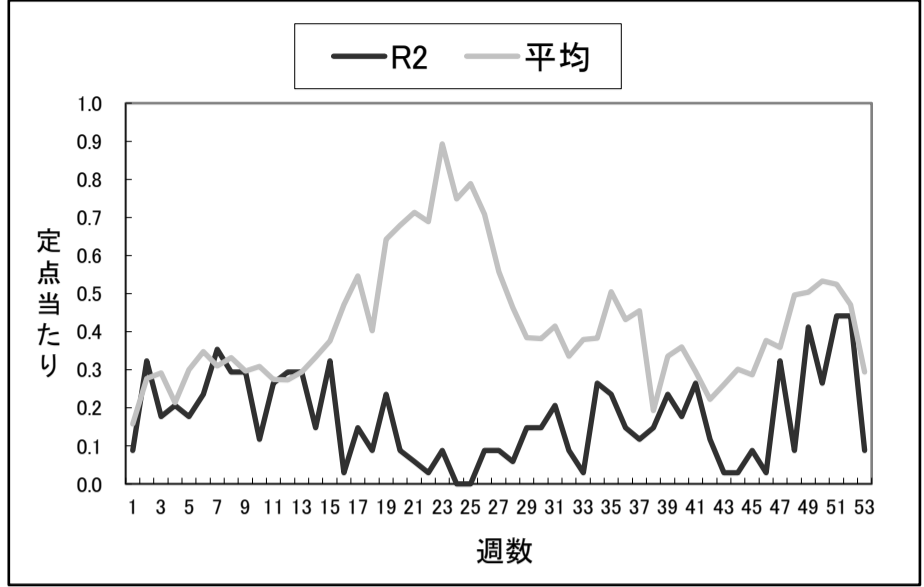


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

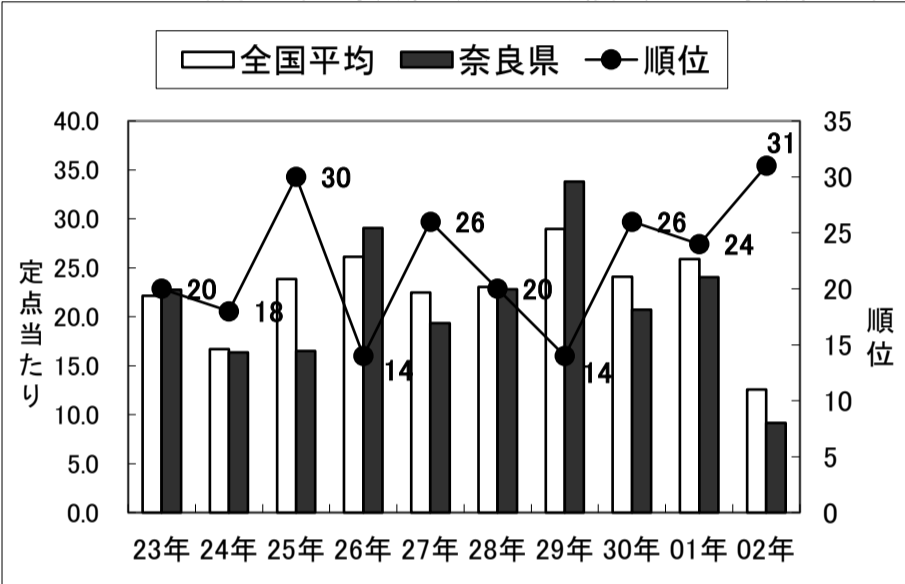


図 3-6 年齢別報告数(実数)

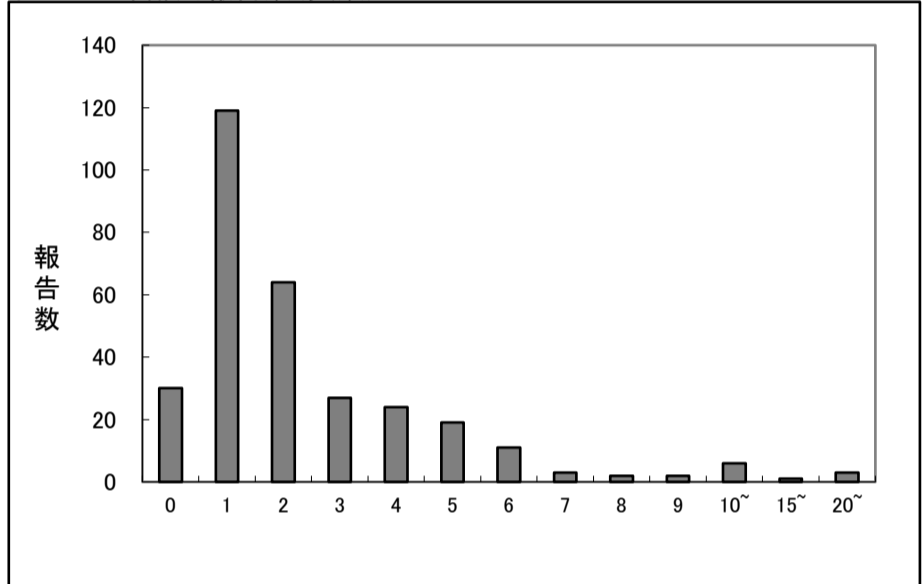
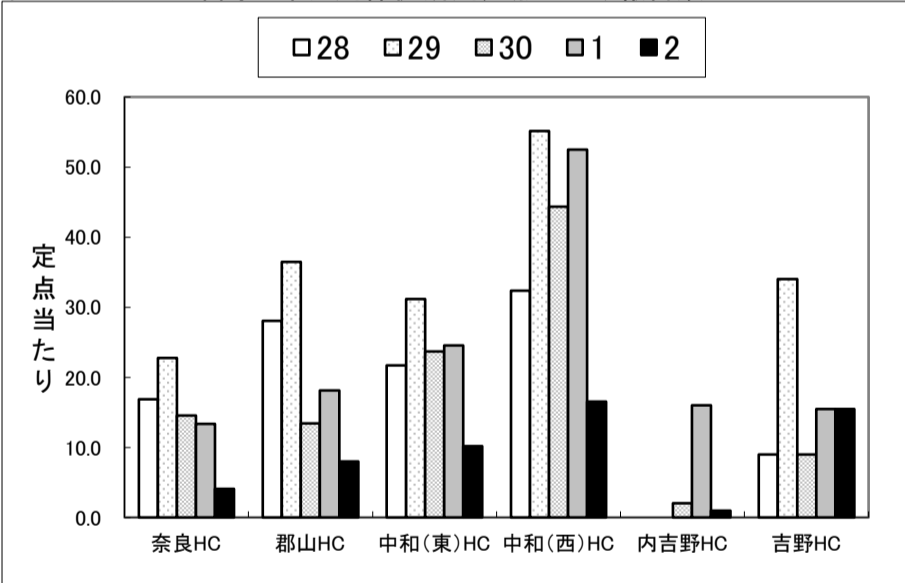


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

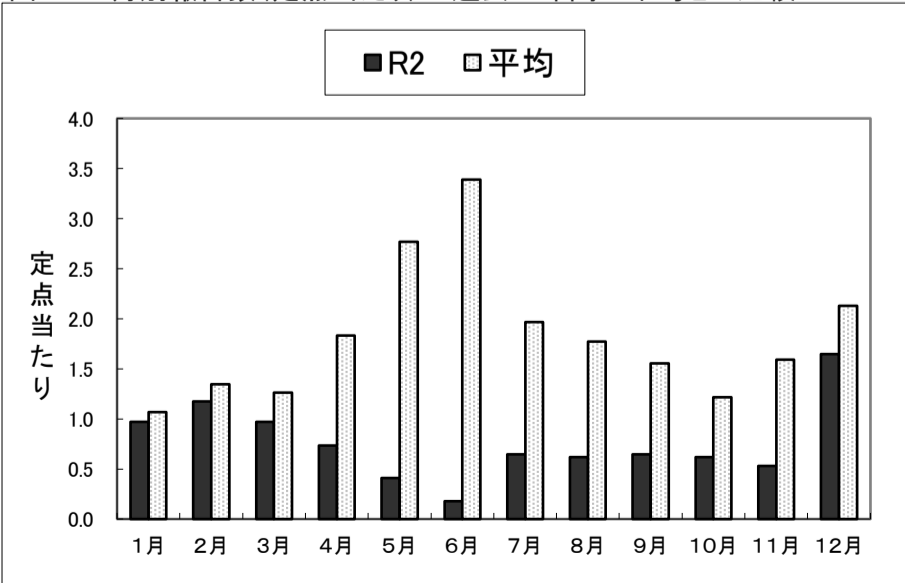


コメント

- ・定点当たりの咽頭結膜熱の報告数は、全国的に減少しており、奈良県においても9.15と昨年よりも低下し、全国31位であった。
- ・保健所別の定点当たりの報告数は、中和(西)保健所が16.50と最多で、次いで吉野15.50、中和(東)10.14の順であった。
- ・月別では、定点当たりの報告数は、12月が1.65と最多であり、次いで2月が1.18と多かった。4月～6月にかけては漸減したが、7月以降はまた少し増加し、以後11月まではほぼ横ばいであった。

(新川 邦浩 記)

図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



4.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

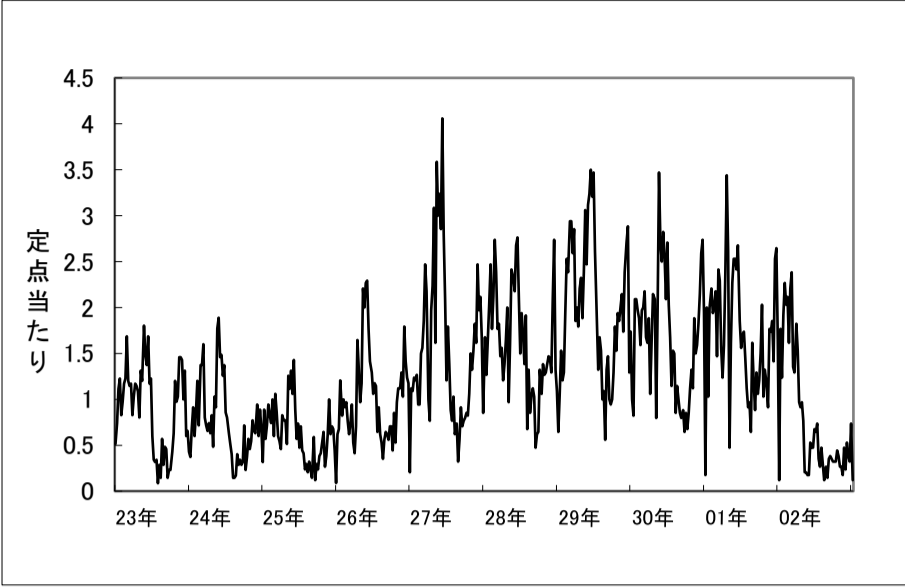


図 4-5 週別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較

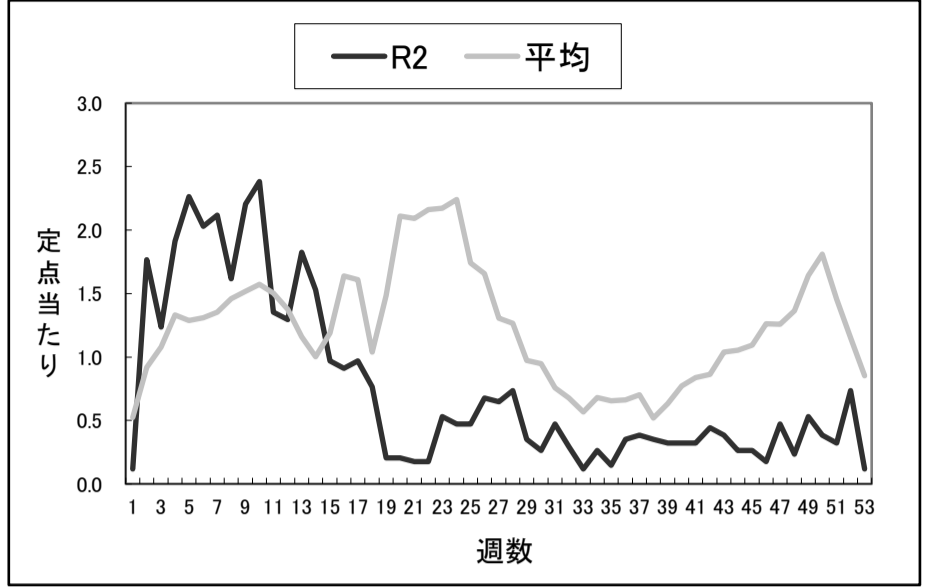


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点あたり報告数および奈良県の全国順位

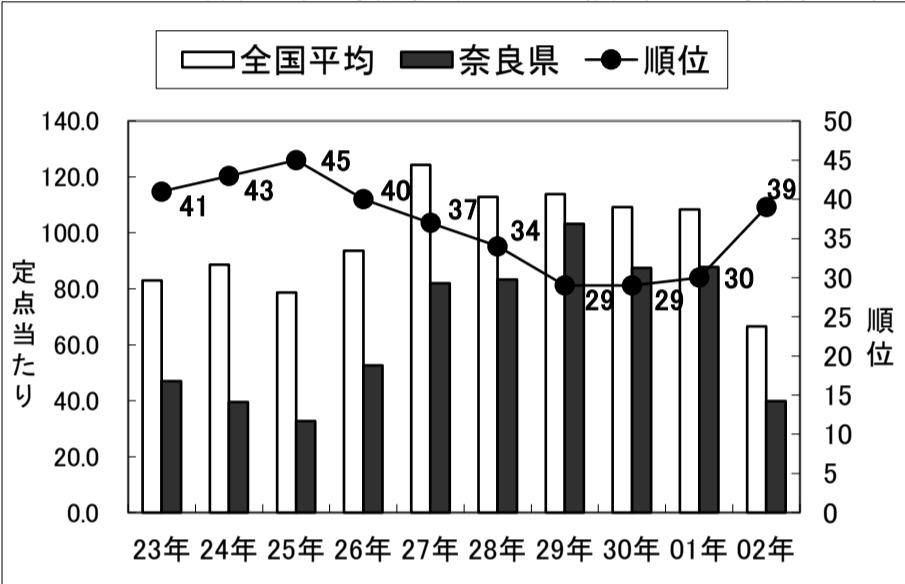


図 4-6 年齢別報告数(実数)

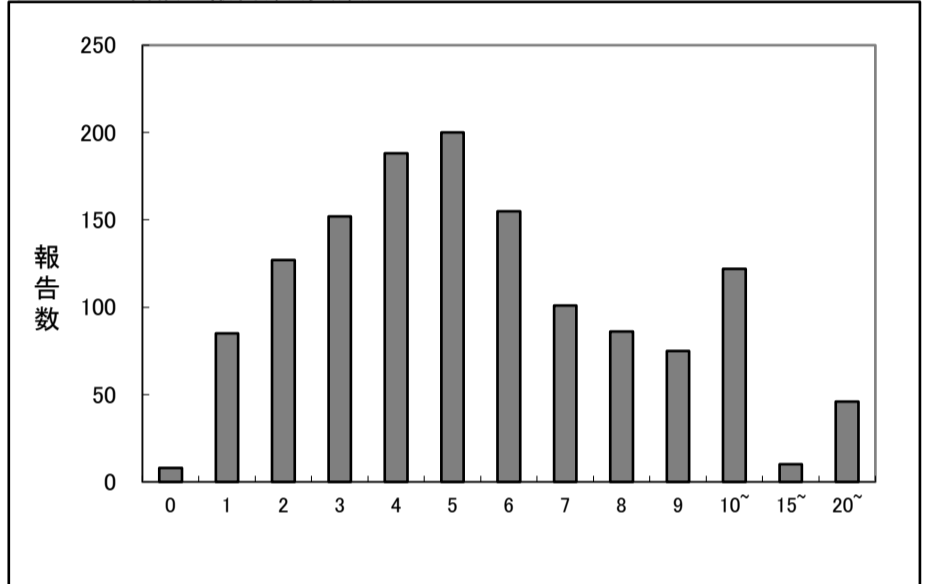


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点あたり報告数

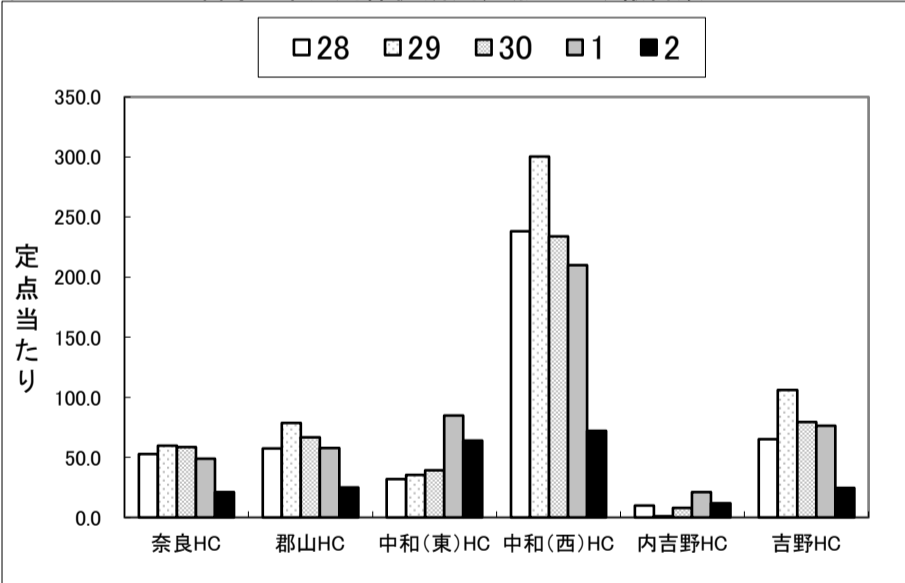
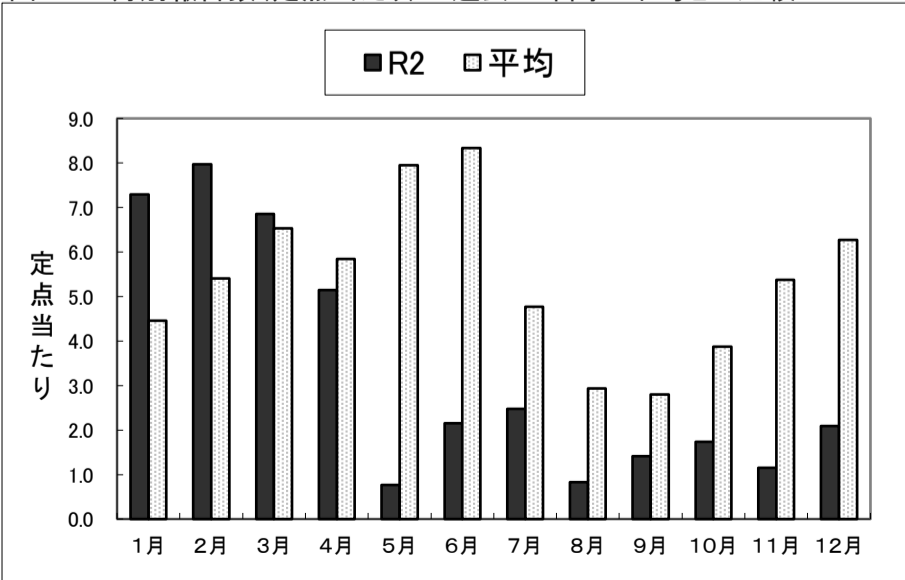


図 4-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年における奈良県の全報告数は1,355例、定点あたり39.85で令和元年の半分以下であった。定点あたりの全国平均(66.50)も前年の6割ほどであったが、奈良県はそれよりも少なくなった。

過去10年間の定点あたり報告数を見ると、平成27年以降全国的に報告数が多くなっていたが、令和2年は全国平均も過去10年間で最も少なく、奈良県では平成24年と同程度で、全国順位は39位である。

保健所別定点あたりの報告数では、例年と同様、中和(西)でもっとも報告数が多く(72.00)、中和(東)(63.86)、郡山(24.89)、吉野(24.50)、奈良市(21.22)、内吉野(12.00)と続くが、中和(東)、内吉野以外では令和元年の半数以下にまで減少した。

月別定点あたり報告数は、昨年同様、過去10年間の平均より4月以降は少なく、5月以降は過去10年間のほぼ半数にまで減少し、毎年みられる夏場のピークがなかった。新型コロナウイルス感染拡大に対する緊急事態宣言が出されて以降、マスク着用などの個人防御策の実行や、人と人との接触機会が減ったためと考えられる。

週別においては、過去10年間より早く10週にピーク(定点あたり2.38)を認めるが、それ以降は例年の半数以下となった週が多く、これも新型コロナウイルス感染対策による個人防御策の励行と接触機会の減少によるものであろう。

年齢別の実報告数では5歳(200例)をピークにほぼ一峰性に分布し0歳から9歳までの年代で全体の86.9%を占め例年通りだった。

(小児科定点の疾患別でみると、幼児期・学童期では感染性胃腸炎に次ぎ、罹患数は多い。)

(水野 文子 記)

5. 感染性胃腸炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

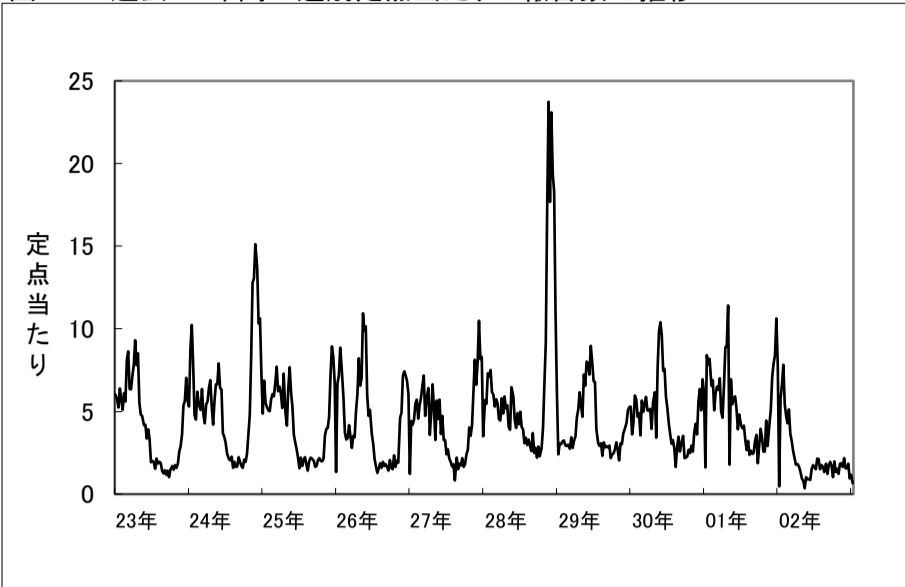


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

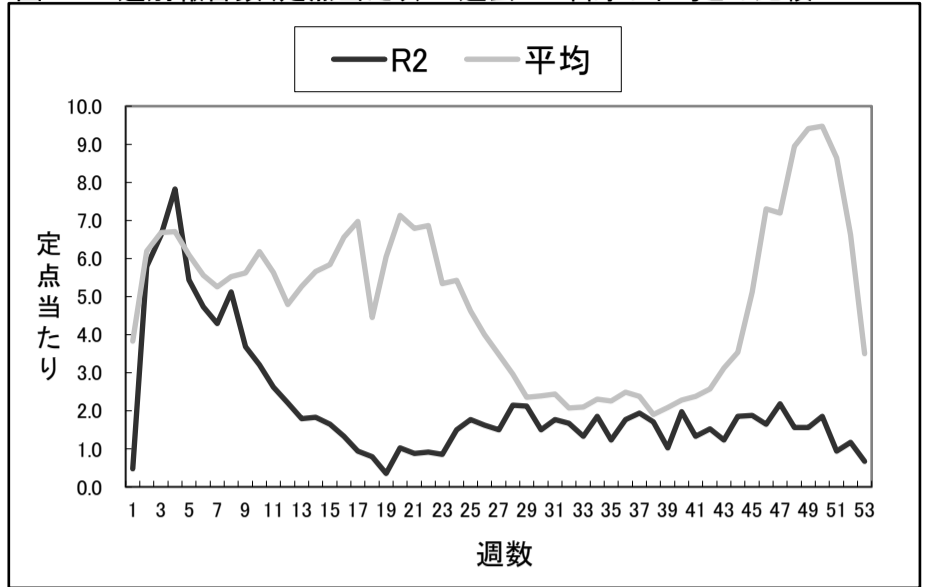


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

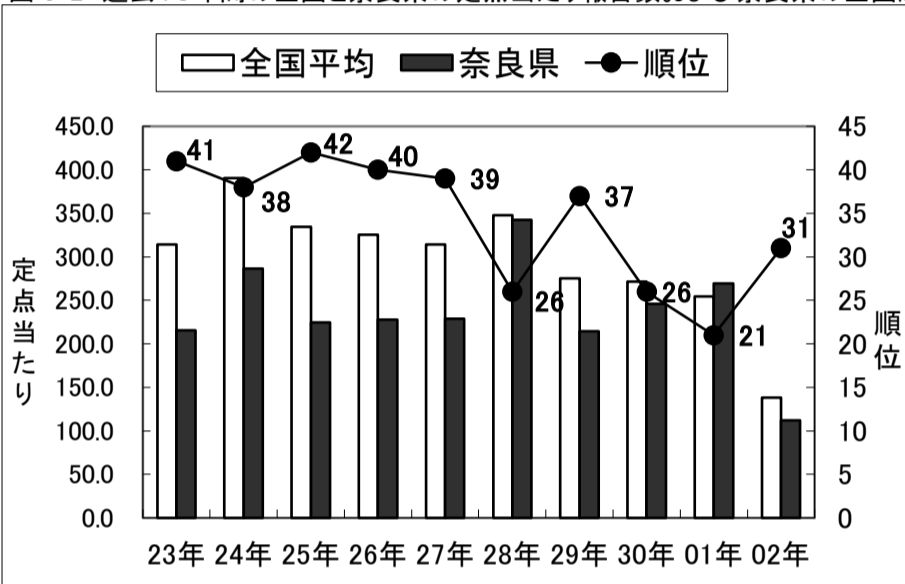


図 5-6 年齢別報告数(実数)

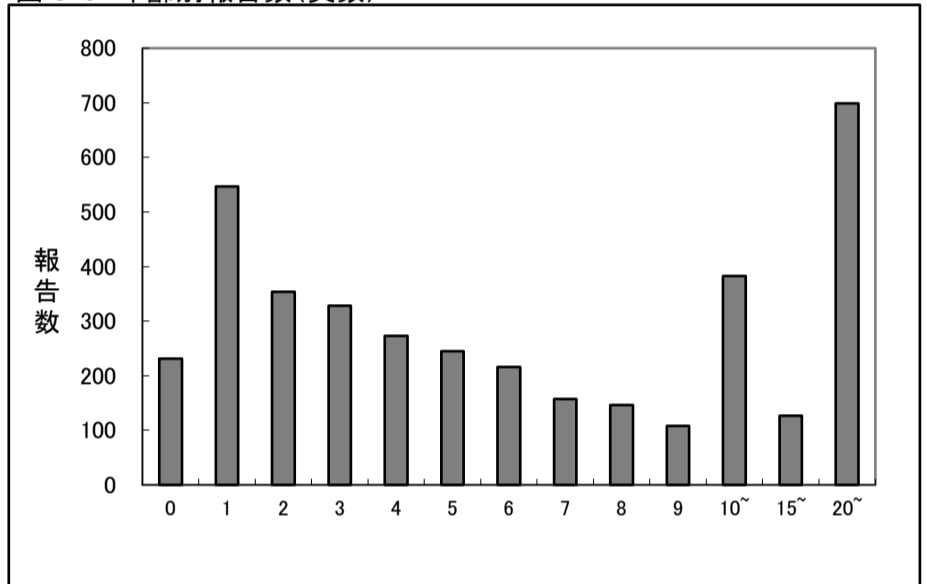


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

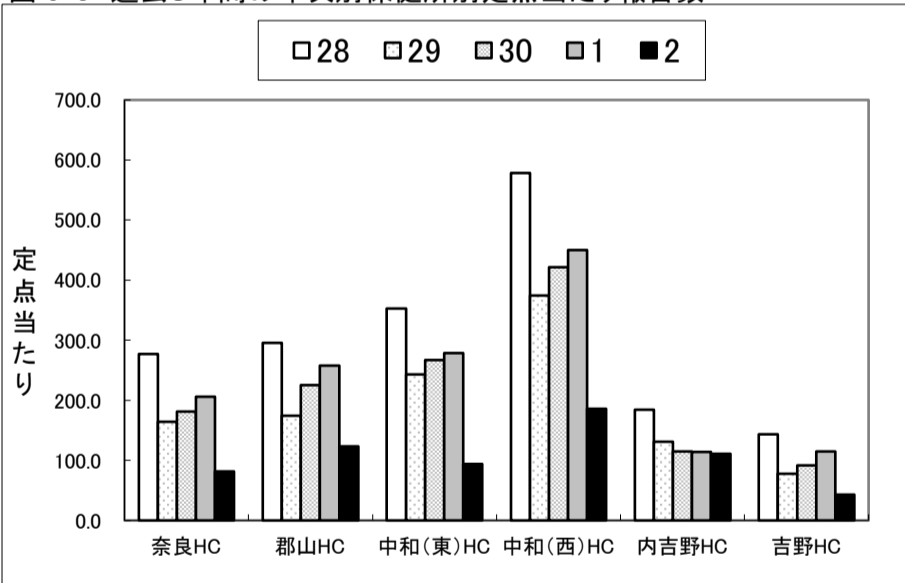
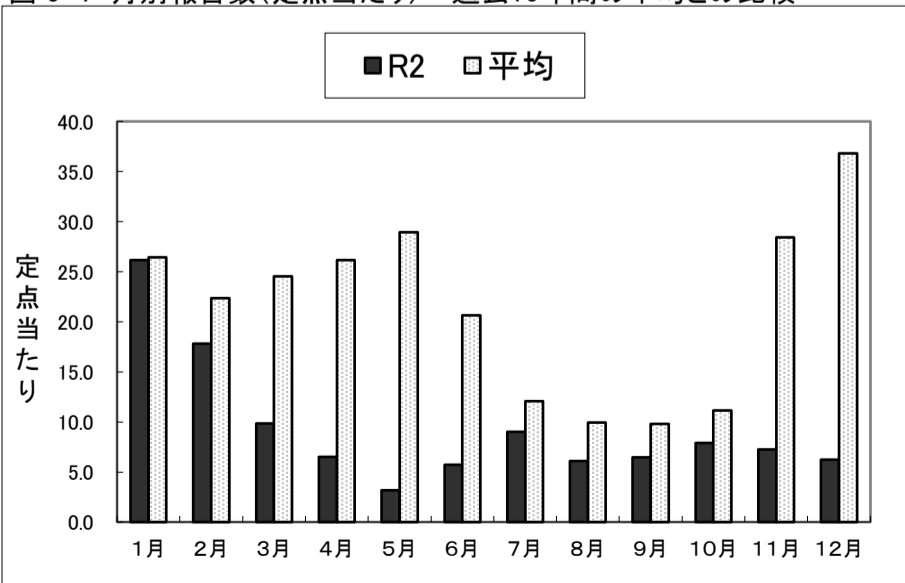


図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年における奈良県の全報告数は、3,814例、定点あたり報告数は112.18で、令和元年(269.65)の半数以下で、全国の定点あたり報告数(令和2年138.14、令和元年254.38)と同じ傾向であった。

過去10年間でみると、令和2年は、最も報告数は少なく、全国的にも過去最低の報告数だった。順位は31位であった。

保健所別定点あたりの報告数は、多い方から、中和(西)(185.67)、郡山(123.11)、内吉野(111.00)、中和(東)(94.00)、奈良市(81.89)、吉野(43.00)、の順で、平成29年以降増加傾向にあったが、内吉野以外は令和元年の半数以下となり、新型コロナウイルス感染症対策としての手洗いなどの衛生習慣の励行、学校や幼稚園の休校休園、飲食店の営業自粛等が感染者数の減少に繋がったと考えられる。

月別定点あたり報告数を見ると、1月が最も多く(26.15)で、過去10年間の平均と同等であったが、それ以降漸減し、過去10年間で見られた夏場に向けての報告数増加や冬場のピークも認められず、12月まで過去10年間の平均以下で推移した。新型コロナウイルス感染症対策としての衛生習慣の励行、外食機会の減少等の影響と考えられる。

週別定点あたり報告数は、令和2年は4週(7.82)にピークが認められ、その後例年認められる夏場と冬場のピークもなかった。新型コロナウイルス感染症対策としての緊急事態宣言発出後しばらくは発生が抑えられていたがそれ以降定点あたり1.0~2.0前後で推移した。新型コロナウイルス感染症対策として接触機会が減少し、集団発生例も少なかったことがピークなしに繋がったと考えられる。

年齢別報告数は、例年と同様、1歳(547例)が最多、0歳(231)、2歳(354)、3歳(328)、4歳(273)、5歳(245)と乳幼児期で全体の51.9%を占めている。20~29歳の成人の報告数(699)は全体の18%を越え、その割合が増加している。

令和2年10月1日からは、ロタウイルスワクチンの定期接種が開始された、今後低年齢児を中心に報告数の減少が期待される。

(水野 文子 記)

6.水痘

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

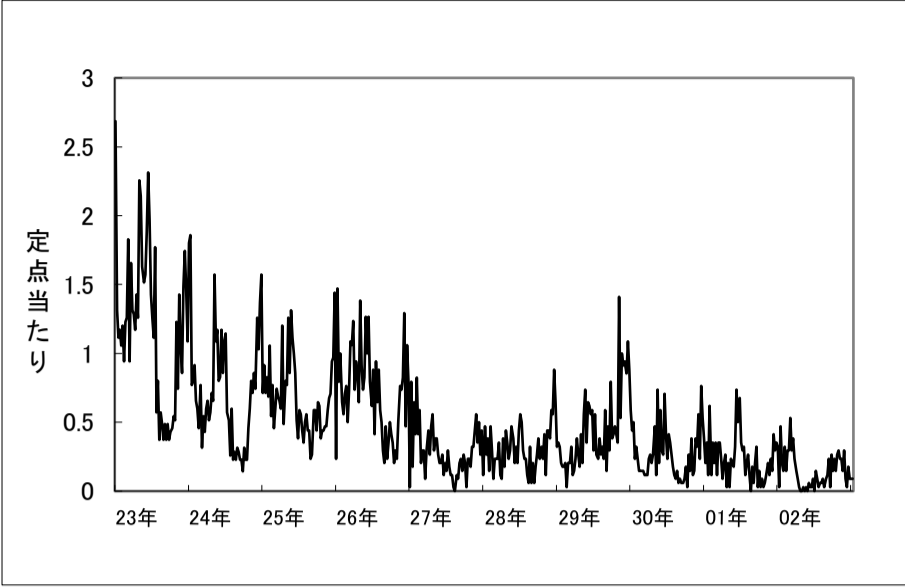


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

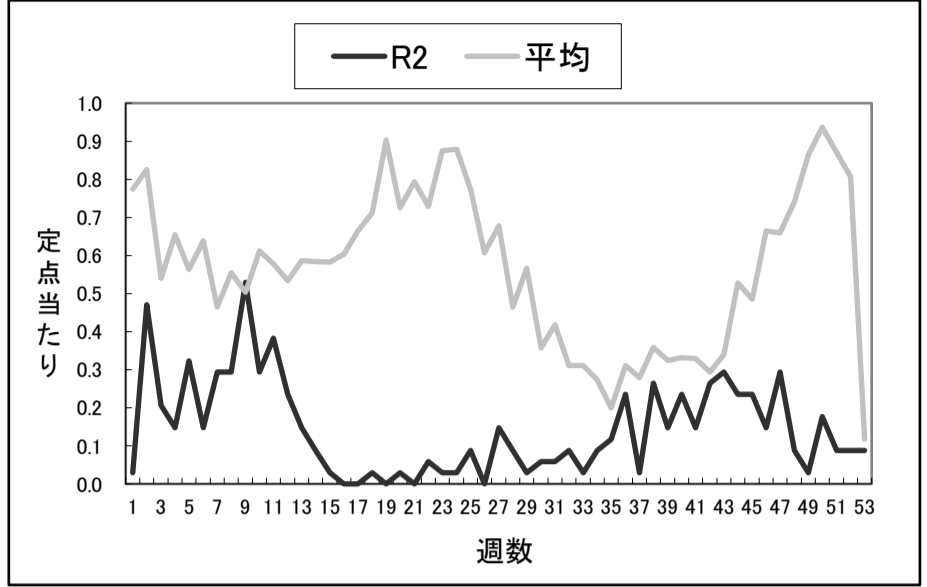


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

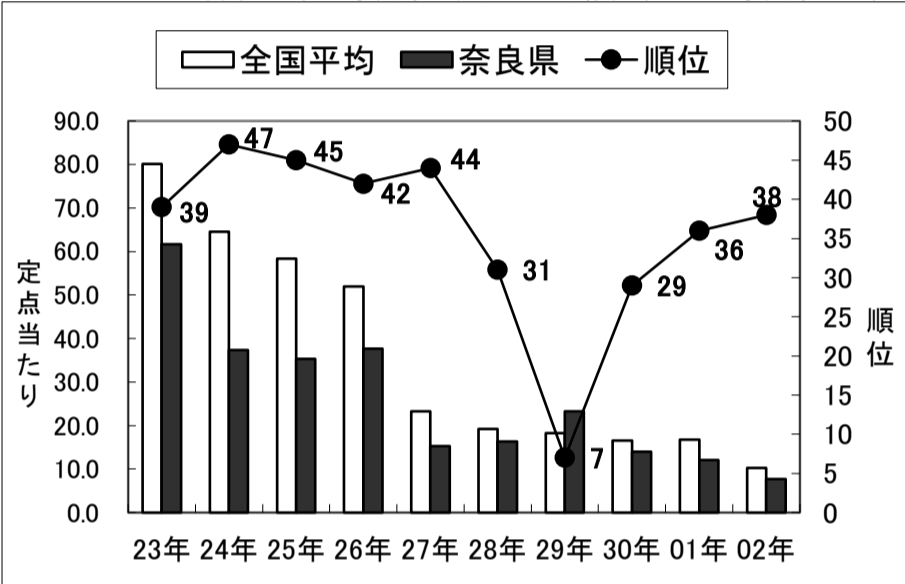


図 6-6 年齢別報告数(実数)

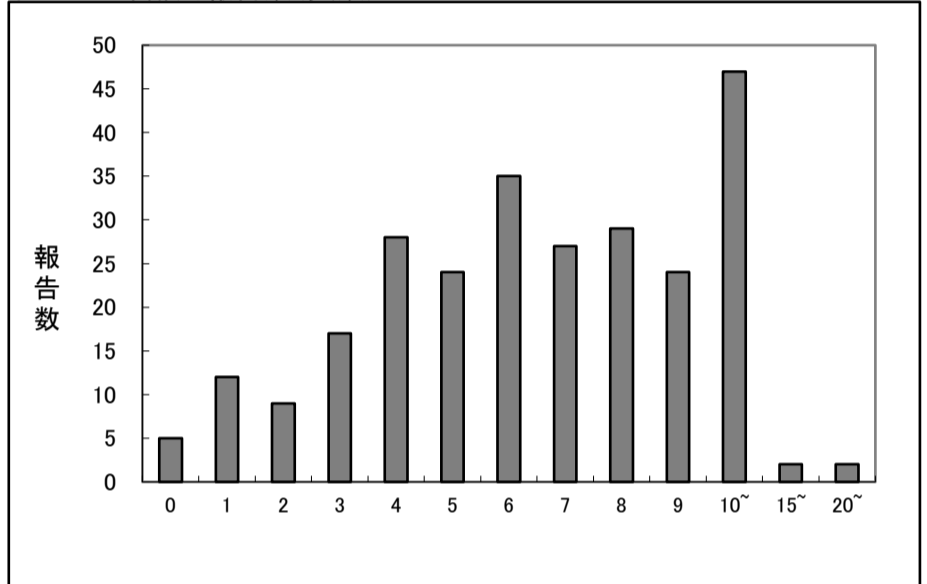


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

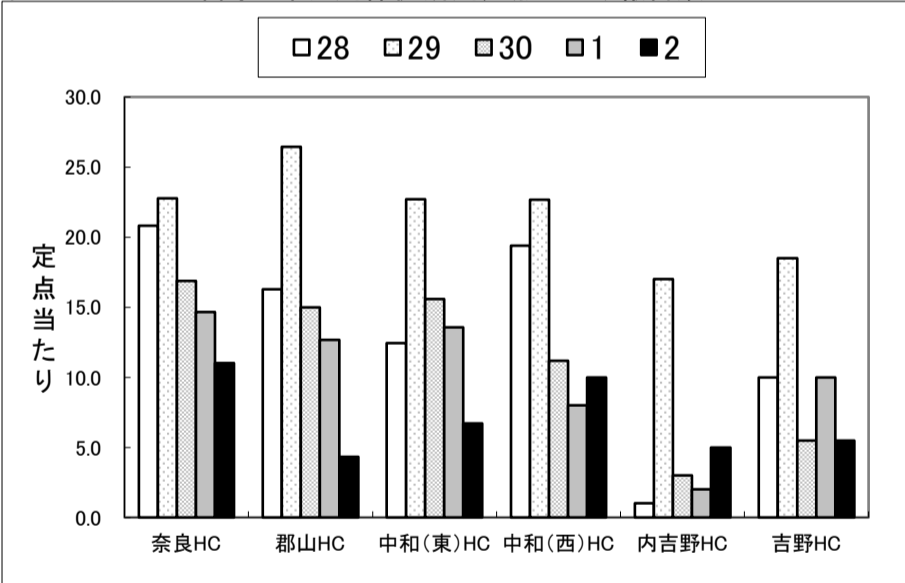
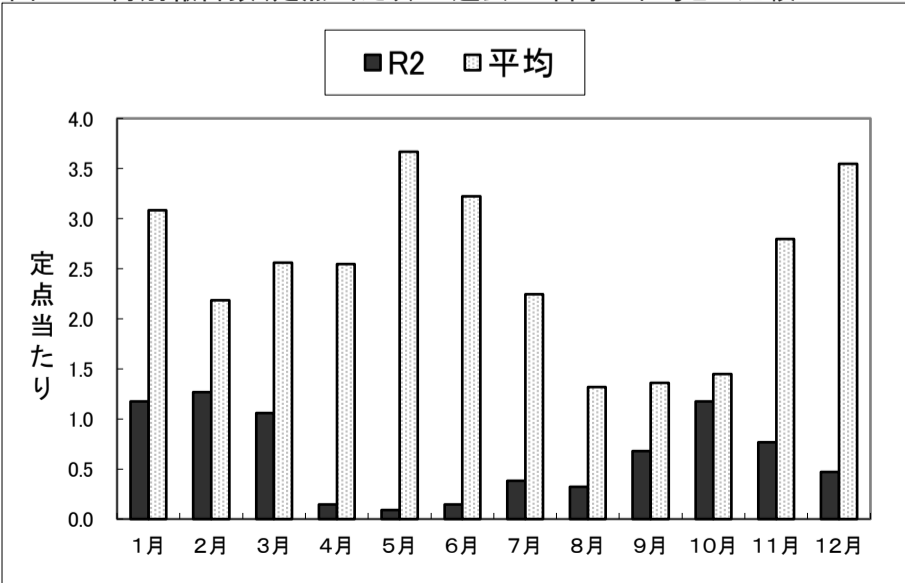


図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年の全報告数は261例、定点あたり報告数は7.68で令和元年(12.09)より減少した。全国的にも令和元年(16.72)から令和2年(10.21)と減少していた。

過去10年間の推移を見ると、平成29年は全国平均を上回って増加したが、以後漸減し、令和2年は最も少なくなった(定点あたり報告数7.68)。順位は38位。

保健所別定点あたり報告数は、中和(西)(10.00)と内吉野(5.00)が前年より増加し、奈良市保健所(11.00)、中和(東)(6.71)、郡山(4.33)、吉野(5.50)はいずれも減少、郡山は半数以下になった。

月別の定点あたり報告数はすべての月で過去10年間の平均より下回り、2月(1.26)と10月(1.18)の小ピークが見られた。特に夏場のピーク消失は、新型コロナウイルス感染症対策としての衛生習慣の励行や、緊急事態宣言発令後の接触機会の減少によると考えられる。

週別の定点あたり報告数は、例年夏と冬に増加する傾向があったが、新型コロナウイルス感染症対策の影響で夏のピークがなく、40週以降のピークもなかった。第9週以外のすべての週で過去10年間の平均を下回った。

年齢別報告数(実数)は6歳(35例)がピークで、4歳(28例)、5歳(24例)、7歳(27例)、8歳(29例)で20例を超え、全体にピークが右にシフトし、ワクチン定期接種の効果と考えられる。10歳以降の年代では小児科でなく内科・皮膚科に受診する場合もあり、小児科定点としてのデータに全て反映されているとは限らない。

3歳以下は、3歳(17例)、2歳(9例)、1歳(12例)、0歳(5例)で、16.5%を占め、昨年の30.7%から減少した。1回接種児でのbreakthrough varicella発症もあることから、引き続き多くの児がワクチン2回目接種を完了するまで、動向をみていきたい。

(水野 文子 記)

7.手足口病

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

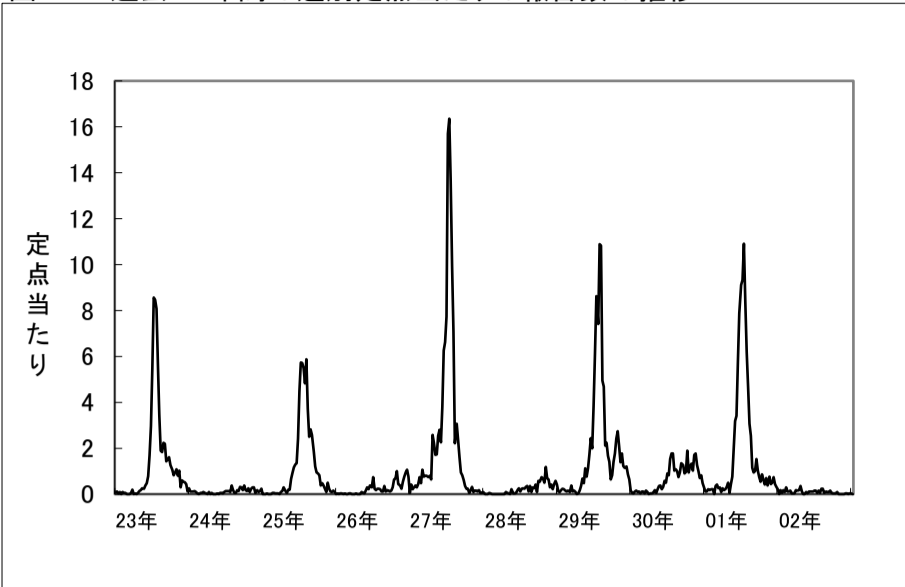


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

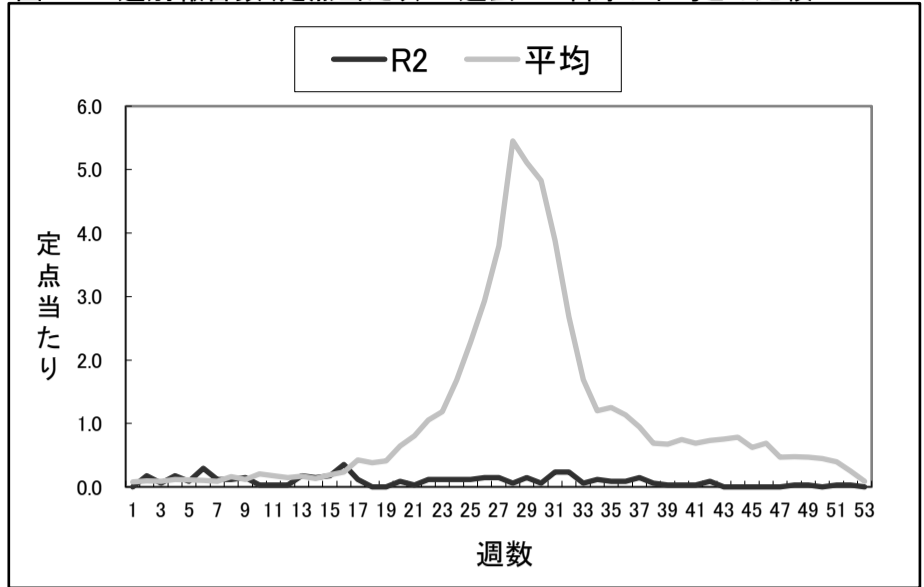


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

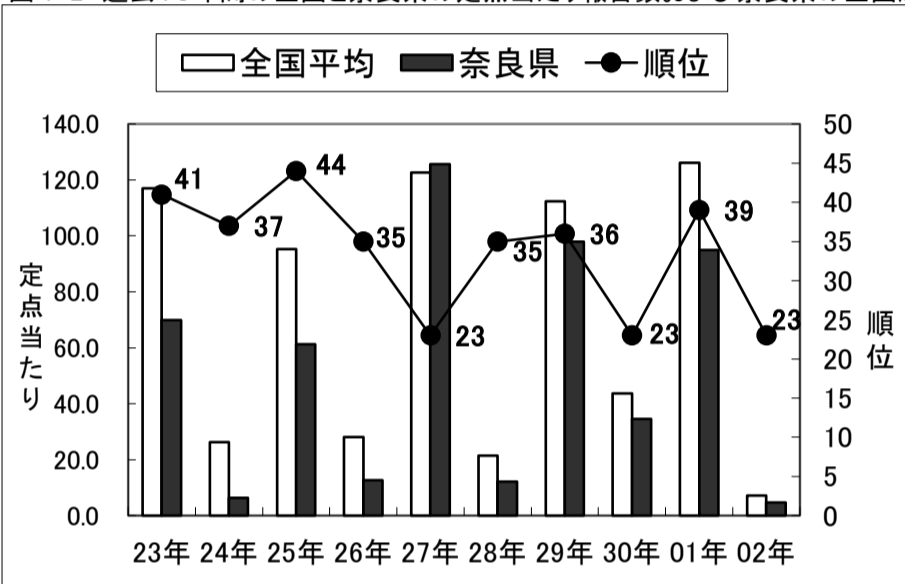


図 7-6 年齢別報告数(実数)

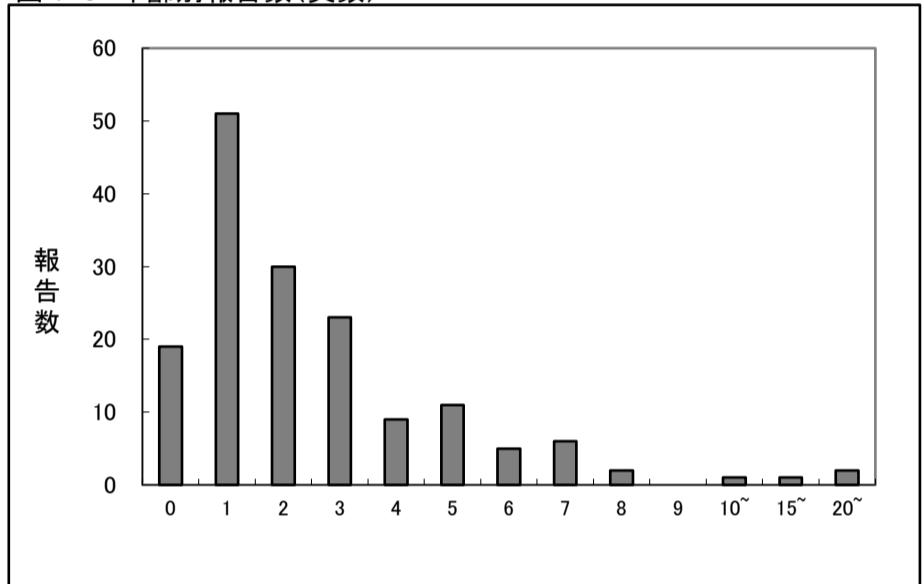


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

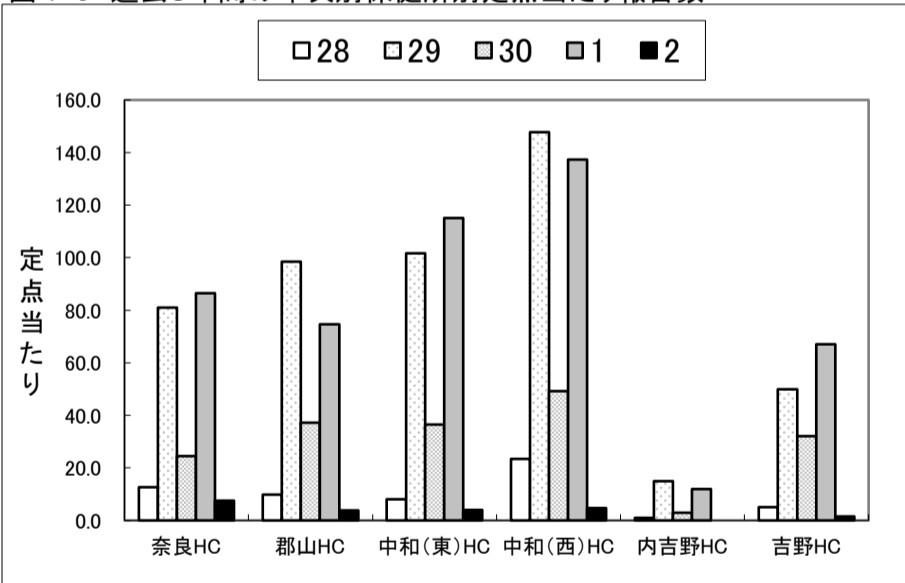
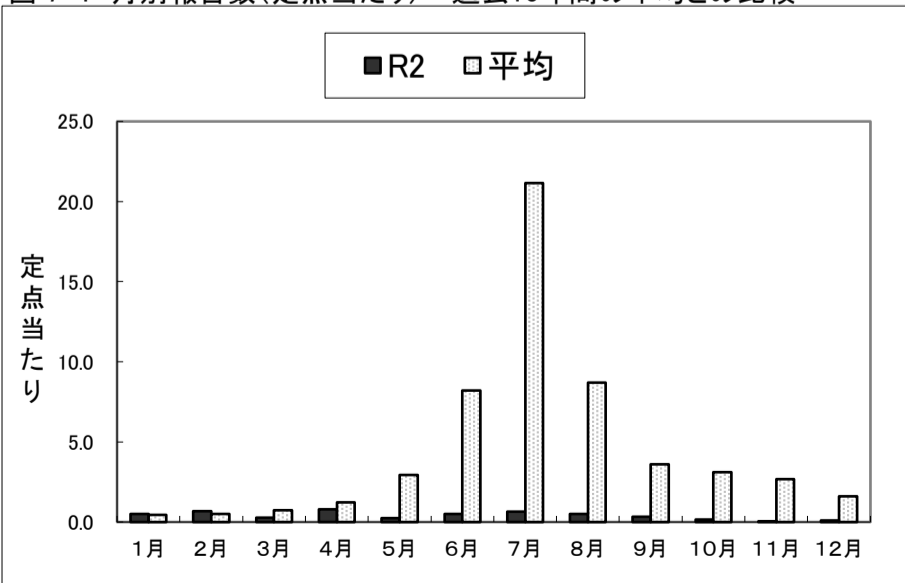


図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

手足口病はこれまで隔年で流行していた。令和2年は非流行の年ではあるが、令和2年での感染者の報告数はどの年代であっても例年の1/10以下であり、COVID-19の流行により各家庭で手指消毒が進み、飛沫感染対策も進んだ事により接触感染・飛沫感染である本疾患は激減したのではないかと考えられる。

例年夏に多い感染症ではあったが、令和2年には夏場に流行がほぼ認められなかった。好発年齢には例年と比較し明らかな変化はない。

各保健所からの報告数を見ても吉野・内吉野保健所管内ではほぼ報告が認められず、その他の保健所でも非常に少ないが、一定数は認められている。令和3年の流行状況を確認する必要がある。

(宇野 健司 記)

8.伝染性紅斑

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

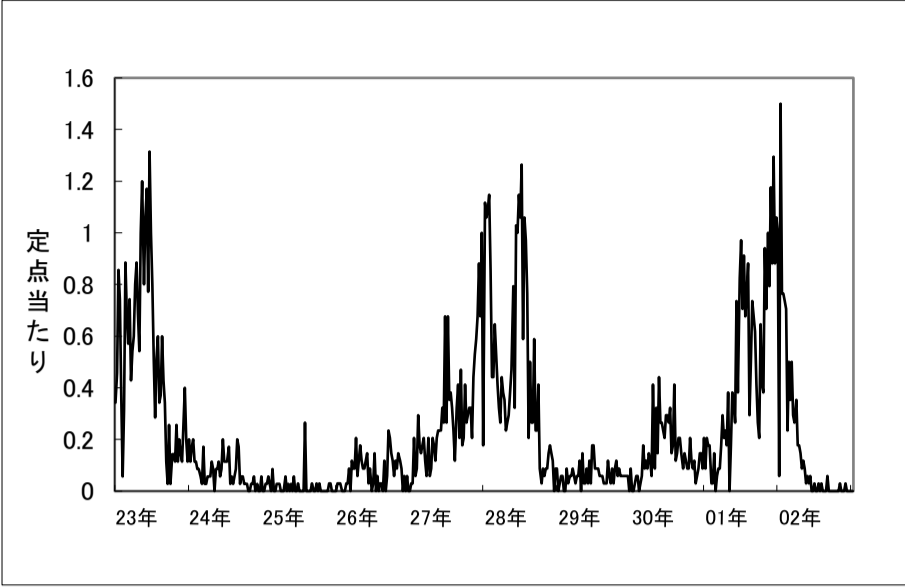


図 8-5 週別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較

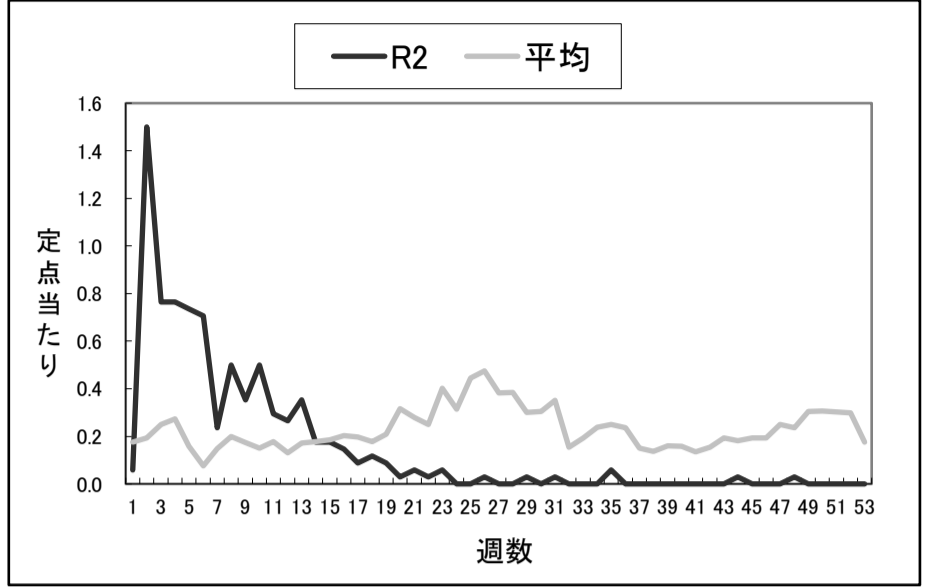


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点あたり報告数および奈良県の全国順位

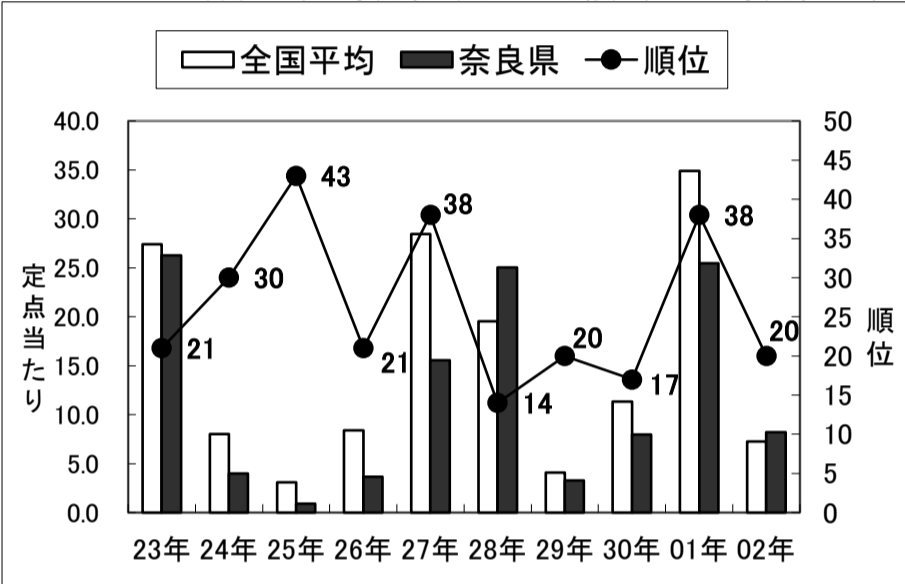


図 8-6 年齢別報告数(実数)

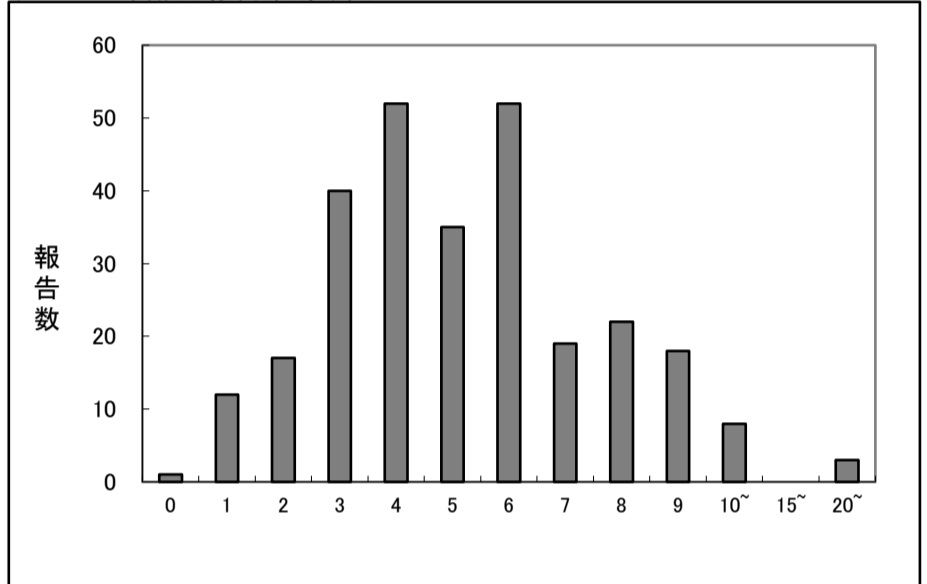


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点あたり報告数

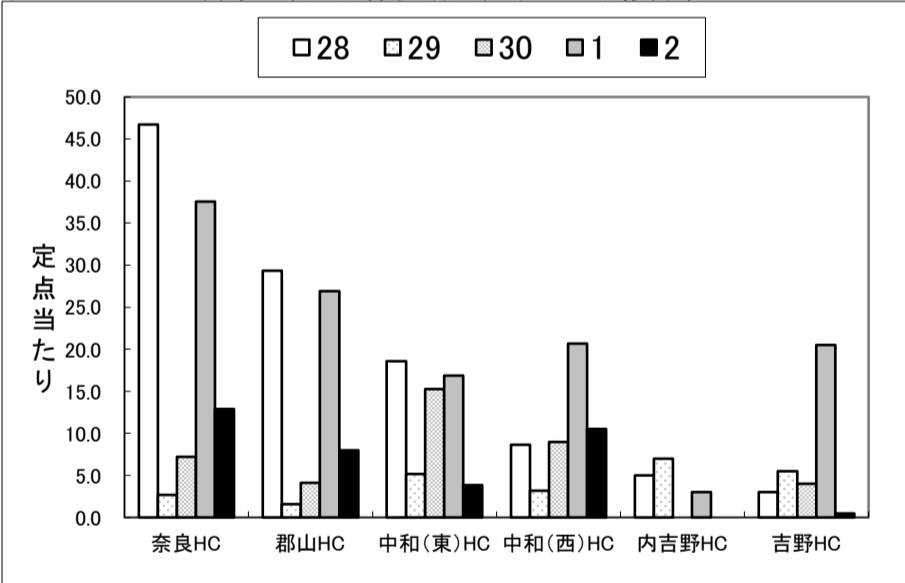
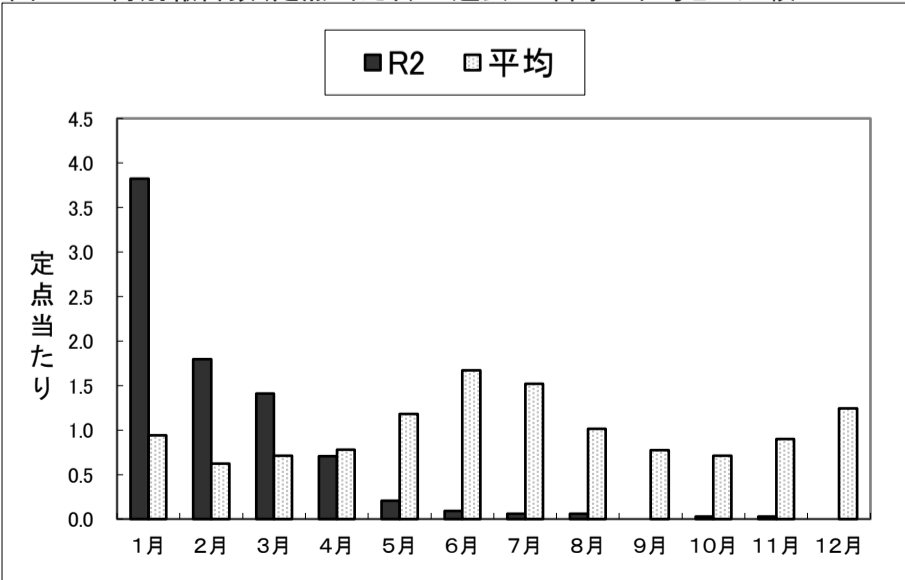


図 8-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

例年と比較し、令和2年における伝染性紅斑の発生数は激減している。特に令和2年第9週あたりからその総数は減少しており、COVID-19流行に伴う飛沫感染対策、接触感染対策が伝染性紅斑の流行を止めている可能性が示唆された。

好発年齢のピークは4～6歳と例年と比較し変化はないが、絶対数自体は全ての年齢に於いて低下している。令和元年では吉野保健所で多かったが令和2年では吉野保健所では減少しており、その他に万遍なく発生していた。

伝染性紅斑は主にヒトパルボウイルスB19による感染症である。ヒトパルボウイルスは赤芽球前駆細胞に感染し破壊する事が有るため、妊婦が初感染で胎児まで感染が及んだ場合、胎児の赤血球は減少し重症胎児貧血による胎児水腫が原因で死産に至る可能性がある。また、流産や子宮内胎児発育遅延の原因にもなり、特に家庭内に好発年齢がいる妊婦は細心の注意を要する。

(宇野 健司 記)

9.突発性発しん

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

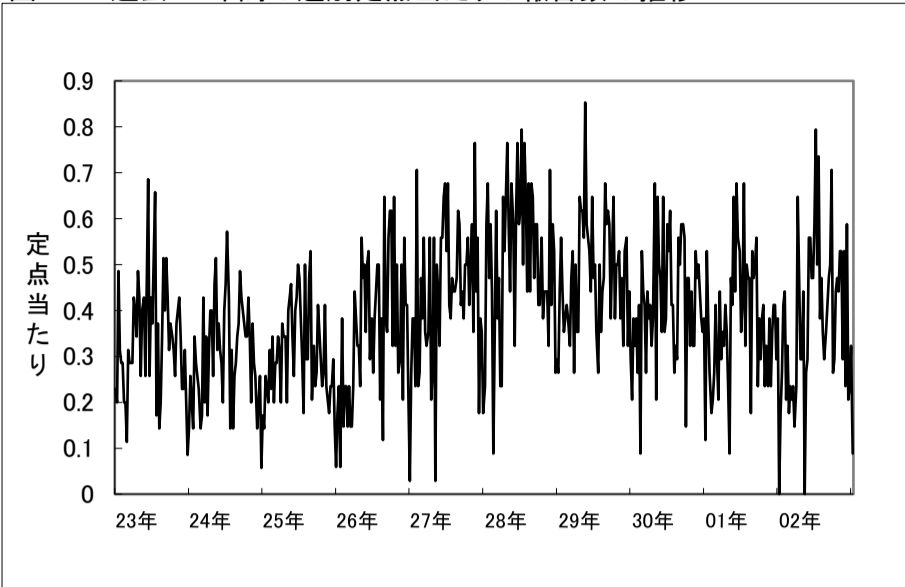


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

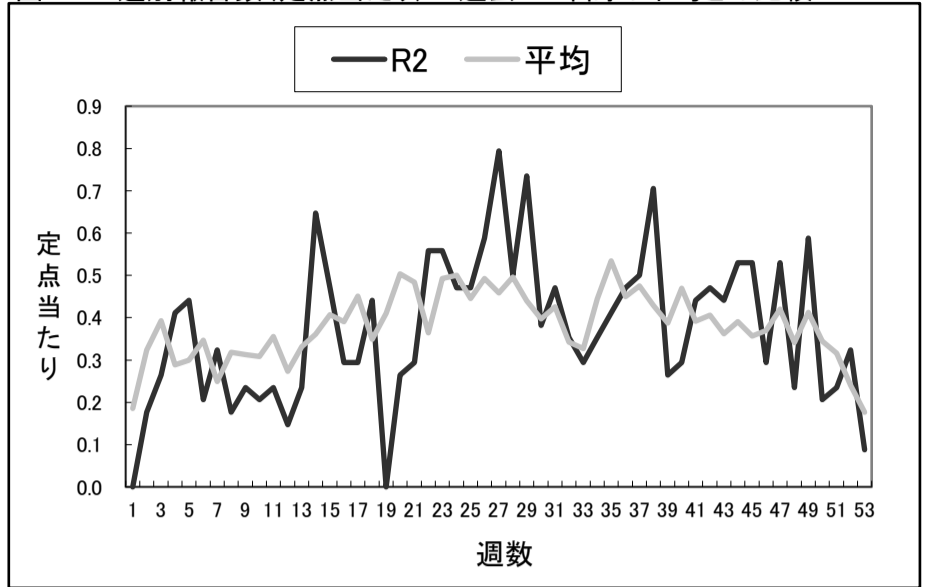


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

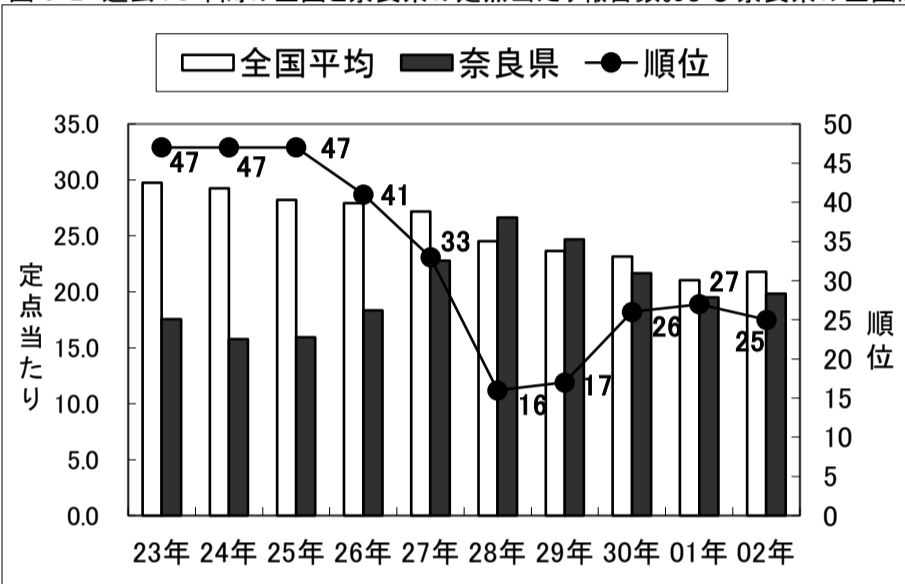


図 9-6 年齢別報告数(実数)

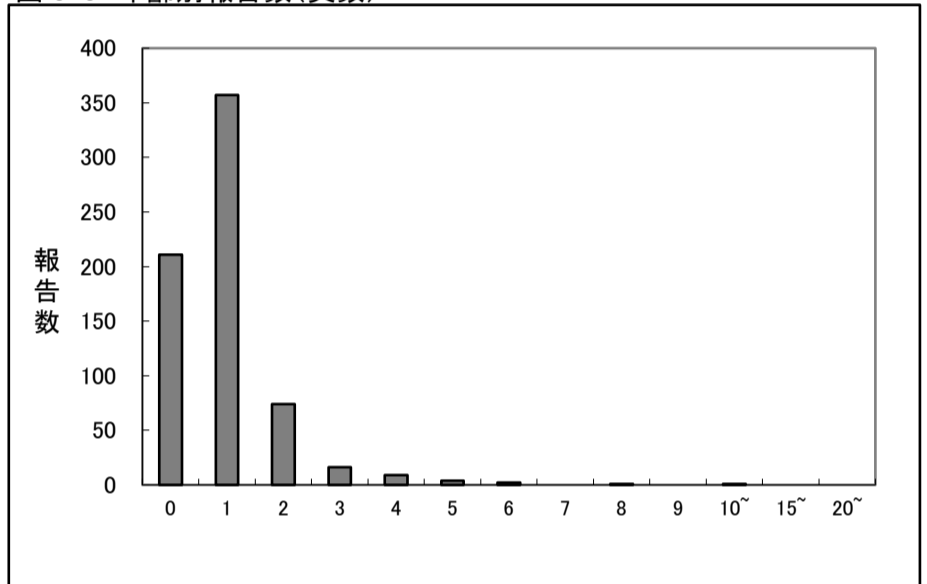


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

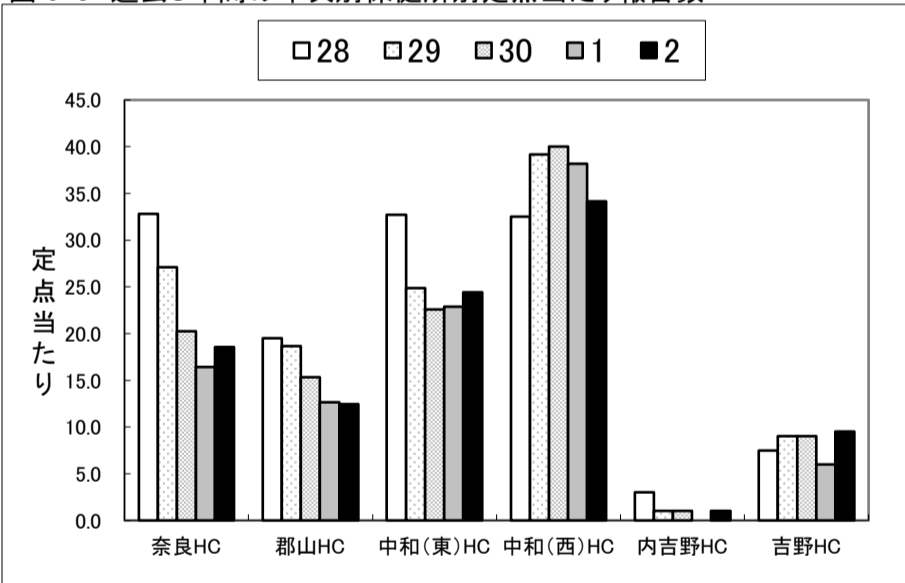
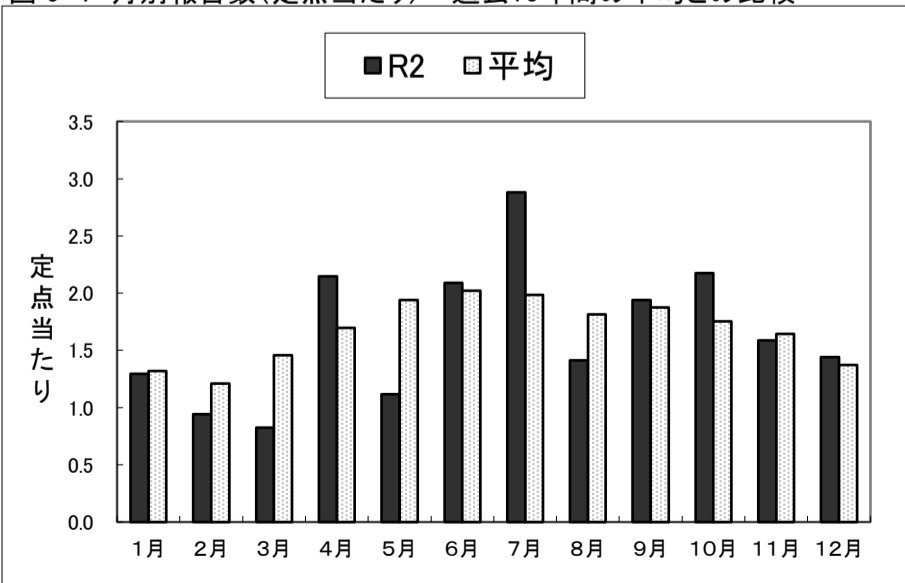


図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年における定点あたりの報告数は19.8(全国平均21.8)で、伝染性単核症、手足口病と異なり例年とほぼ同じような発生数を示した。週別の定点あたりの発生数も例年とほぼ変化はなく、好発年齢も特に例年と変化はなかった。保健所別での定点あたりの報告数も例年とほぼ変化はなかった。

これは、手足口病の原因ウイルスであるコクサッキーやエンテロウイルスと突発性発疹の原因ウイルスであるHHV-6やHHV-7は同じ接触感染・飛沫感染の感染経路を持つが、HHV-6あるいはHHV-7が外的な流行というよりも家族内での感染が考えられる。

HHV-6はそもそも成人では唾液から分泌されている事が報告されており(Human herpesvirus 6: An emerging pathogen. Emerg Infect Dis. 1999; 5(3):353-366.)、親から子への伝播が疑われる。症状は一定の割合で顕在化すると考えられ、それによってCOVID-19でも変わらない発生数であったと考えられる。

(宇野 健司 記)

10.ヘルパンギーナ

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

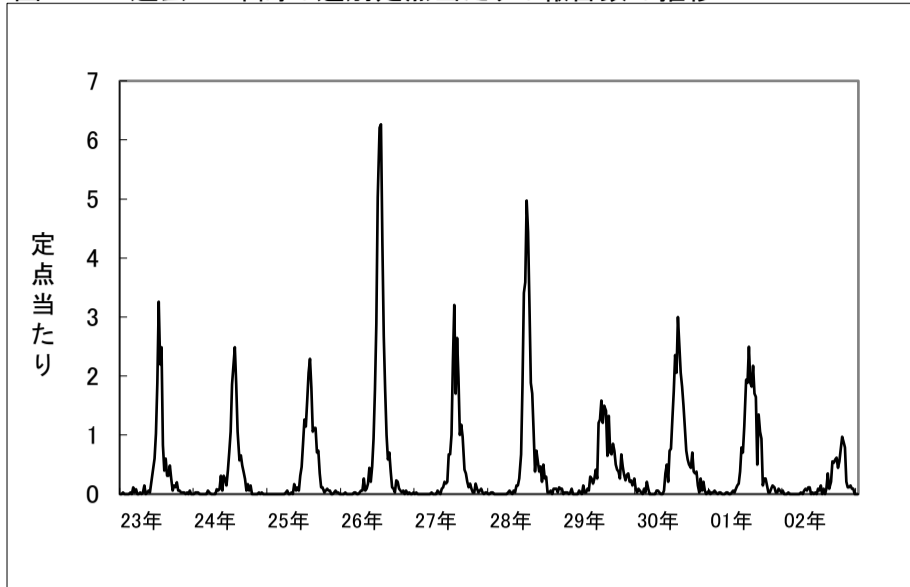


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

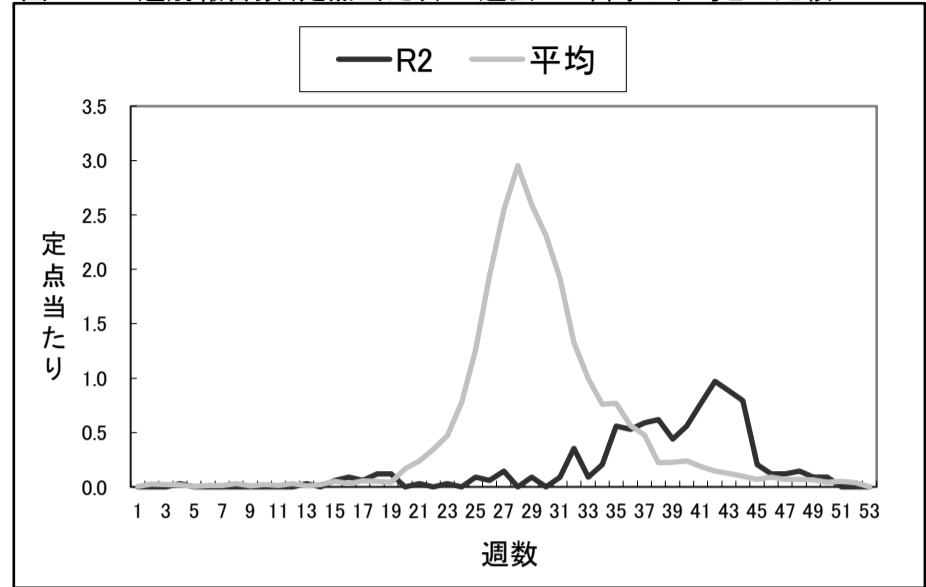


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

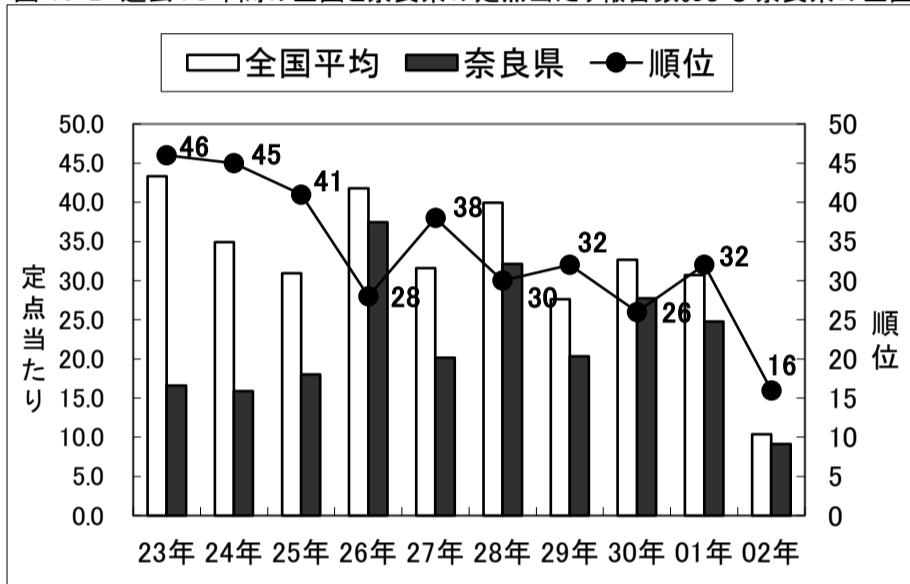


図 10-6 年齢別報告数(実数)

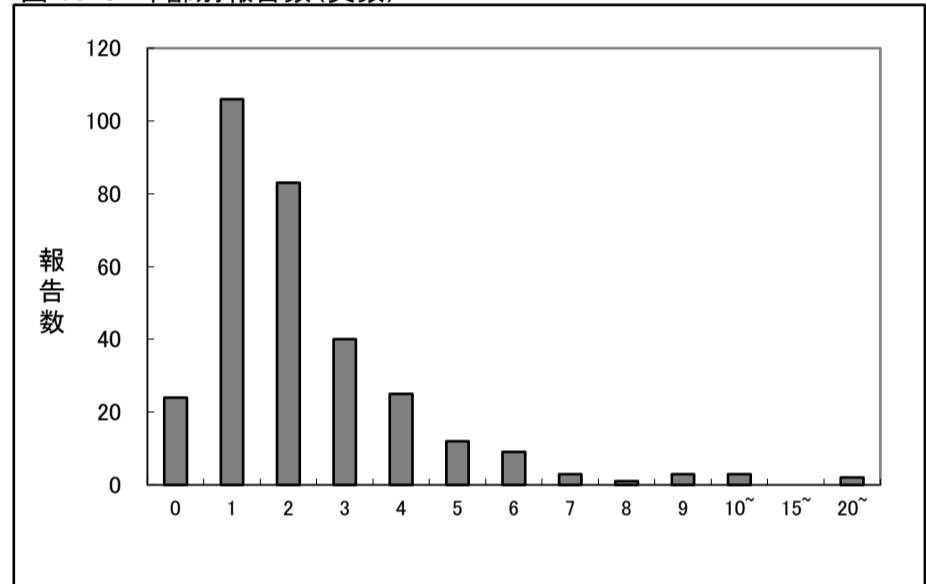


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

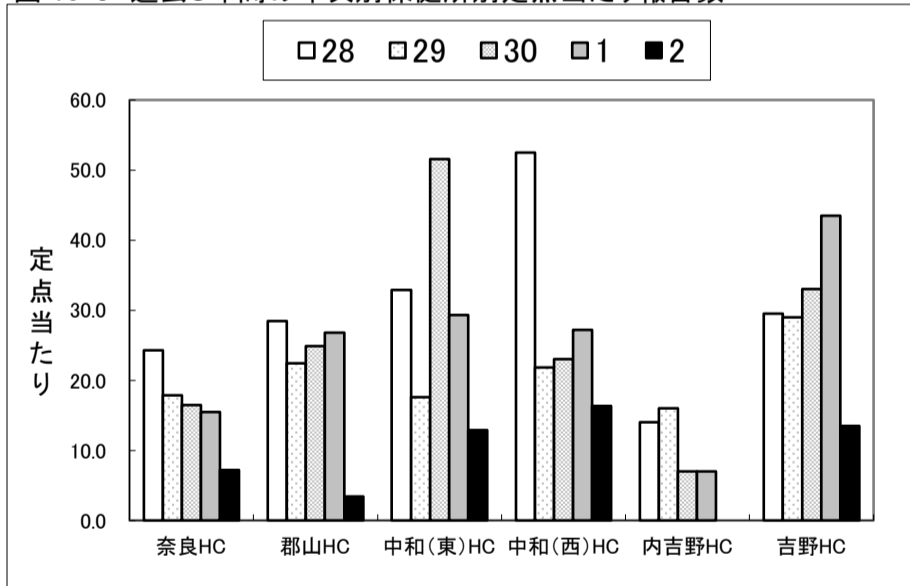
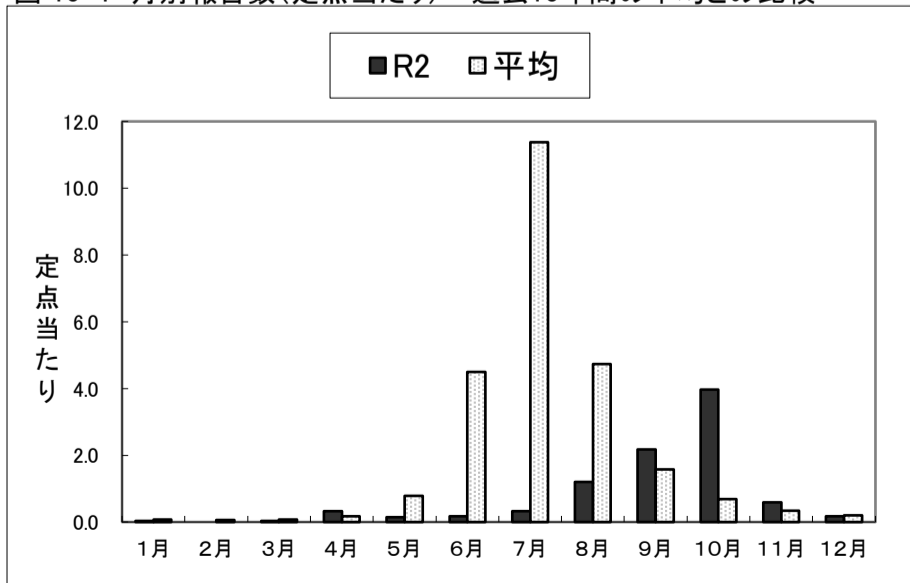


図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

R2の奈良県の報告数は311人(定点当たり9.15)であった。

【図10-1】過去10年間で最大の週は、H26の第29週(定点当たり6.26)(213人)であった。R2では第42週(定点当たり0.97)(33人)で、ピークの高さが過去10年間で最も低い年となった。

【図10-2】奈良県は、H23が定点あたり16.63で全国第46位であったが、R2は奈良県(定点当たり9.15)(全国第16位)と、定点当たりの報告数が過去10年で最少となり、10年連続で全国平均を下回った。

【図10-3】R2は、①中和(西)(定点当たり16.33)、②吉野(定点当たり13.50)、③中和(東)(定点当たり12.86)、④奈良市(定点当たり7.22)、⑤郡山(定点当たり3.44)、⑥内吉野(定点当たり0.00)の順であった。また、同一保健所管内での推移では、6保健所管内の全てにおいてR2が最少であった。

【図10-4】最大の月は、10年平均が7月(定点当たり11.38)で、R2は10月(定点当たり3.97)であった。

【図10-5】最大の週は、10年平均が第28週(定点当たり2.95)で、R2は第42週(定点当たり0.97)(33人)であった。

【図10-6】0歳が24人。1歳が106人で最多であった。以下、8歳(1人)まで年齢が高くなると共に漸減傾向であった。また、年齢階級別報告数は[10-14歳](3人)、[20-29歳](2人)であった。

なお、ウイルス検出状況として、9月にヘルパンギーナ疑い患者1例からライノウイルスA及び単純ヘルペスウイルス1型のウイルスを検出した。

(柳生 善彦 記)

11.流行性耳下腺炎

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

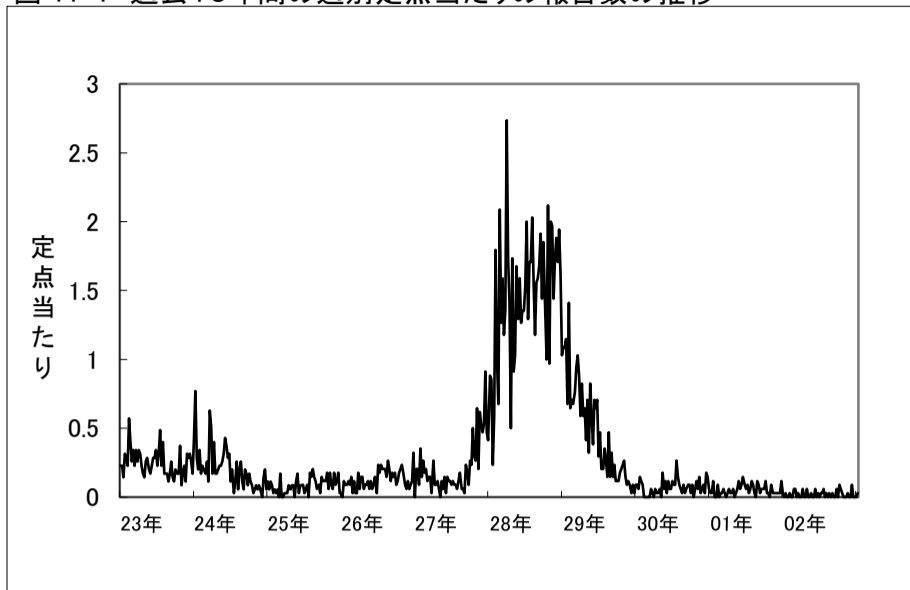


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

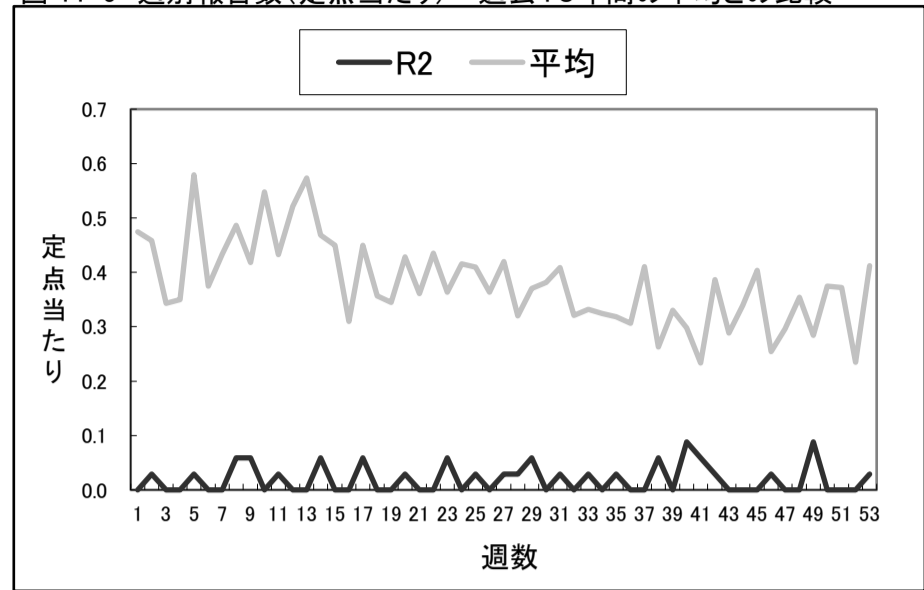


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

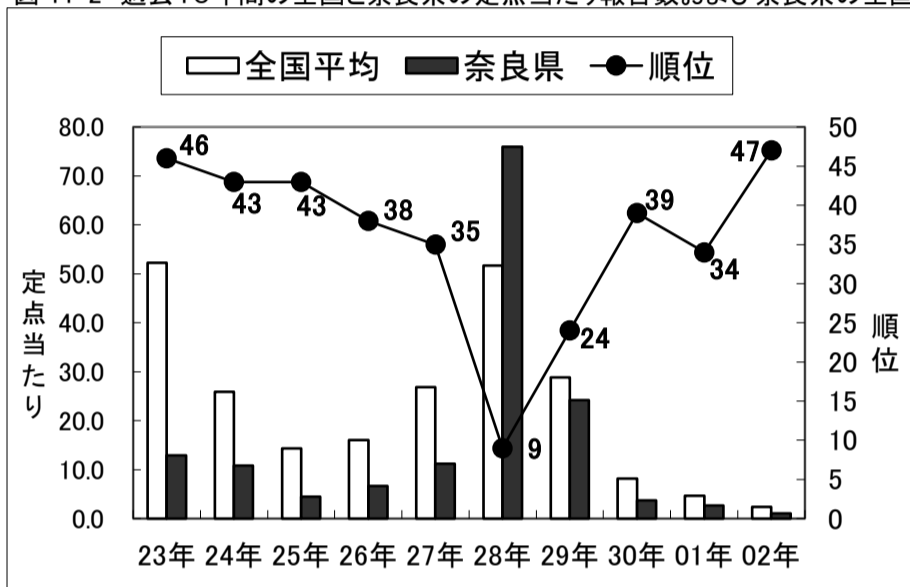


図 11-6 年齢別報告数(実数)

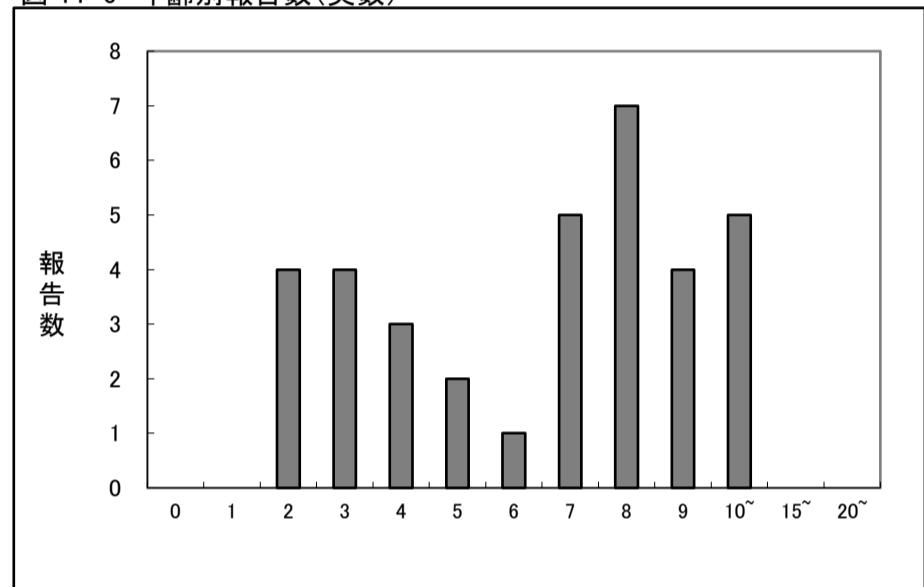


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

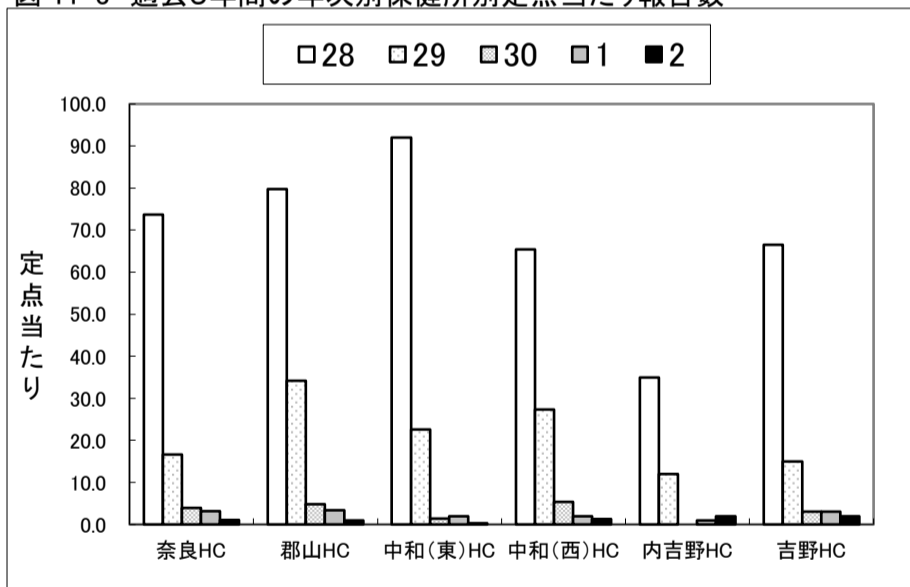
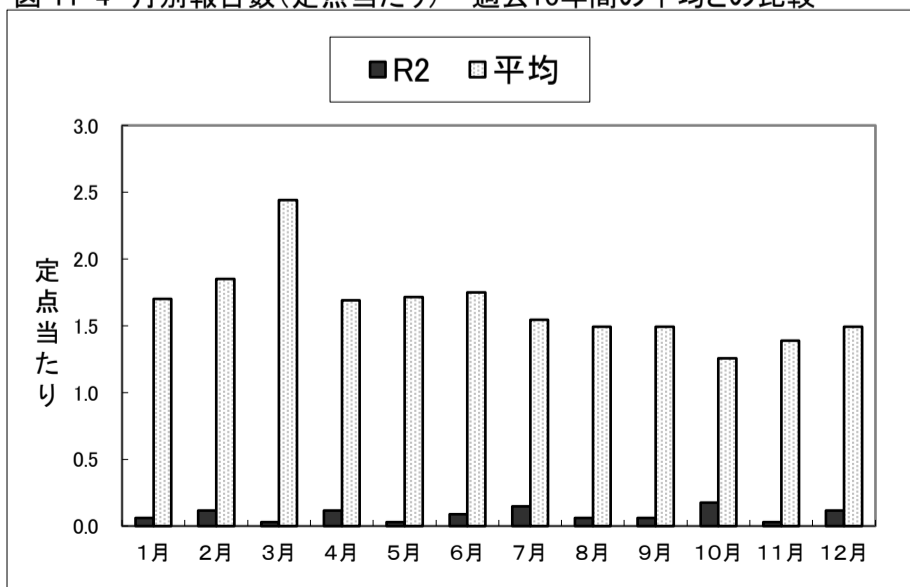


図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

R2の奈良県の報告数は35人(定点当たり1.03)であった。

【図11-1】過去10年間での最大の週は、H28の第13週(定点当たり2.74)(93人)であった。

【図11-2】全国、奈良県共にR2の報告数が過去10年間での最少。そのR2は奈良県(定点当たり1.03)(47位)で、定点当たり報告数で全国平均(2.43)を下回っていた。一方、過去10年間で定点当たりの報告数が、奈良県の方が上回っていたのは、H28(奈良県76.00,全国平均51.71)の1回のみ。

【図11-3】R2の定点当たりの報告数は、①吉野(2.00)、①内吉野(2.00)、③中和(西)(1.33)、④奈良市(1.11)、⑤郡山(1.00)、⑥中和(東)(0.29)の順であった。また、同一保健所管内での過去5年間の推移では、6保健所管内ともH28が最多。一方、内吉野(H30が最少)以外の5保健所管内ではR2が最少であった。

【図11-4】最大の月は、10年平均が3月(定点当たり2.44)で、R2は10月(定点当たり0.18)であった。

【図11-5】週別報告数(定点当たり)について、10年平均では、1年を通して0.23(第41週及び第52週)~0.58(第5週)の上下幅内での推移であった。一方、R2は、0~0.09(第40週及び第49週)の上下幅内での推移であった。

【図11-6】8歳(7人)が最多で、次が7歳(5人)。最少は6歳(1人)であった。年齢階級別報告数は[10-14歳](5人)であった。

(柳生 善彦 記)

眼科定点分

12.急性出血性結膜炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

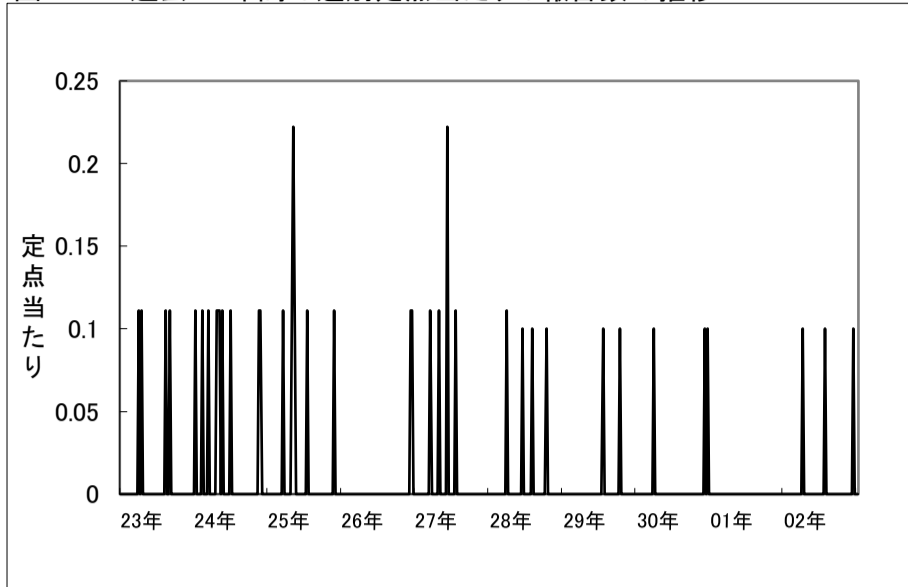


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

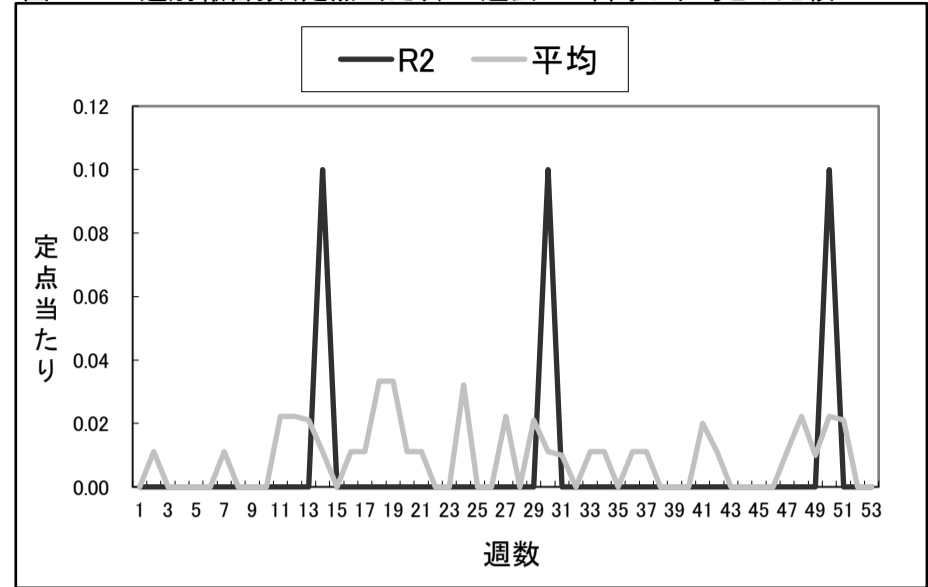


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

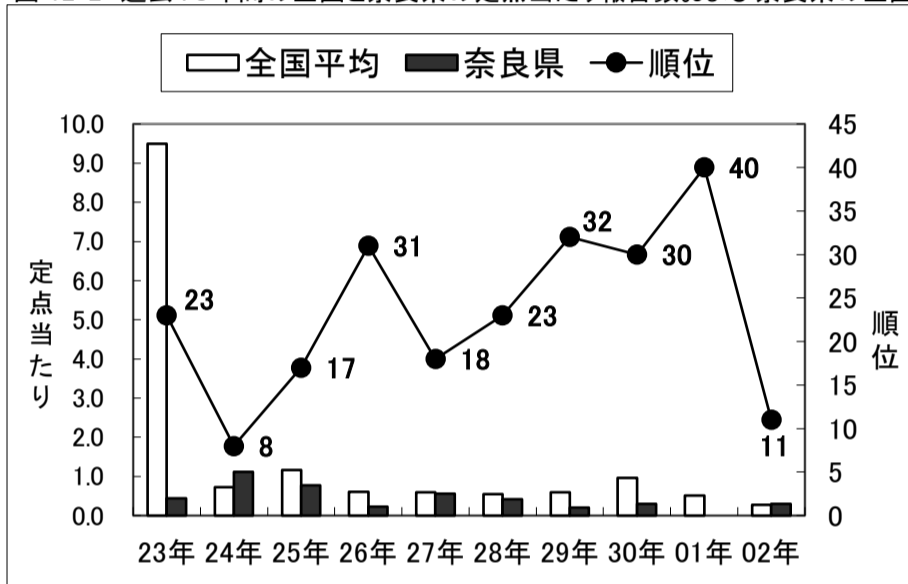


図 12-6 年齢別報告数(実数)

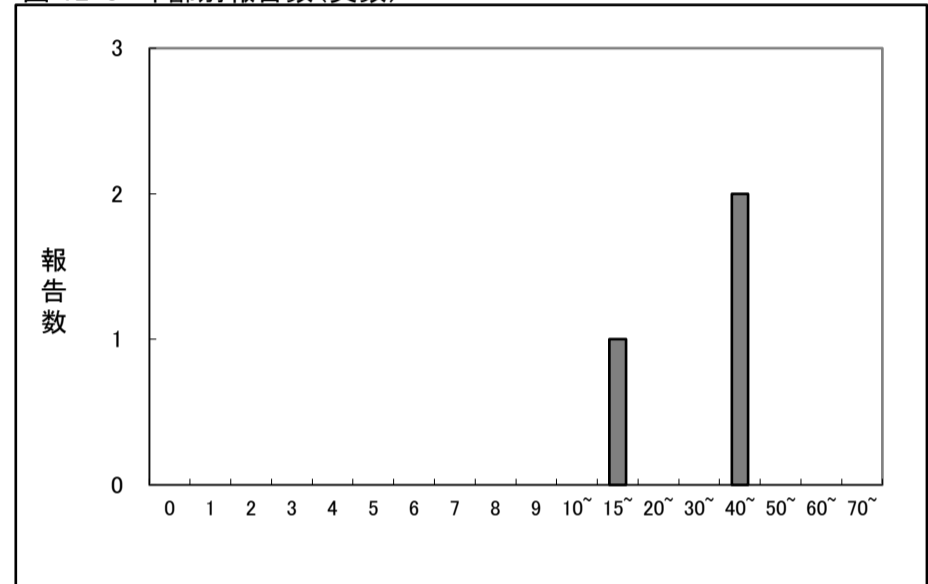


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

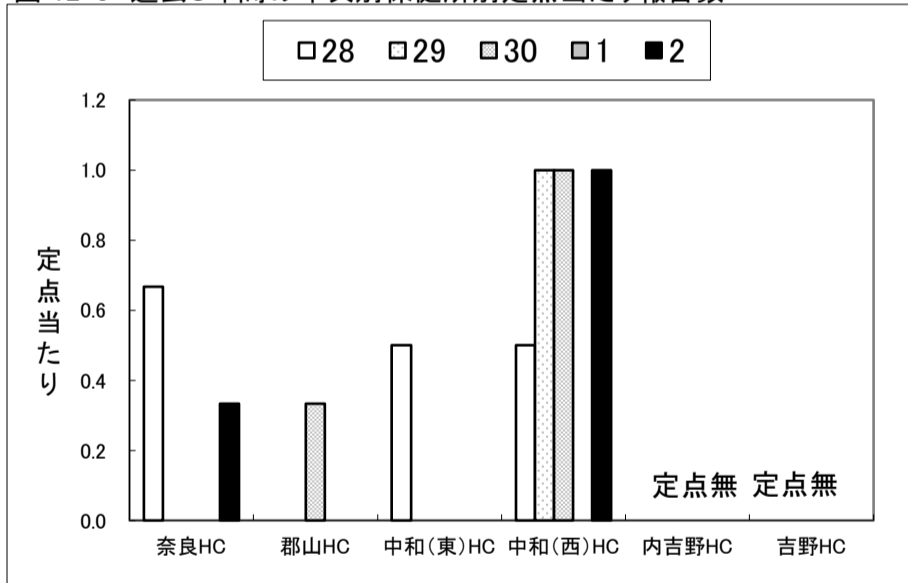
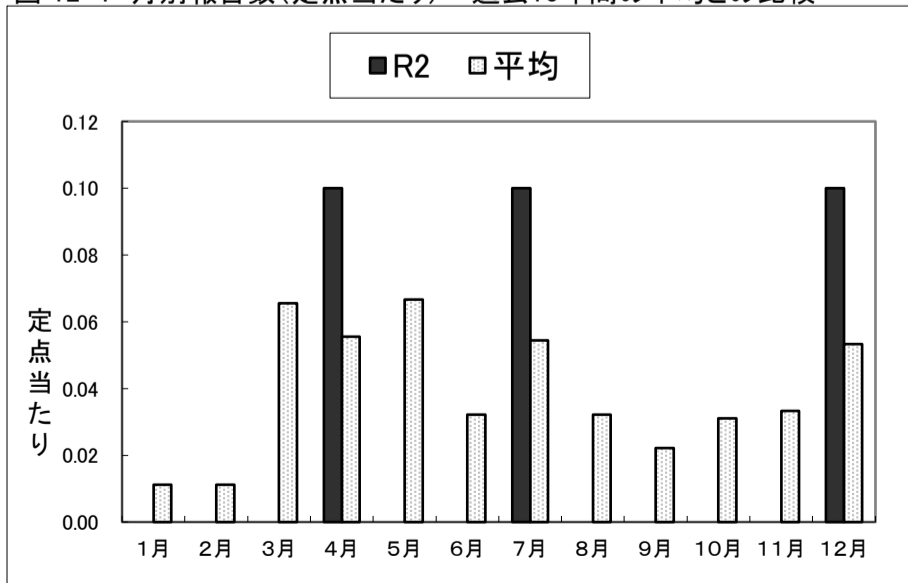


図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点では3例報告があった。4,7,12月に各1例で、地域では奈良市保健所管内1例、中和(西)保健所管内2例であった。年齢別では15歳～19歳1例、40歳代2例であった。全国順位は11位であった。

(平井 宏明 記)

13.流行性角結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

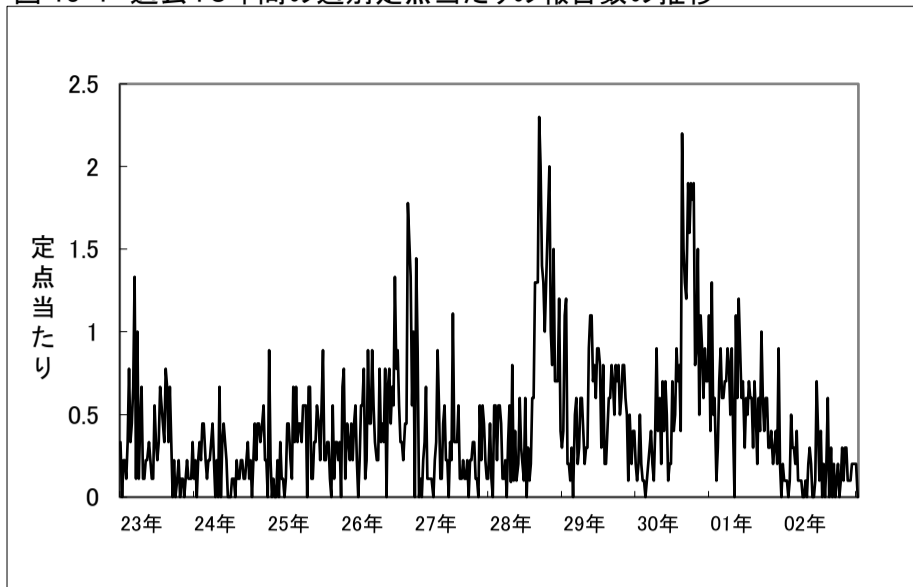


図 13-5 週別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較

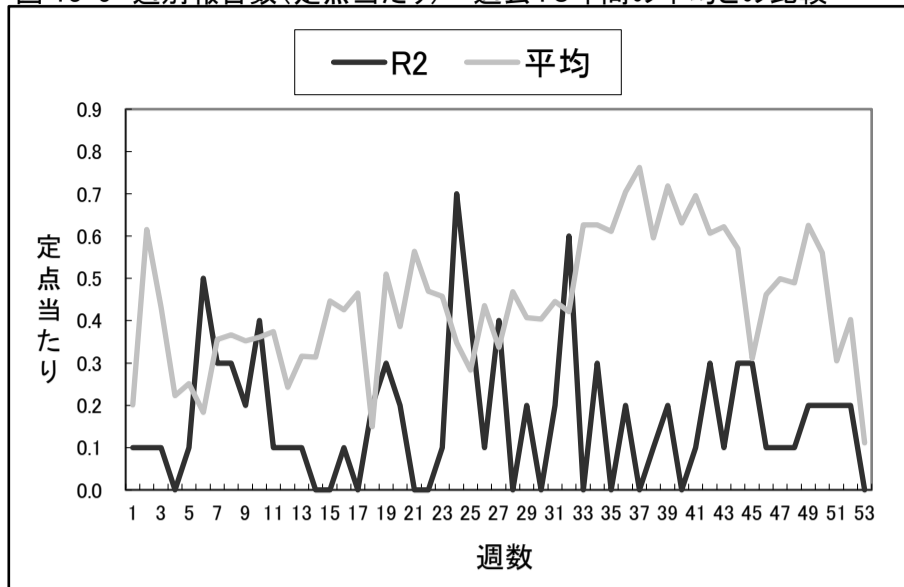


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点あたり報告数および奈良県の全国順位

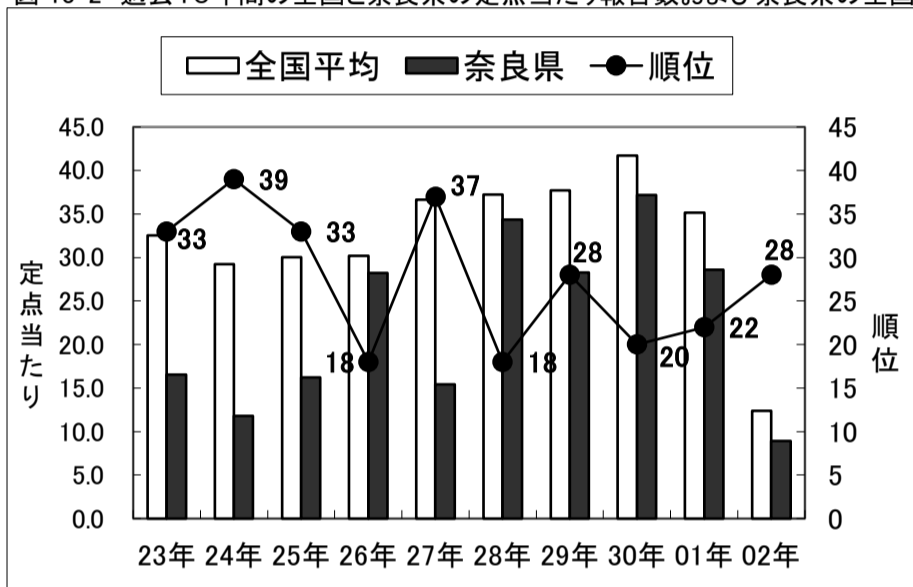


図 13-6 年齢別報告数(実数)

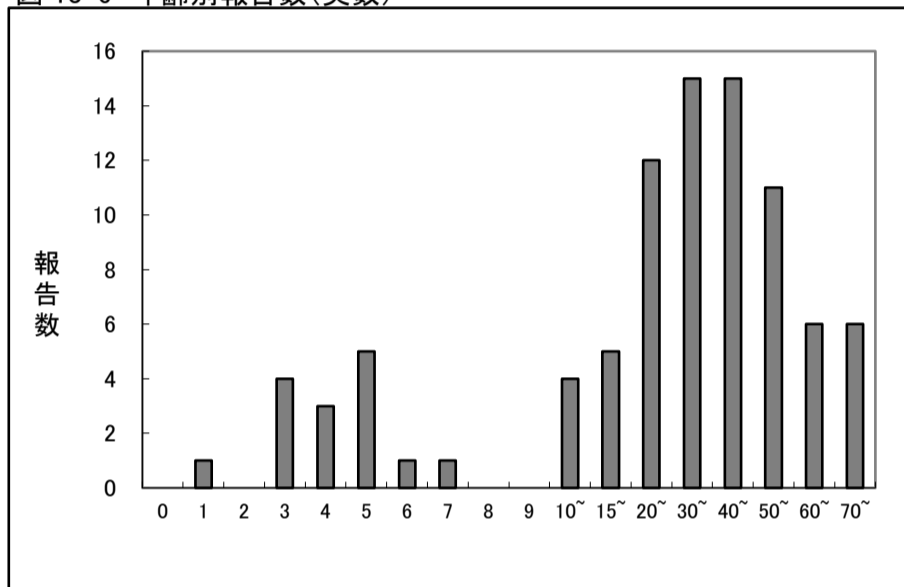


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点あたり報告数

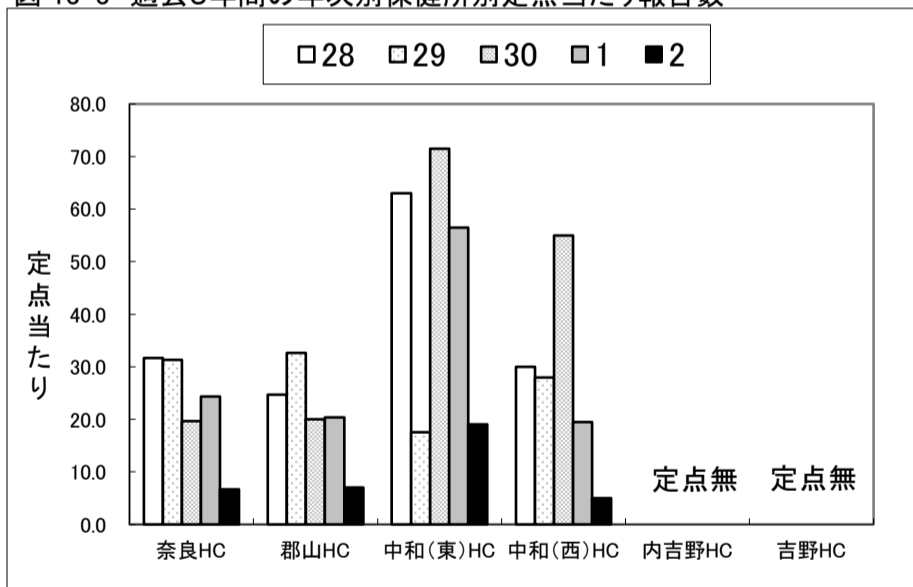
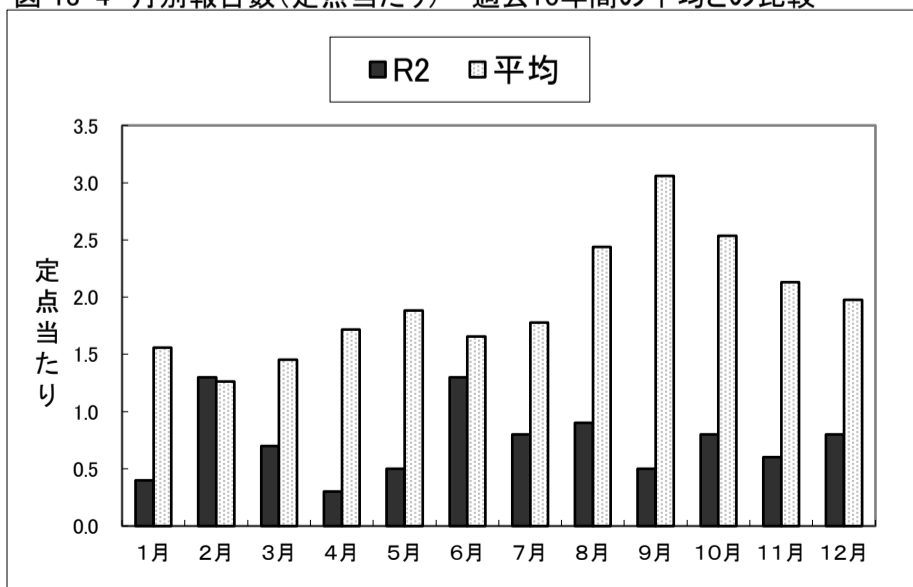


図 13-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体では89例の報告があり、前年286例の3割に減少していた。定点あたりの報告数は、全国平均が、前年35.1の35%の12.4と減少していた。全国と比較すると、奈良県の定点あたり報告数は8.9で、順位は28位と昨年の22位より下がった。時期的には3回のピークがあり、2月、6月、8月にピークがあり、ピークの山は徐々に低下した。定点あたりの報告数では、中和(東)保健所管内が19と特に多く、その約37%で郡山保健所管内7、奈良市保健所管内6.7、中和(西)保健所管内5と続き、一方、吉野、内吉野では報告がなかった。年齢では20歳代から50歳代で53例と60%を占め、成人の感染例が多いことが特徴的であった。小児では3,4,5歳が多かった。幼児からその両親、祖父母へと広がった可能性が示唆された。

(平井 宏明 記)

基幹定点分(週報)

14.細菌性髄膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

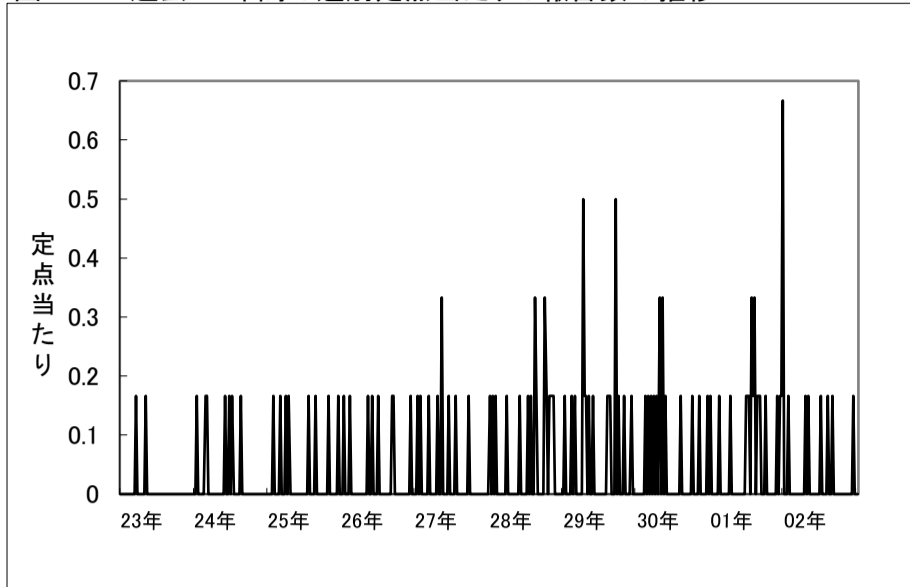


図 14-5 週別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較

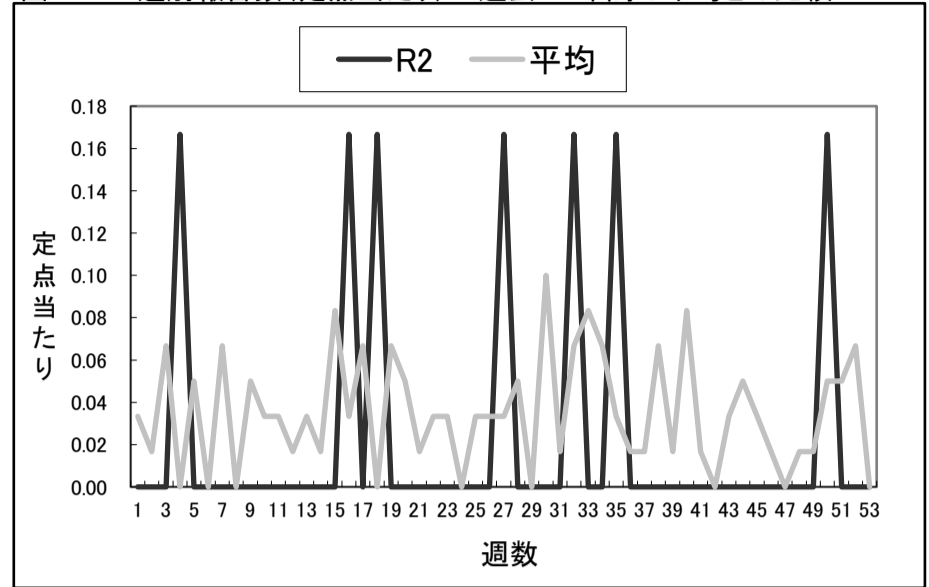


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点あたり報告数および奈良県の全国順位

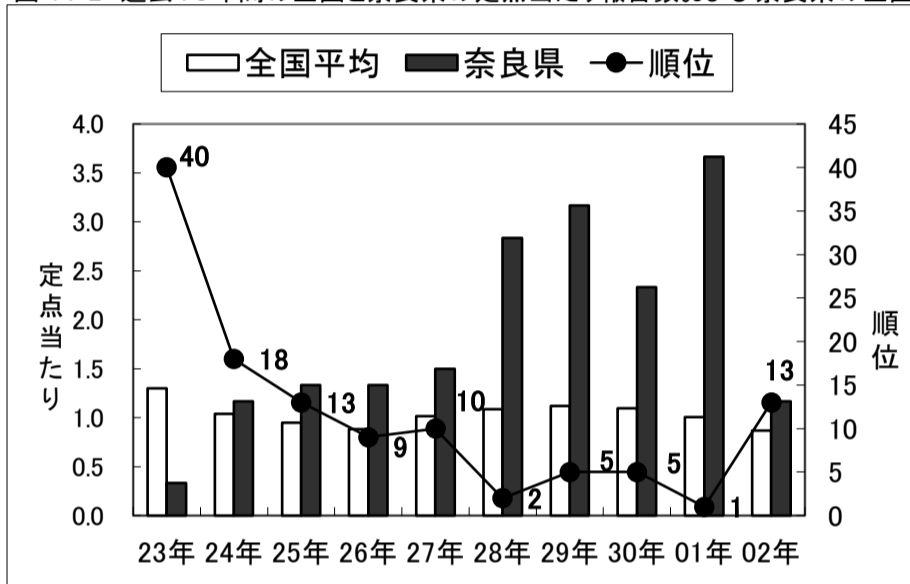


図 14-6 年齢別報告数(実数)

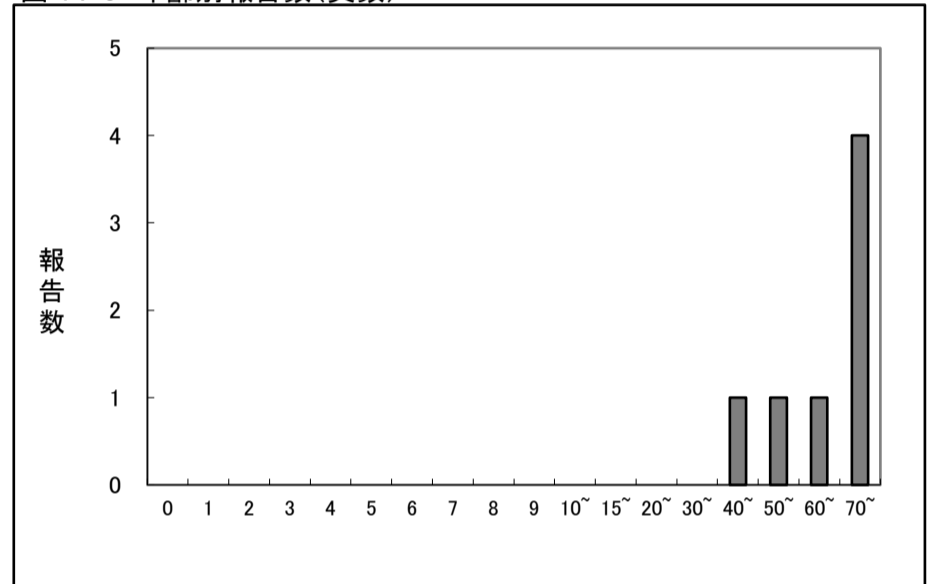


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点あたり報告数

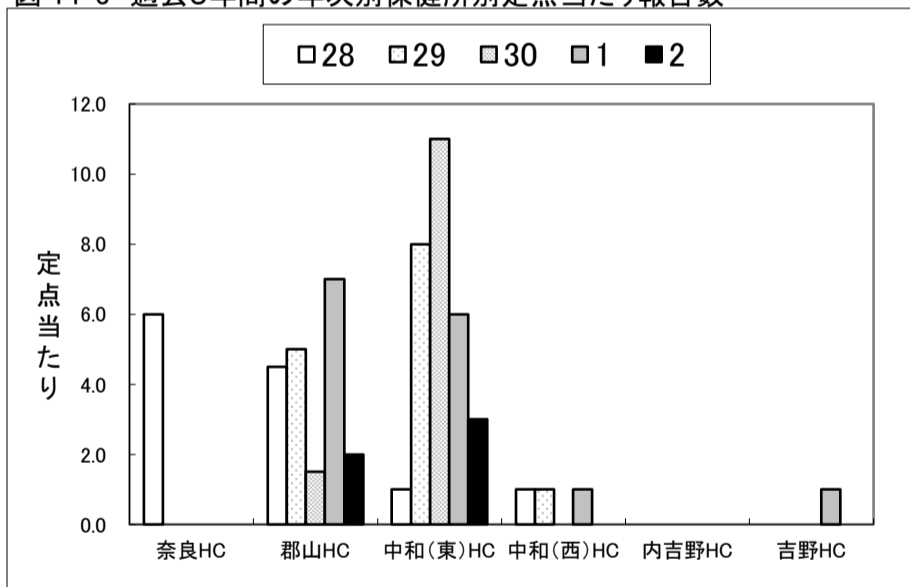
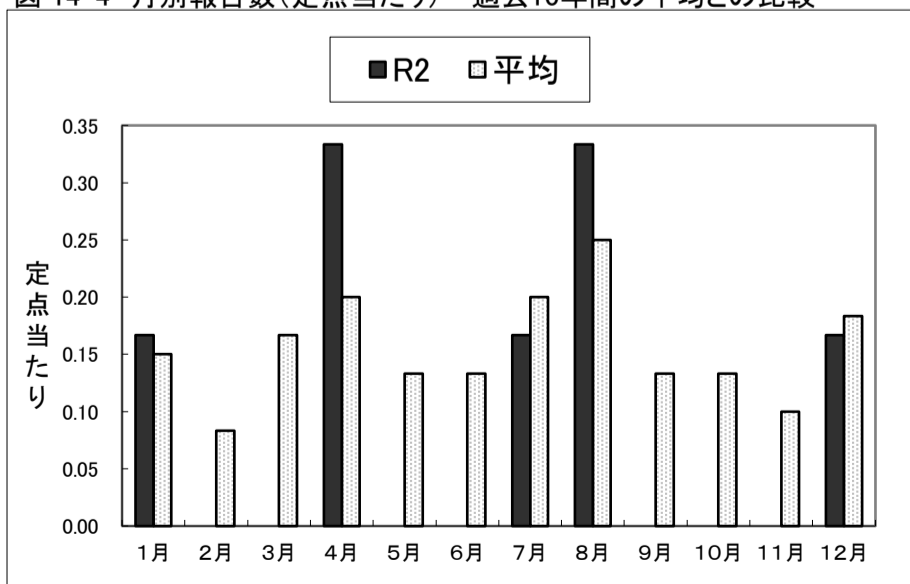


図 14-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年の奈良県における全報告数は7例で、定点あたりの報告数は1.2であった。定点あたりの報告数は全国平均の0.87と比較して明らかに高い値である。奈良県はこれまでも報告数の多い県であり、令和元年は全国ワースト1であった。令和2年は13位と若干の改善が見られるが、全国と比較し多いことに変わりはない。年齢別では、昨年0歳児からも報告されているが、令和2年は40歳以上からのみで、特に70歳以上の高齢者に多くみられた。高齢者のワクチン接種状況や他県との接種率の差は不明だが、最も頻度の高い肺炎球菌へのワクチン接種の実施率上昇の余地がまだ残されているのかもしれない。

(矢野 寿一 記)

15.無菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

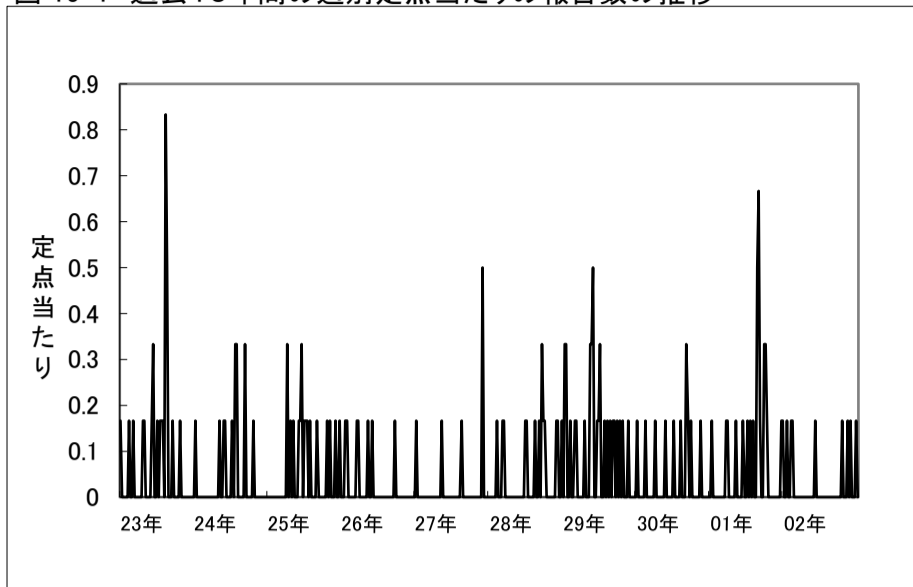


図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

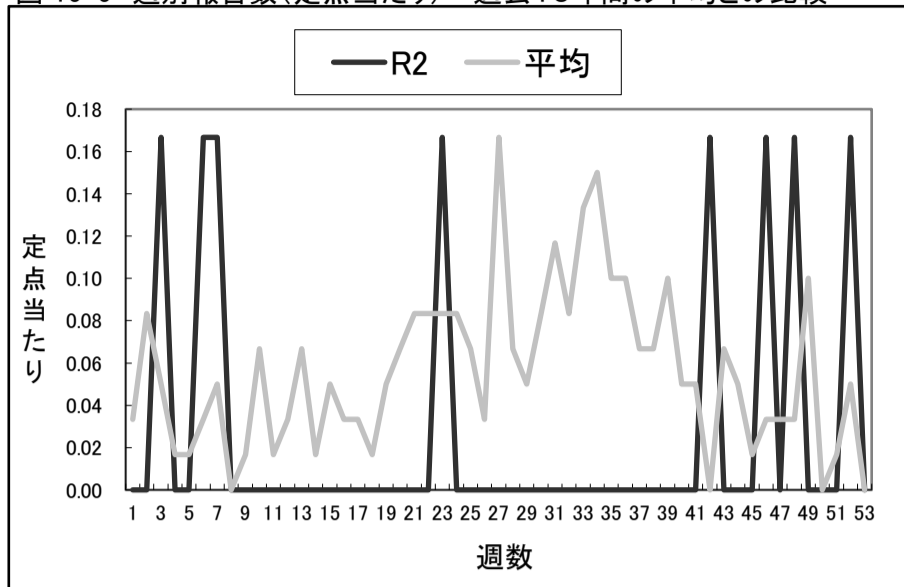


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

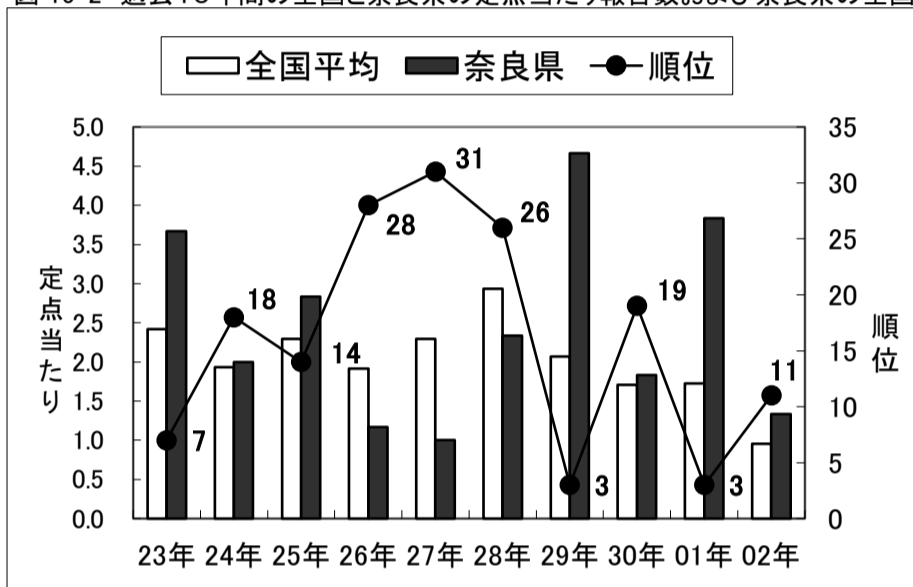


図 15-6 年齢別報告数(実数)

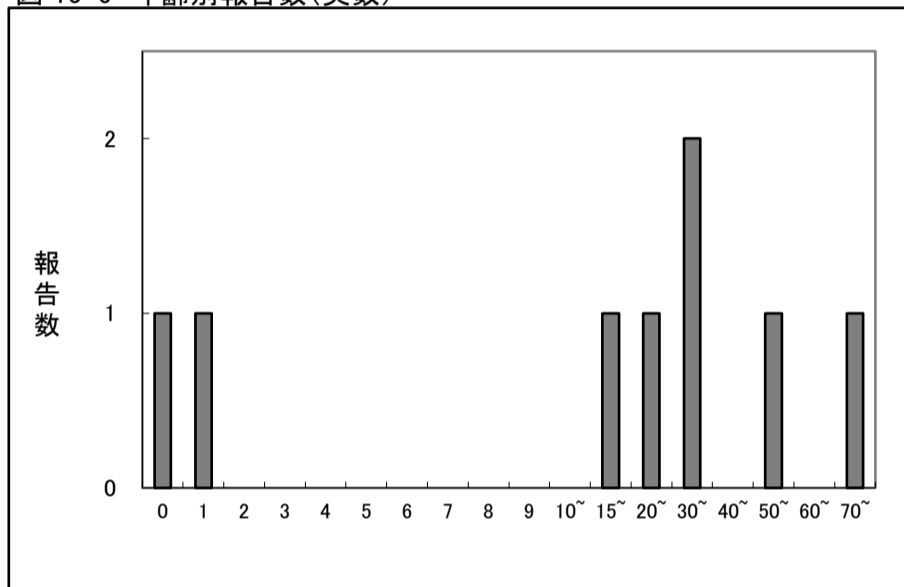


図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

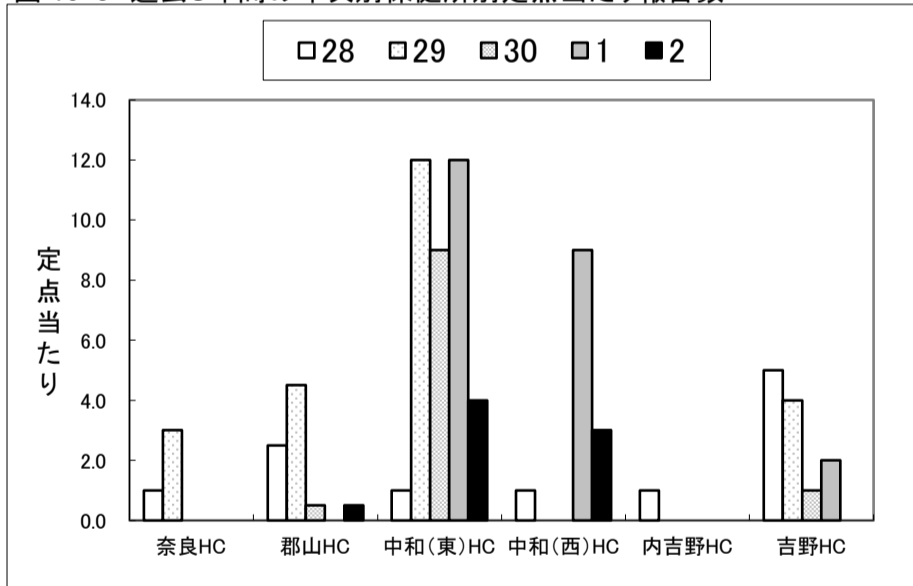
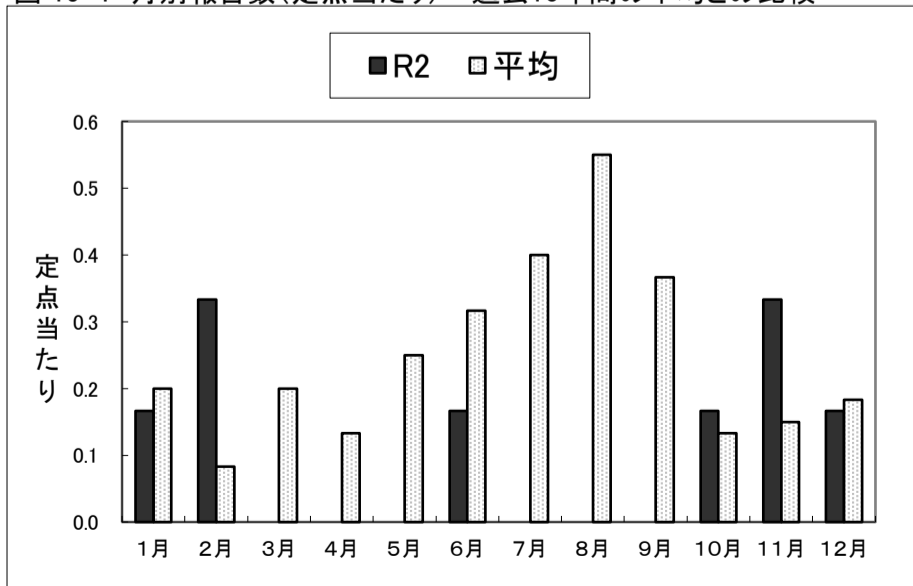


図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年の奈良県における全報告数は8例、定点あたりの報告数は1.3であった。例年、奈良県からの無菌性髄膜炎報告数は多い傾向にあり、令和元年は全国順位3位、令和2年は11位であった。無菌性髄膜炎は、初夏から増加し始め、夏から秋にかけて流行が見られ、エンテロウイルス属であるコクサッキーウイルス、エコーウイルスなどが原因となることが多い。平成30年、令和元年と夏に多い傾向にあったが、令和2年は冬季に多い傾向が見られた。新型コロナウイルス感染症蔓延によるウイルス干渉や感染対策などが影響した可能性も考えられる。

(矢野 寿一 記)

16.マイコプラズマ肺炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

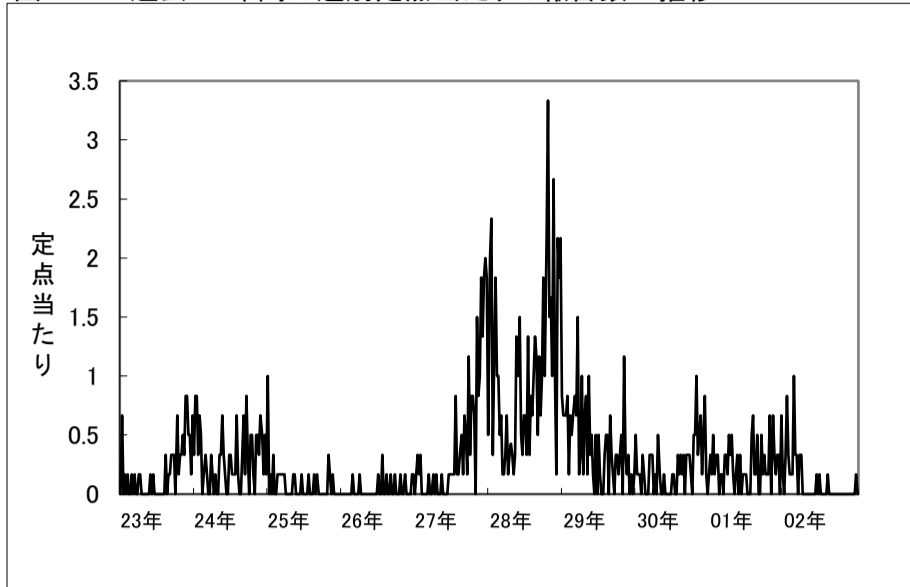


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

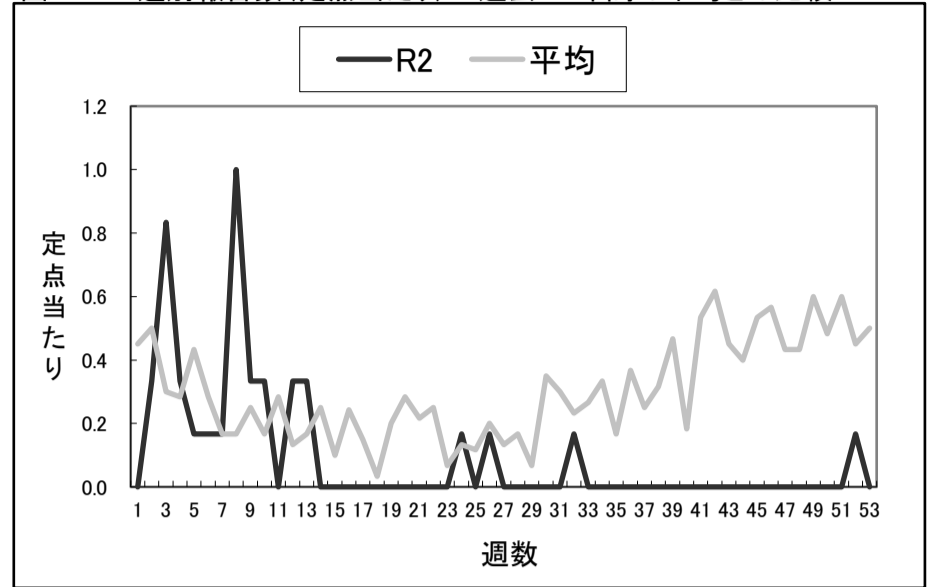


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

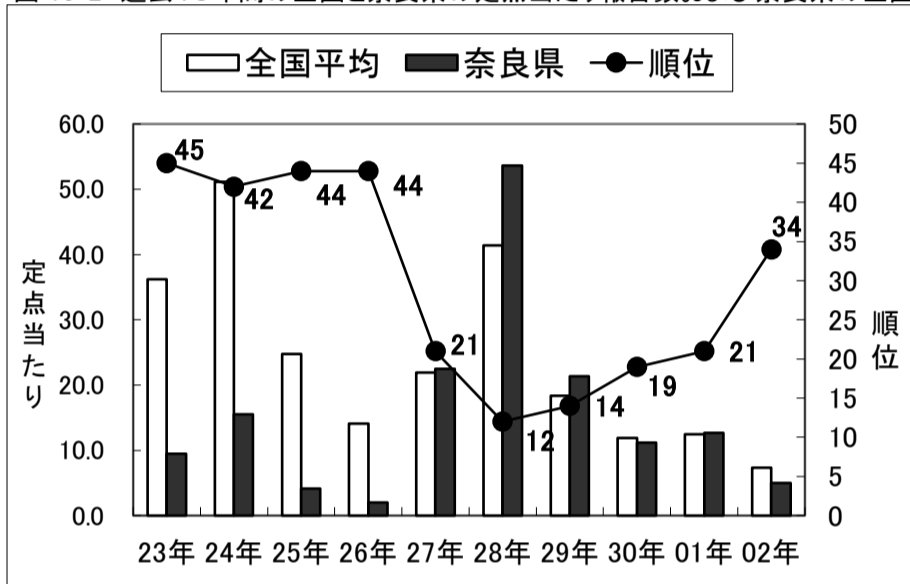


図 16-6 年齢別報告数(実数)

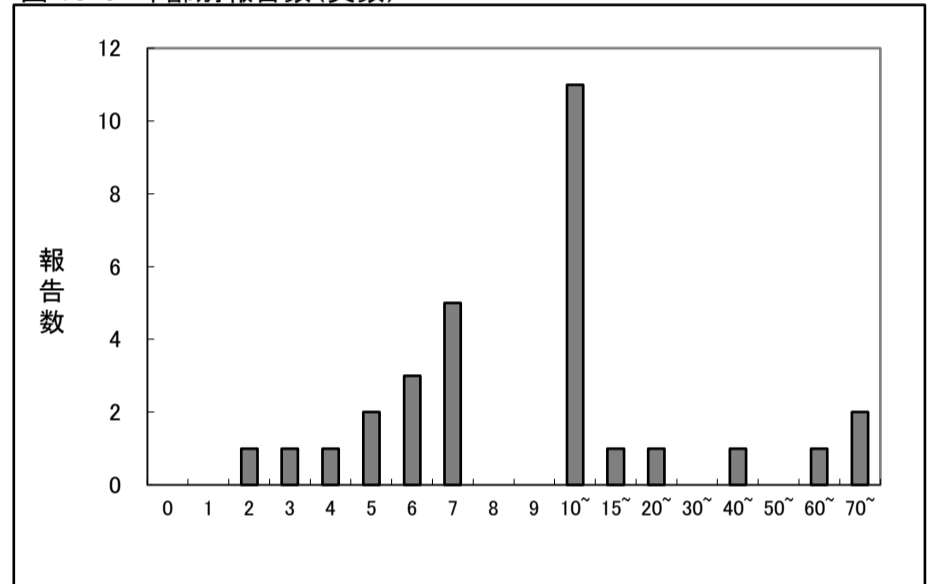


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

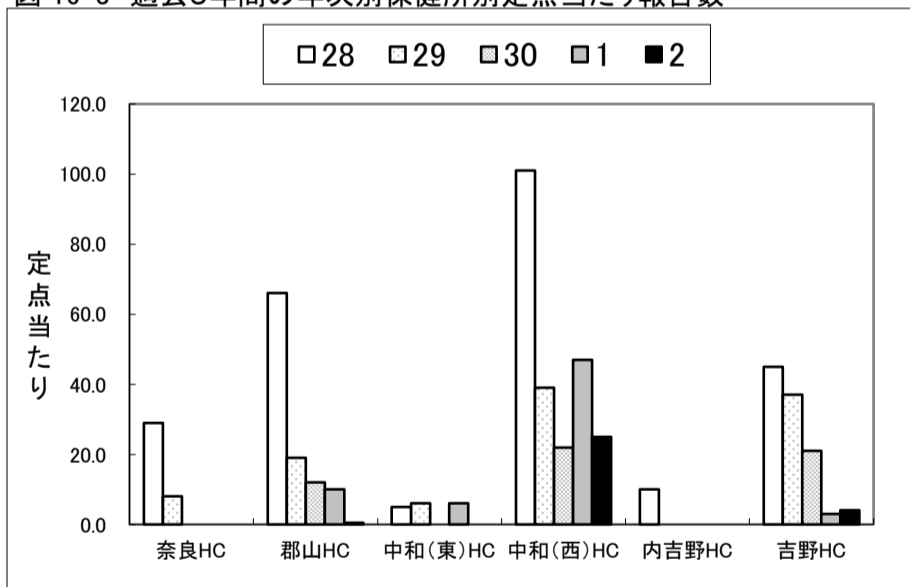
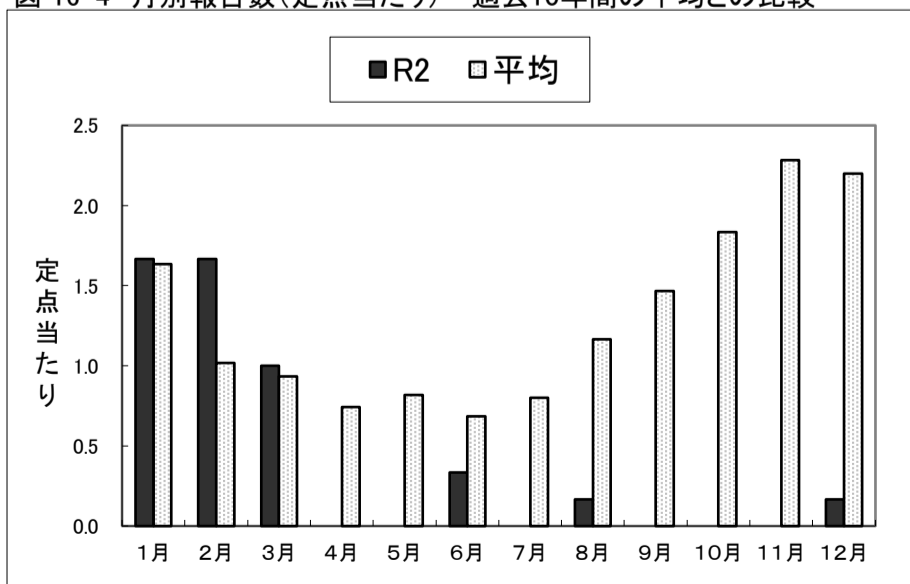


図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年の奈良県における全報告数は30例、定点あたりの報告数は5.0で、令和元年のそれぞれ76例、12.7と比べ減少している。全国の定点あたり報告数も7.3と平成23年以降で最小である。マイコプラズマ肺炎は、28年に全国的な流行があったが、その後は大きな流行はみられていないものの、令和2年については新型コロナウイルス感染症の蔓延による休校や感染対策の影響があった可能性は否定できない。

(矢野 寿一 記)

17. クラミジア肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

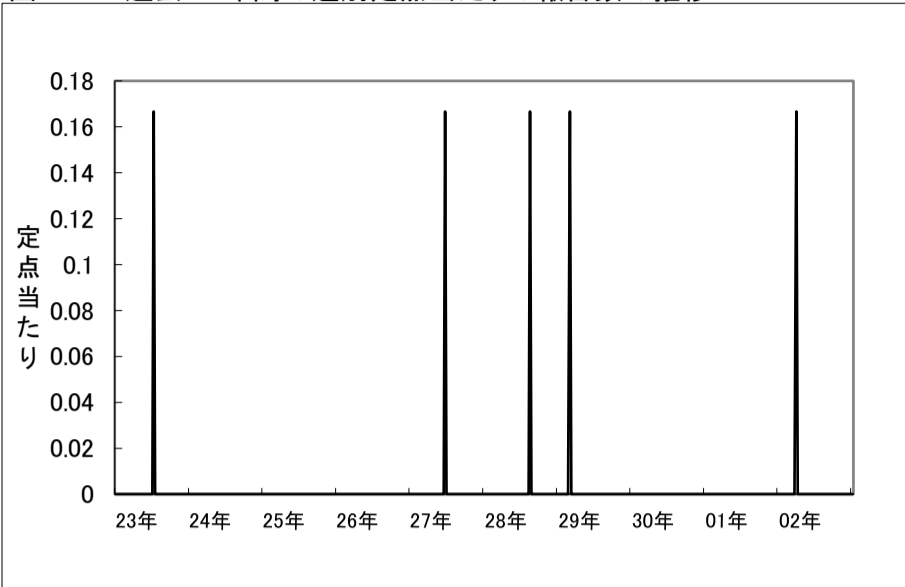


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

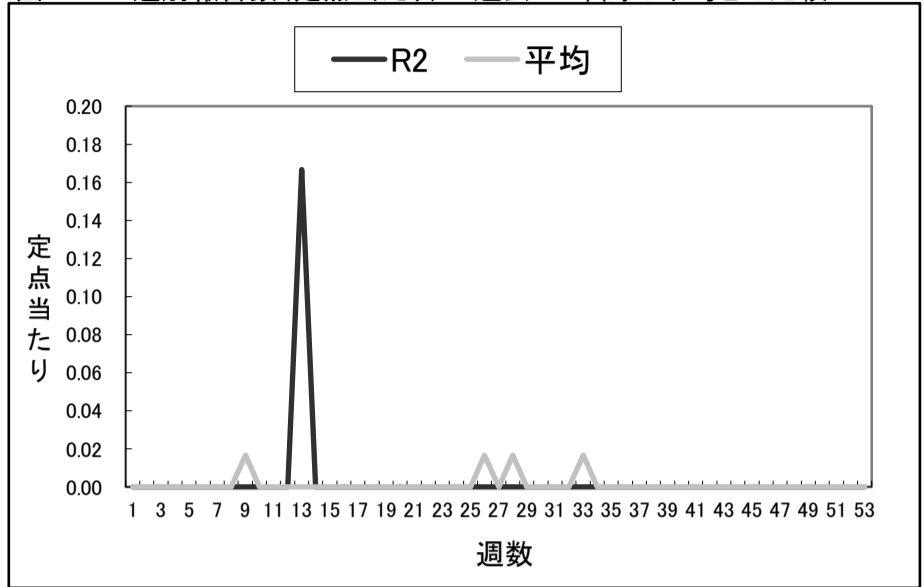


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

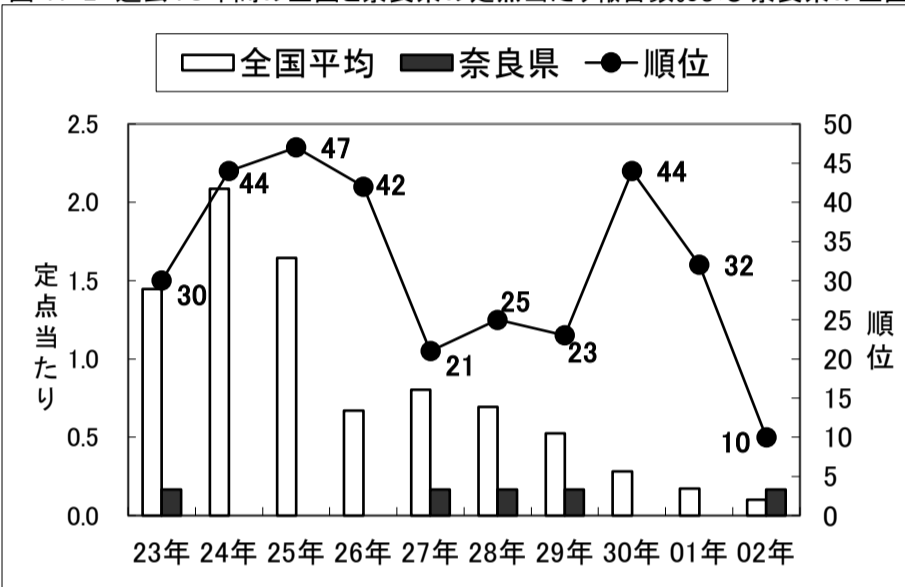


図 17-6 年齢別報告数(実数)

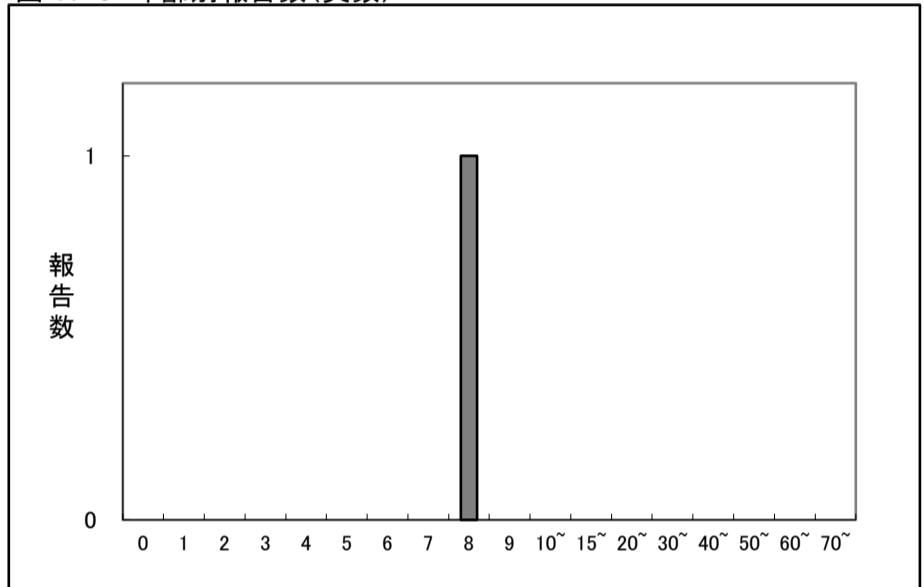


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

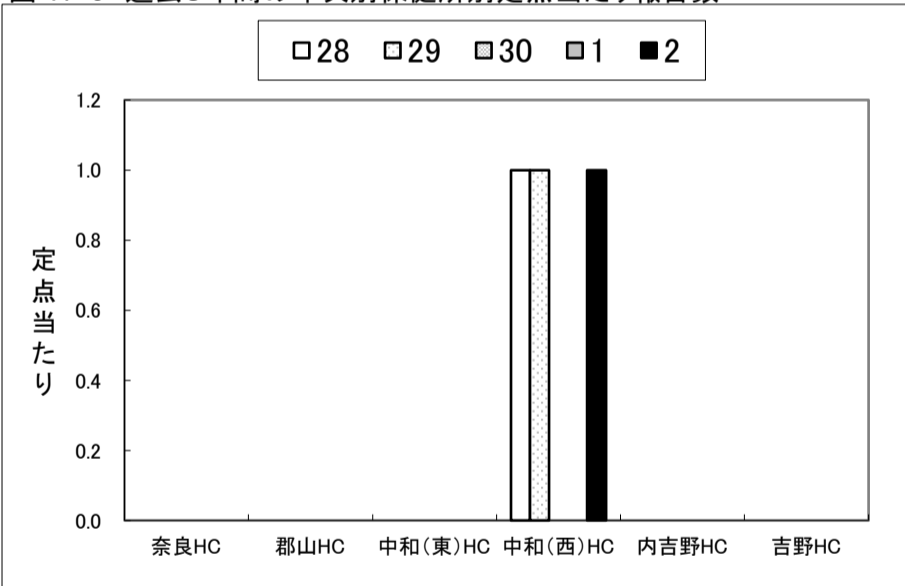
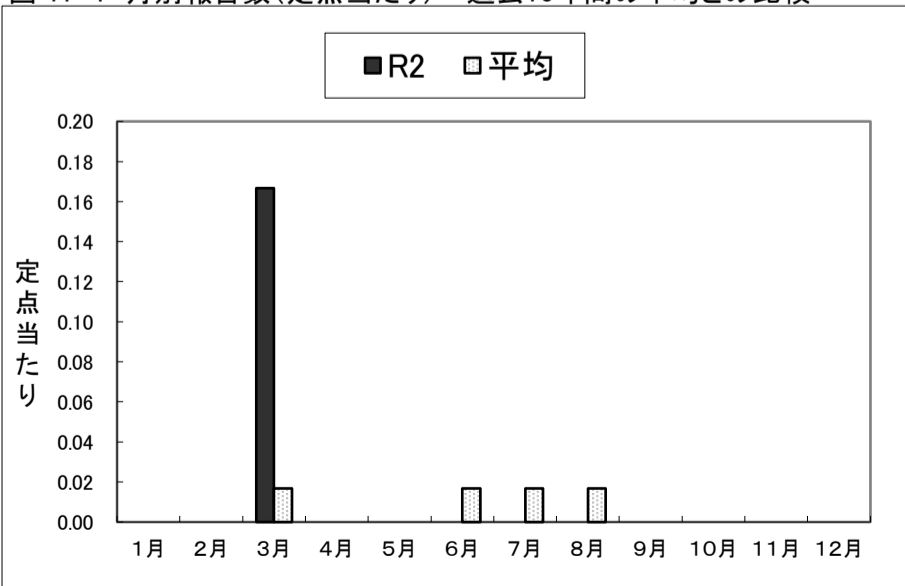


図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年の奈良県における全報告数は1例、定点あたりの報告数は0.17であった。令和元年、平成30年は検出がなかった。診断が難しいこともあり、例年通り低い検出数で推移していることには変わりはないようである。

(矢野 寿一 記)

18. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

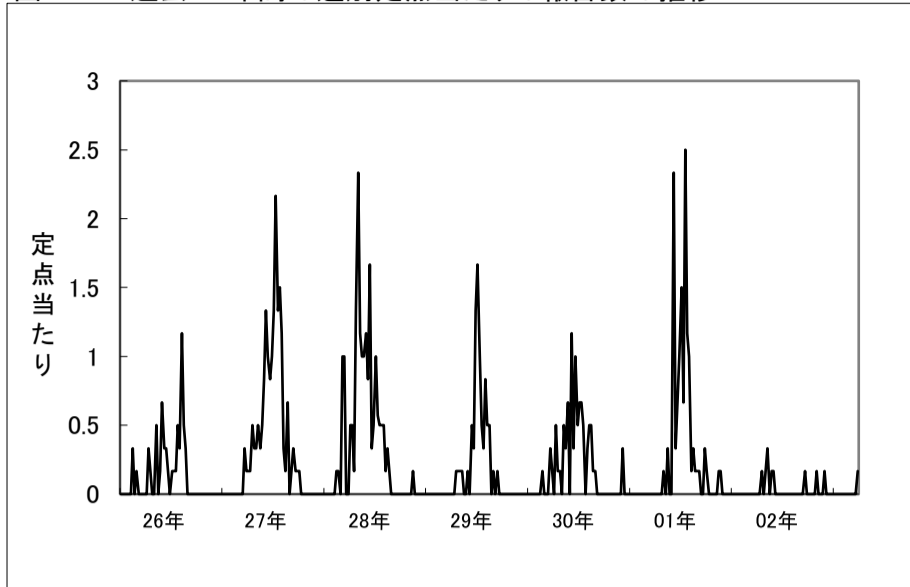


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

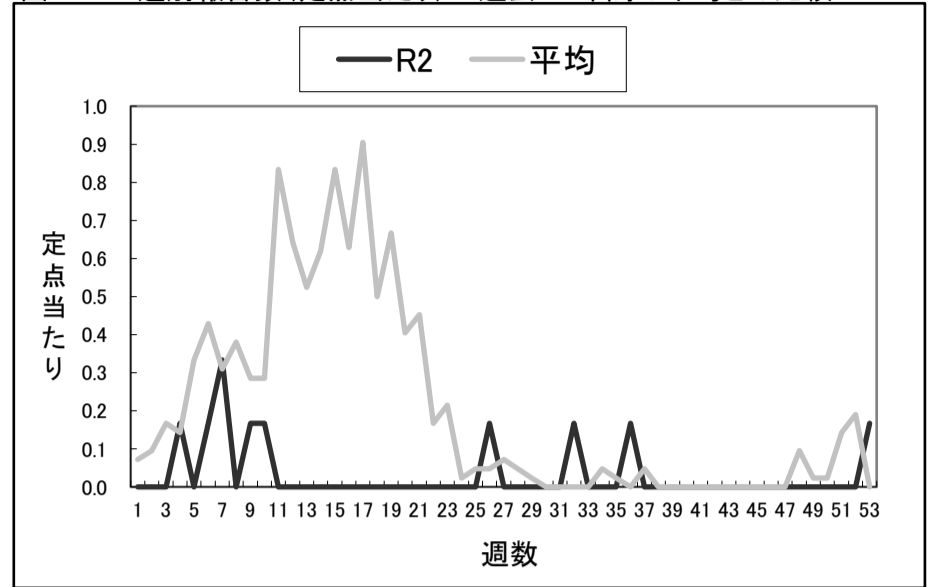


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

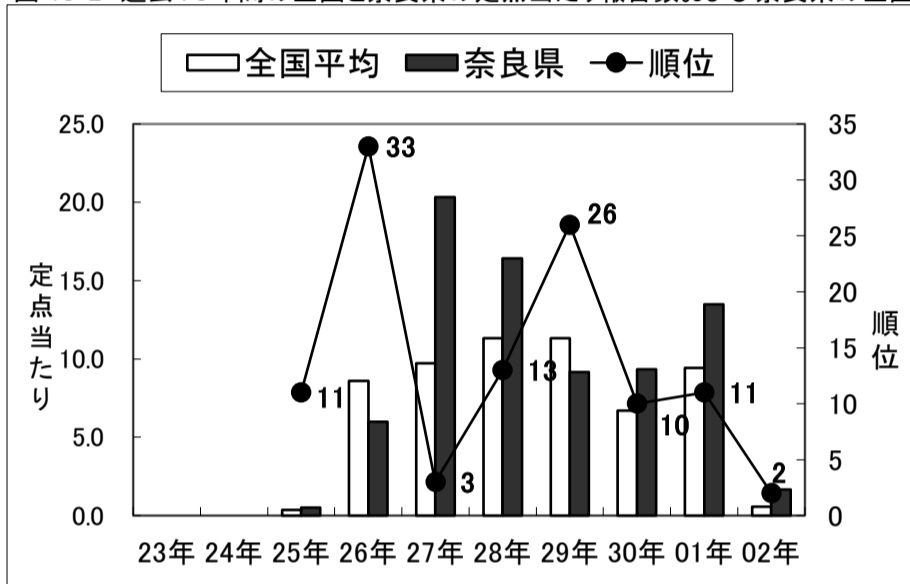


図 18-6 年齢別報告数(実数)

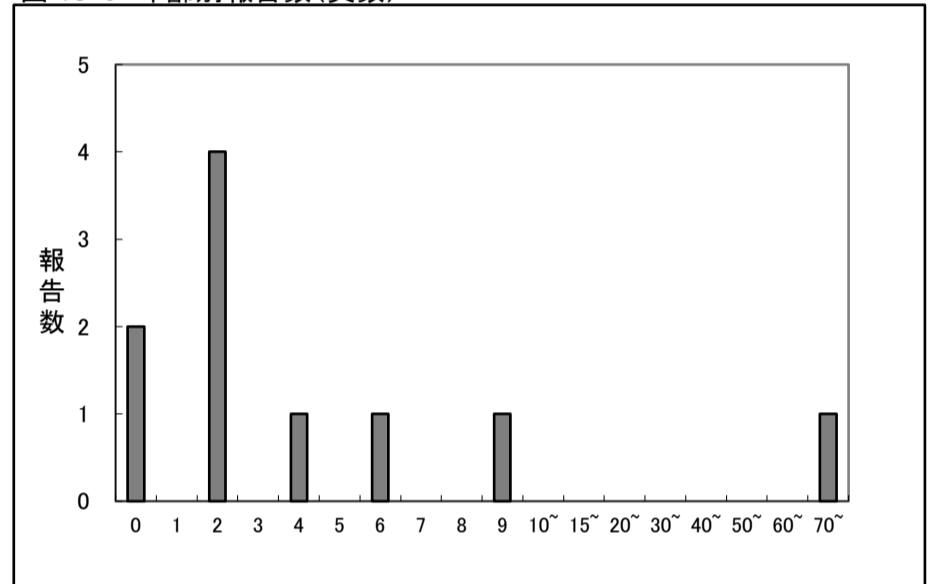


図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

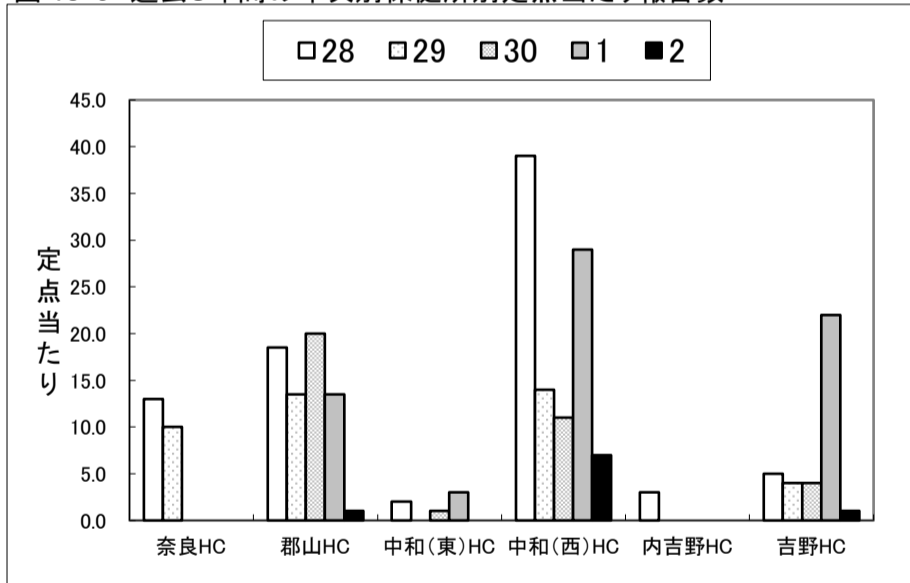
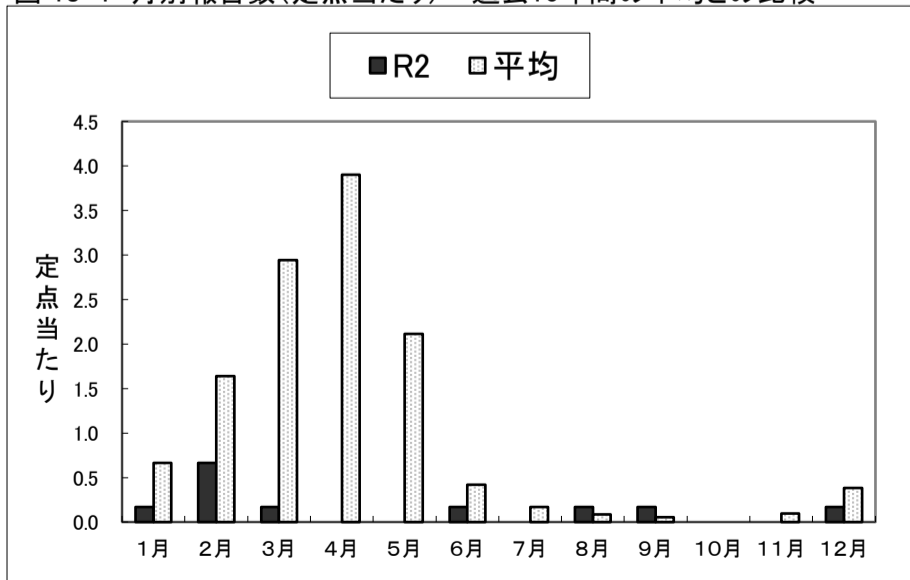


図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和2年の奈良県における全報告数は10件で、定点あたりの報告数は1.67であった。令和元年の全報告数は81件、定点あたりの報告数は13.5と大きく改善しているが、全国順位は11位から2位へとむしろ悪化しており、減少傾向は全国的なことようである。2020年10月からのロタウイルスワクチン定期接種化によることが推察されるが、新型コロナウイルス感染症防止に手指衛生が徹底され、ロタウイルスの接触感染機会が減少した可能性も考えられる。

(矢野 寿一 記)

性感染症(STD)定点分

19.性器クラミジア感染症

図 19-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

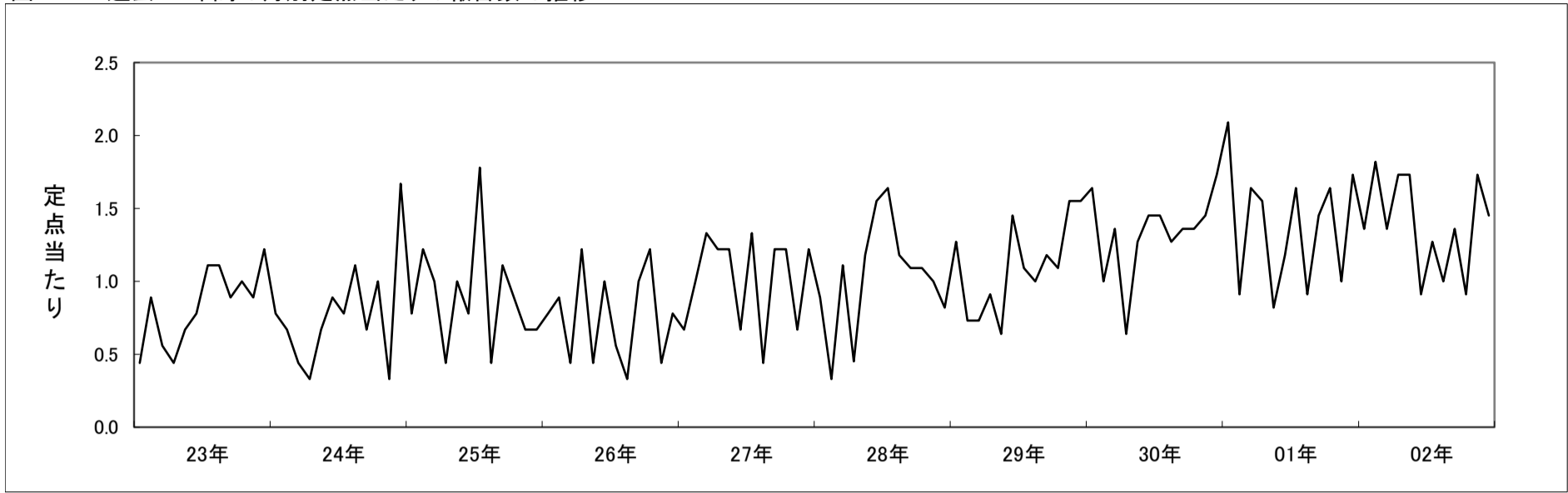


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

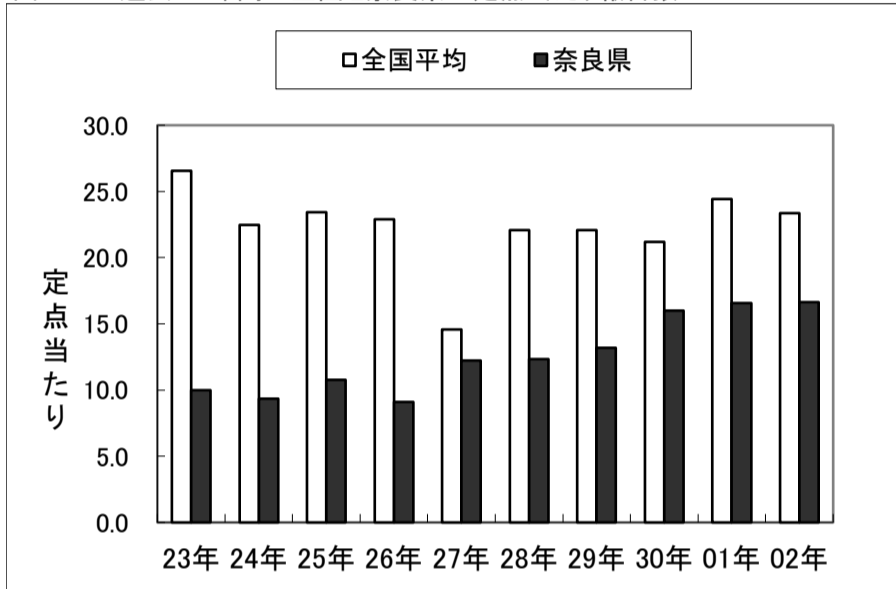


図 19-5 年齢別報告数(実数)

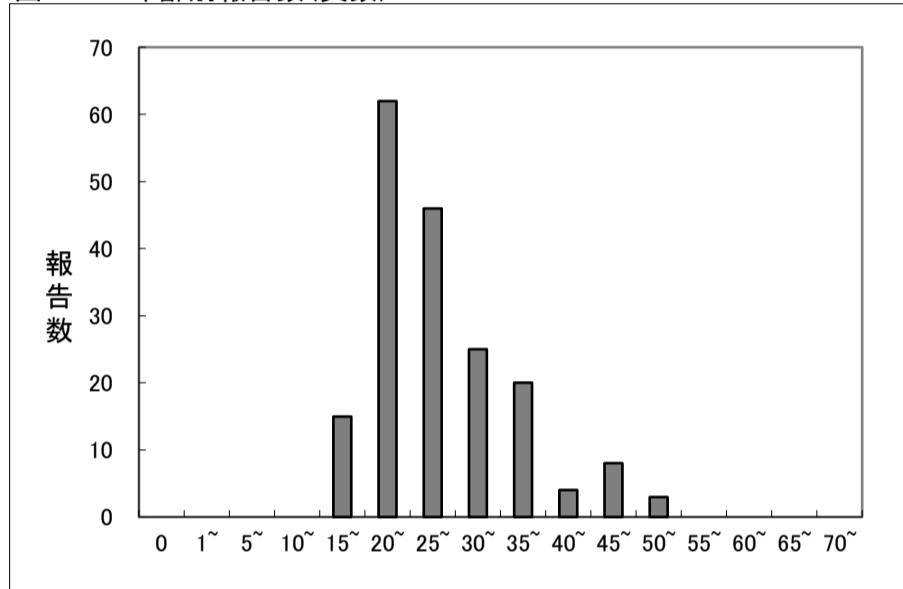
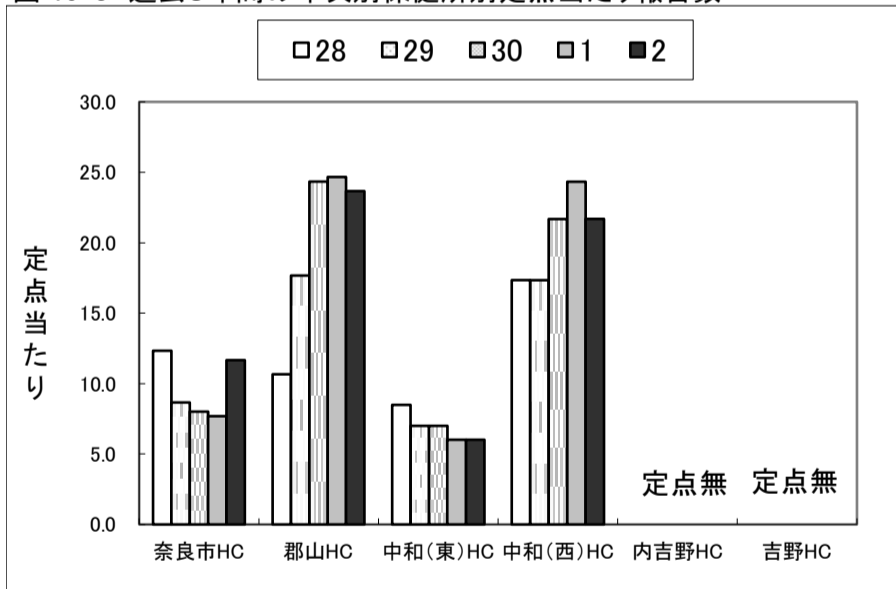


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

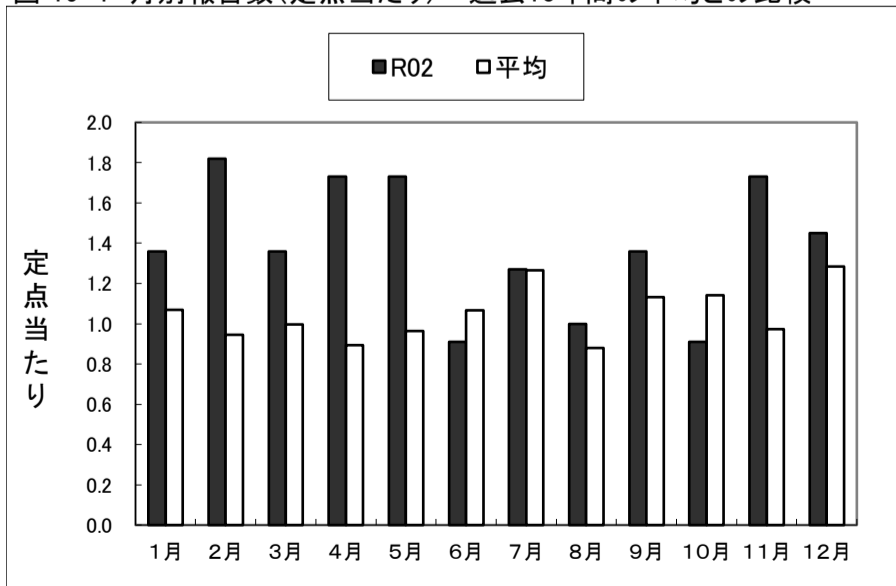


コメント

報告数は例年通り4疾患中で最多であった。全国の報告数は横ばい状態が維持されているが、本県では右肩上がりの増加が続き、全国平均に近づいてきた。保健所別では例年通り郡山保健所と中和(西)保健所管内が多い。月別では、1月から5月までが例年に比較して増加していた。年齢別では、15-19歳の低年齢層も含め、50歳代まで全年齢層で報告がある。20-24歳が最多であることは変わらないが、昨年減少した25-29歳の報告数が例年並みに戻った。昨年同様、55歳以上の高年齢層での報告がなかった。

(三馬 省二 記)

図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



20.性器ヘルペスウイルス感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

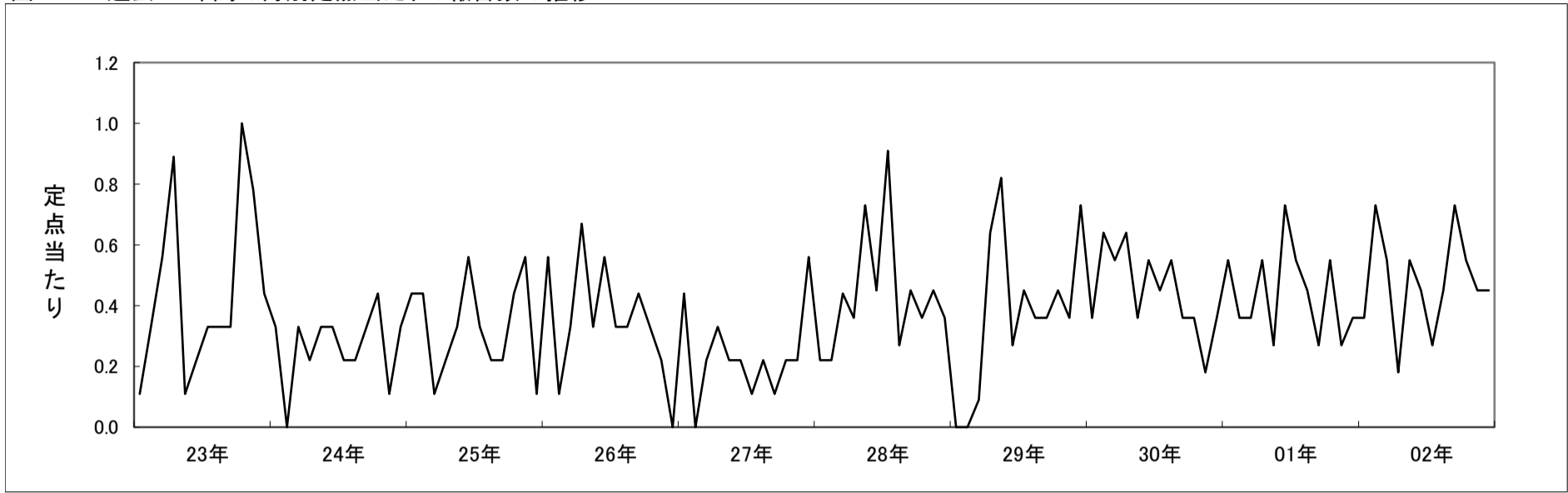


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

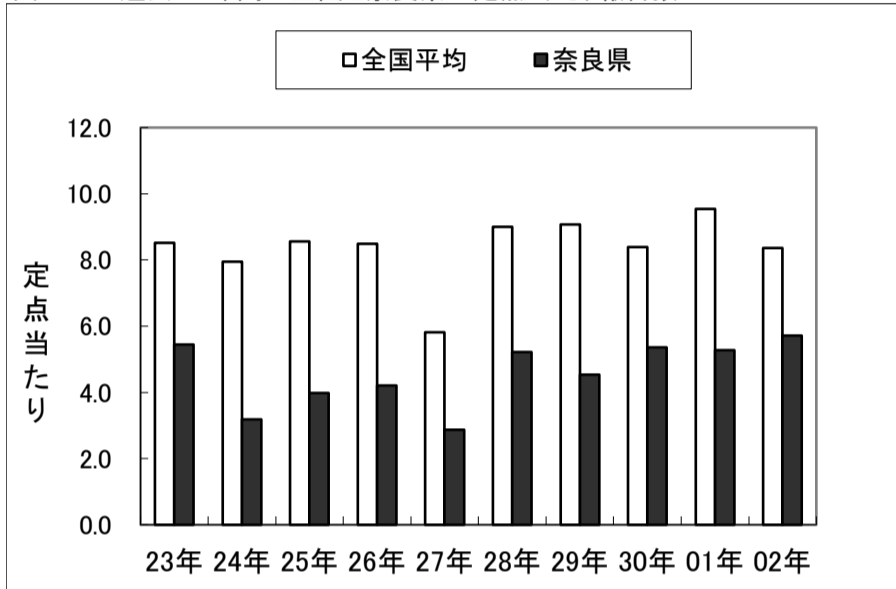


図 20-5 年齢別報告数(実数)

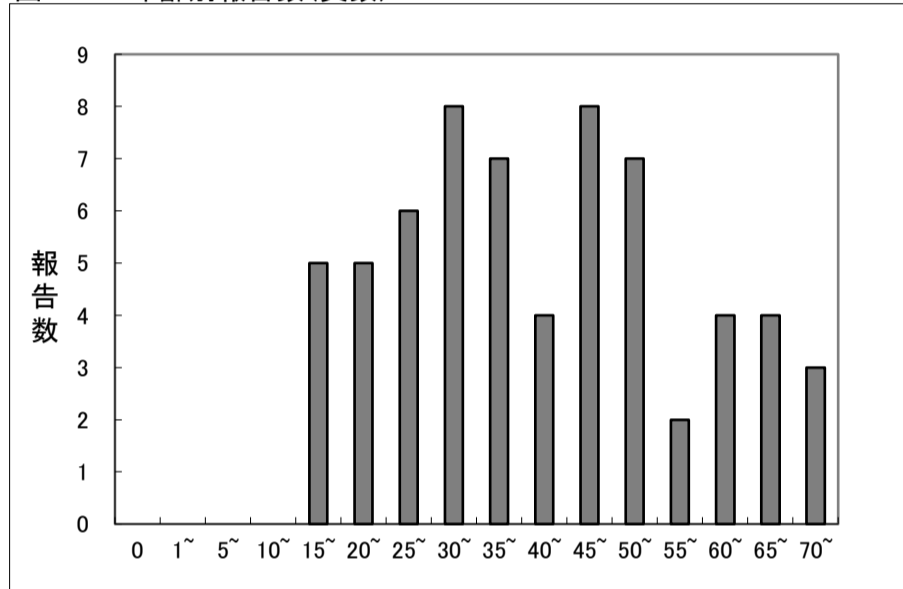
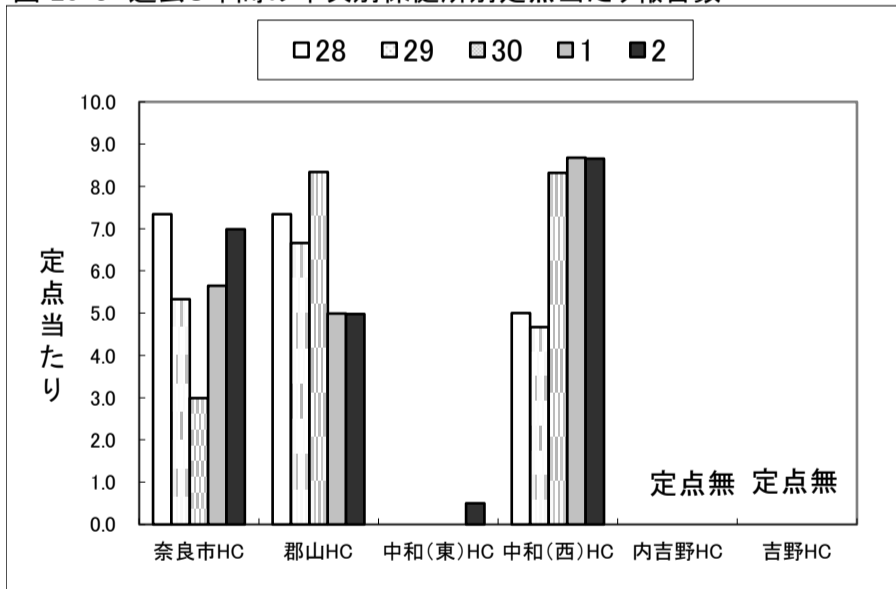


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

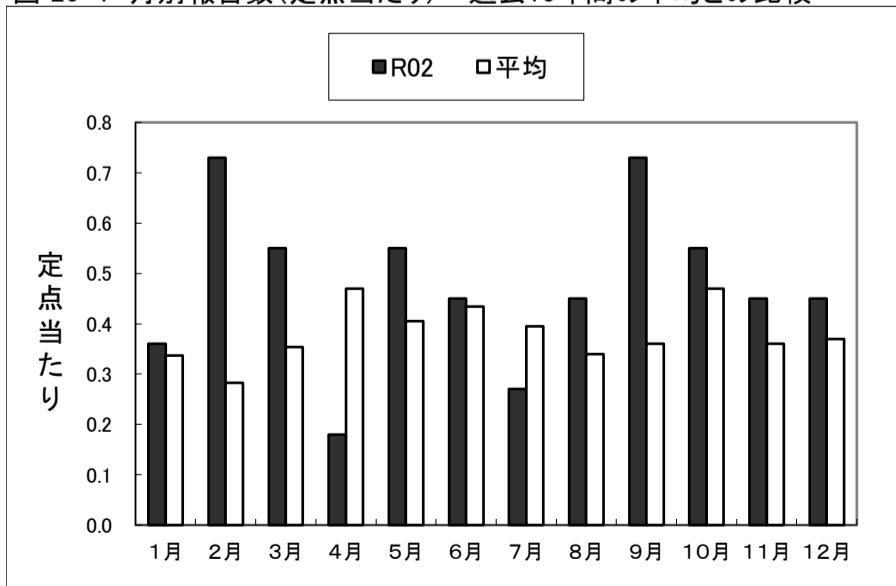


コメント

定点当たりの報告数は増加傾向にあるが、この5年間はほぼ横ばい状態である。保健所別では、奈良市保健所管内が増加したが、他保健所管内ではほぼ同数であった。報告数は昨年に続き中和(西)保健所管内が最多であった。月別ではあまり差がみられなかったが、例年に比較して4月7月以外は増加しており、夏場より冬場に増加傾向が示された。年齢別にみると、やはり25-39歳が多く、45-54歳も増加しており、昨年はなかった70歳以上の報告が目される。

(三馬 省二 記)

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



21.尖圭コンジローマ

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

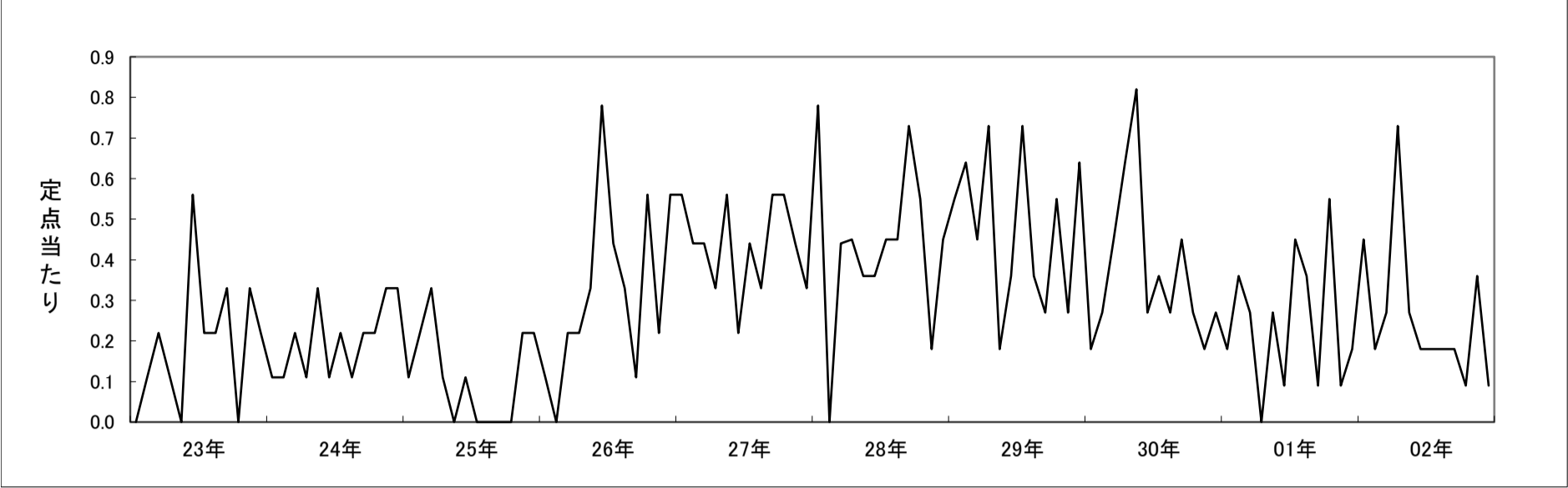


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

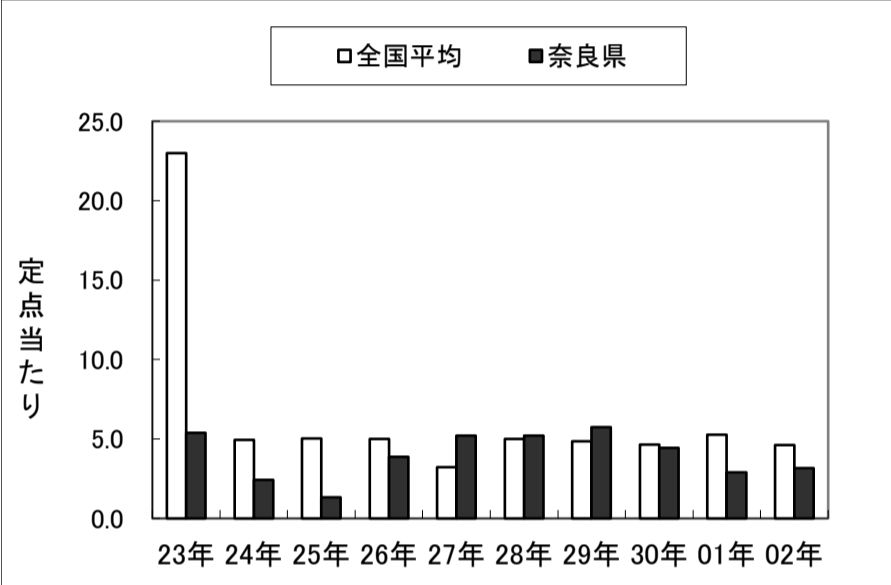


図 21-5 年齢別報告数(実数)

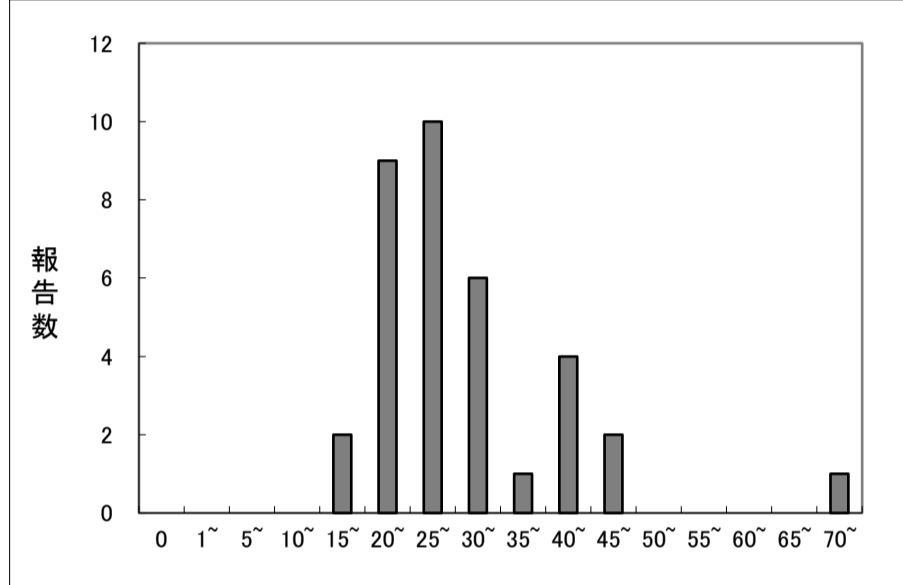
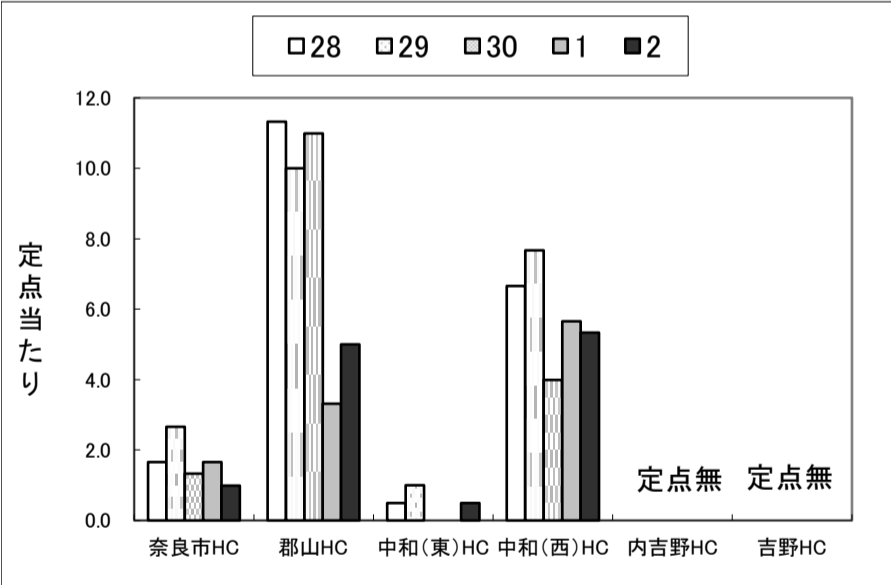


図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

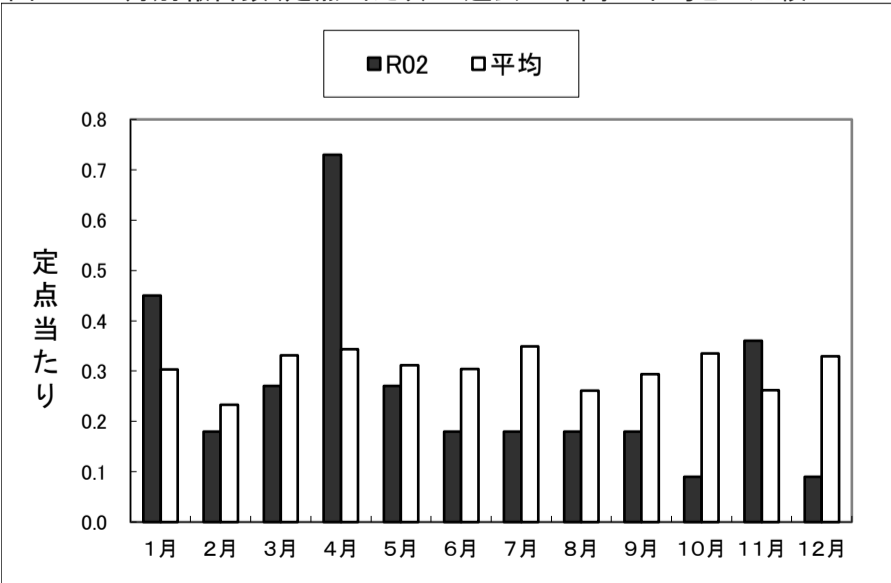


コメント

尖圭コンジローマは、全国平均の報告数が平成23年以降著明に低下した疾患である。本県では報告数に5～6年前から大きな変化がなく、全国平均に近い報告数があったが、昨年からの減少に転じている。保健所別では、郡山保健所管内の報告が昨年からの減少に著明に減少し、中和(西)保健所管内が最多となっている。季節別では、例年は平均的であるが、今回は夏場の減少が著明であった。年齢別では、やはり20-34歳が多いが、報告は少ないものの70歳以上の報告があった。

(三馬 省二 記)

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



22.淋菌感染症

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

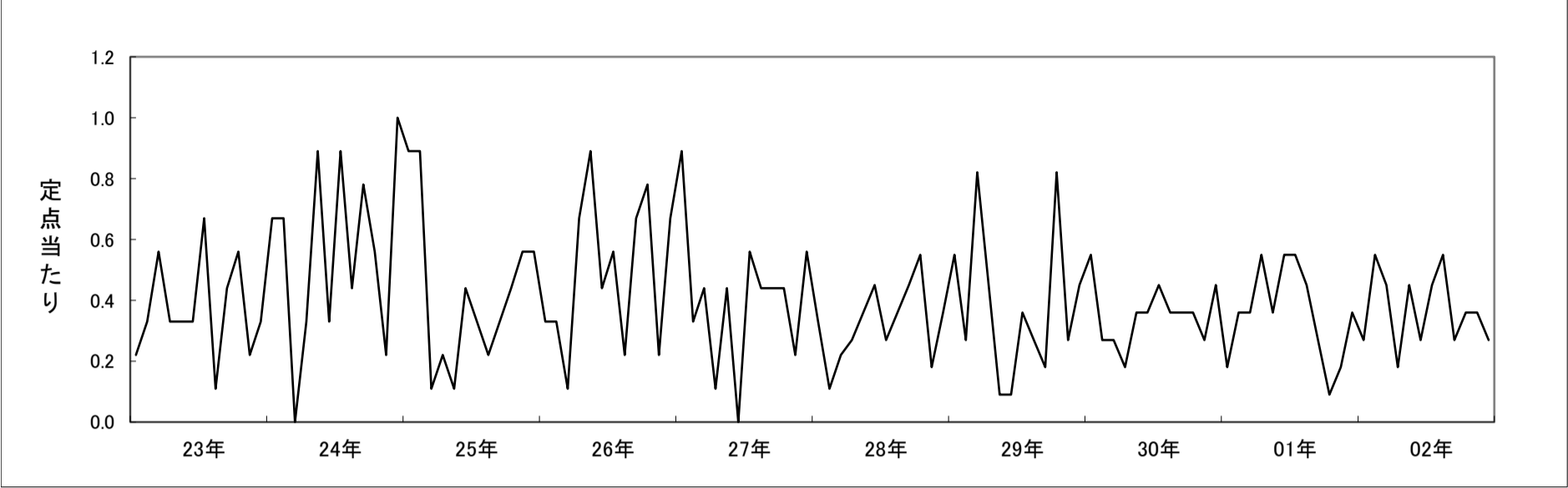


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

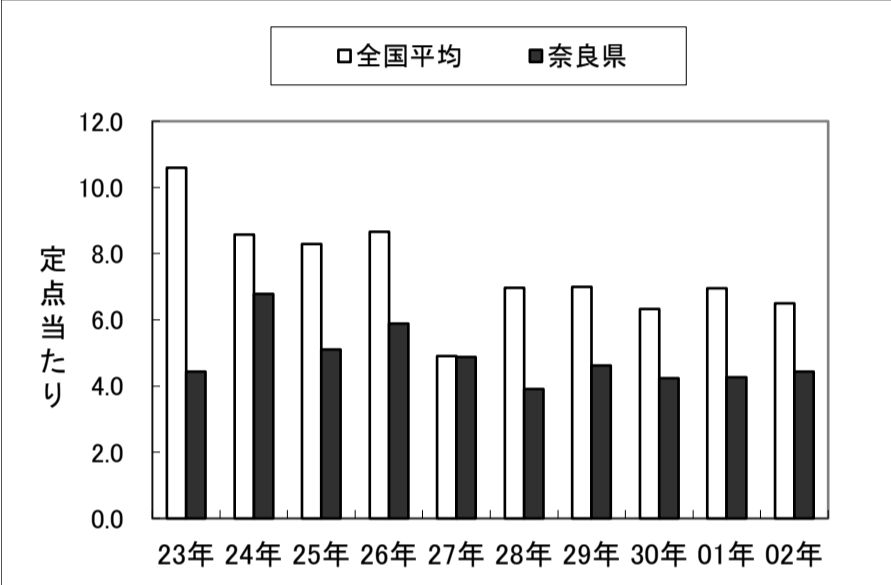


図 22-5 年齢別報告数(実数)

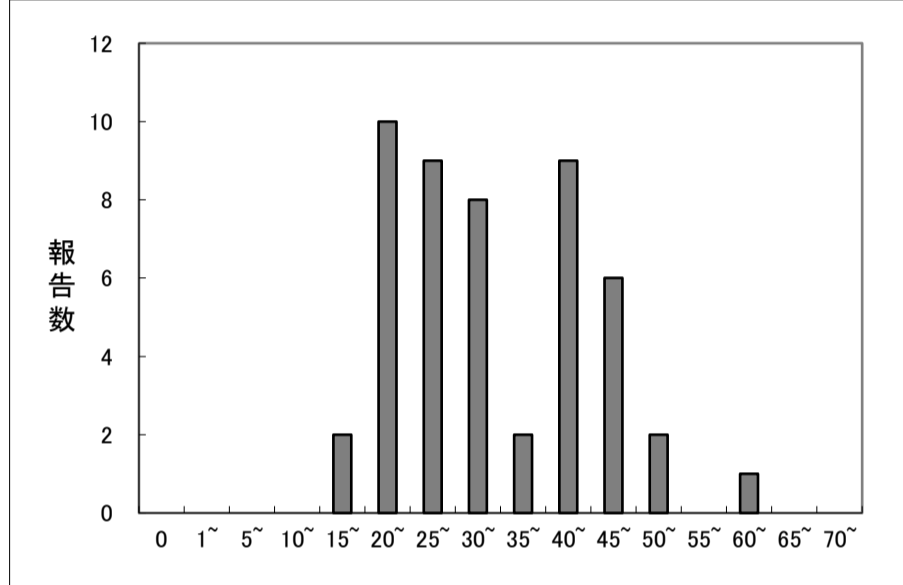
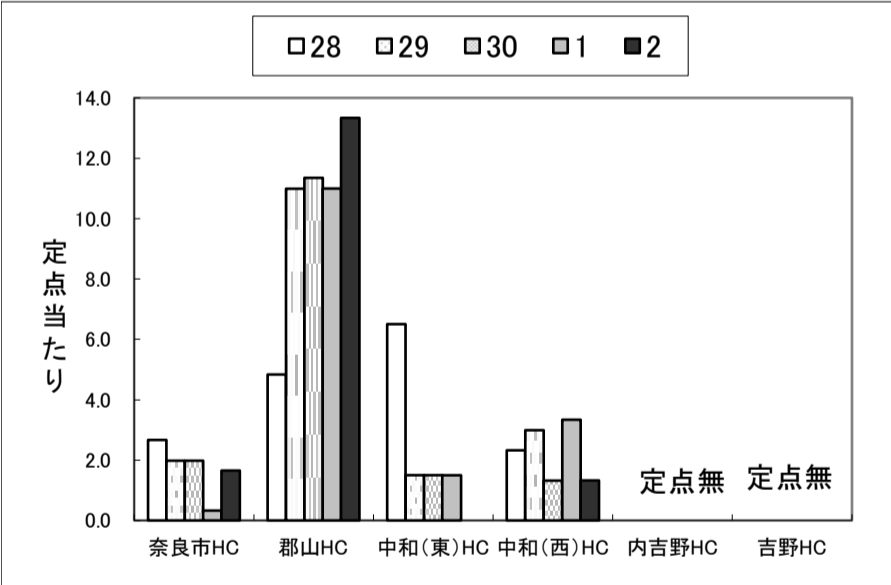


図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

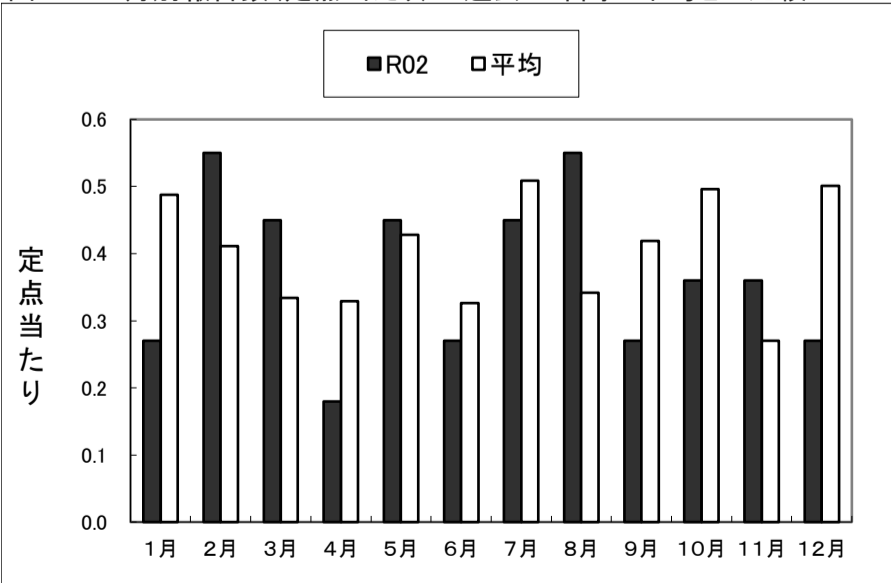


コメント

淋菌感染症は、4疾患では少ない疾患であり、例年報告数にあまり変化がない。保健所別では、例年通り郡山保健所管内が群を抜いて多い。月別では、昨年同様9月以降の報告が少なかった。年齢別では、15歳の若年層から40歳代までが多く、今回は1例だが60歳以上の報告があった。

(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



基幹定点分(月報)

23.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

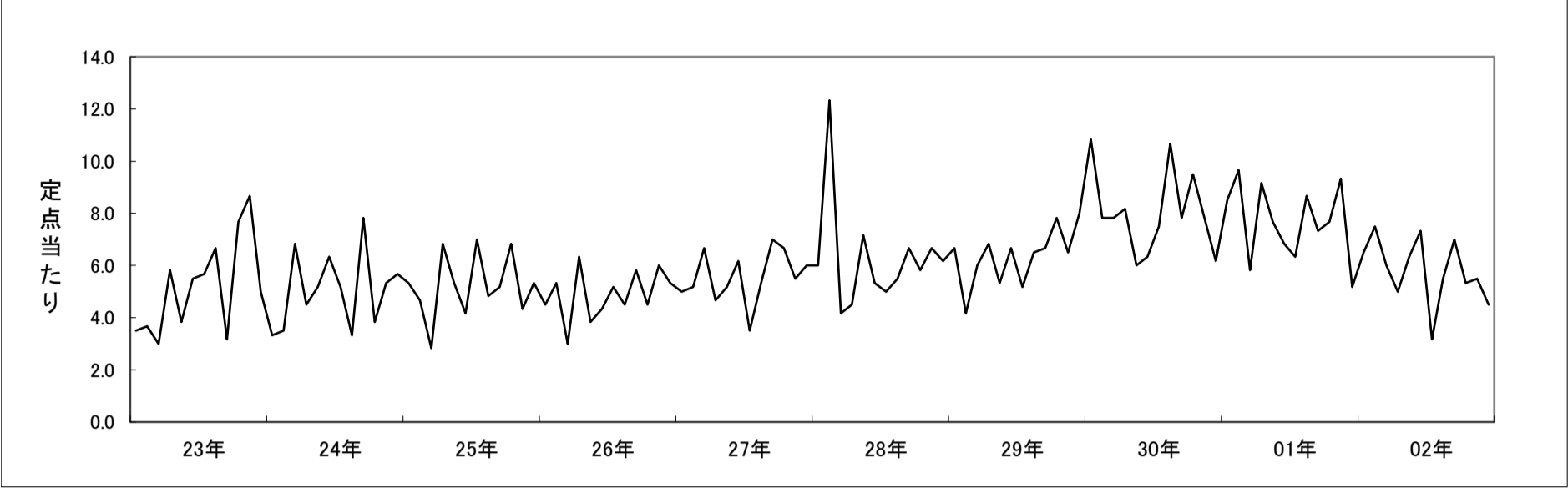


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

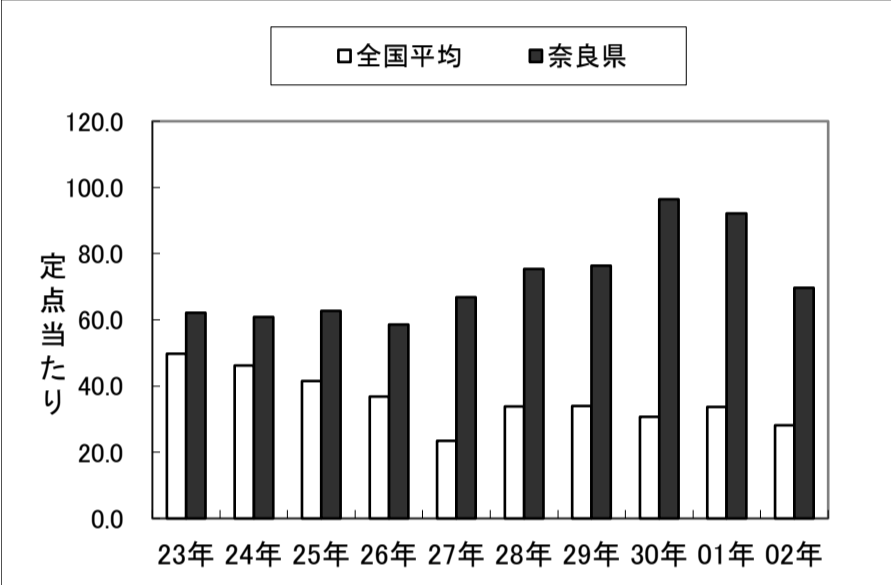


図 23-5 年齢別報告数(実数)

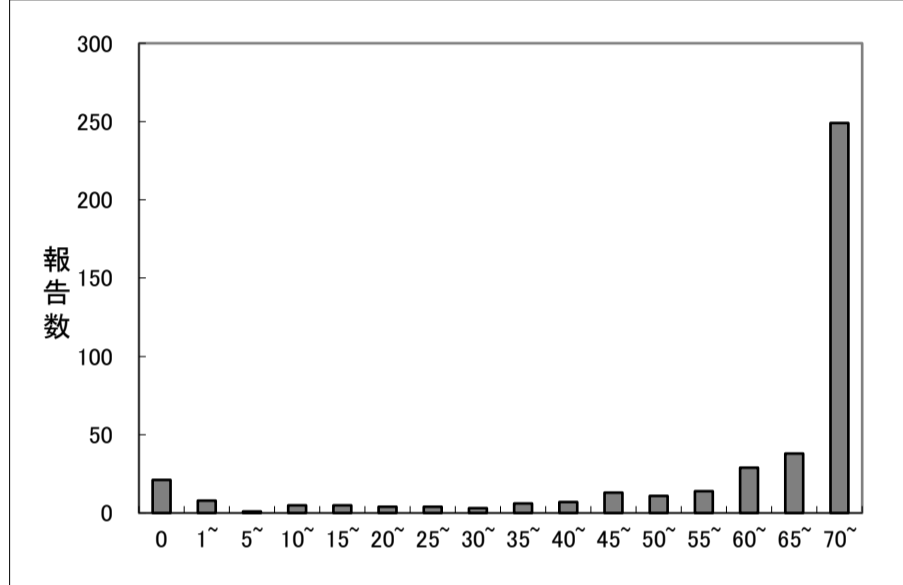
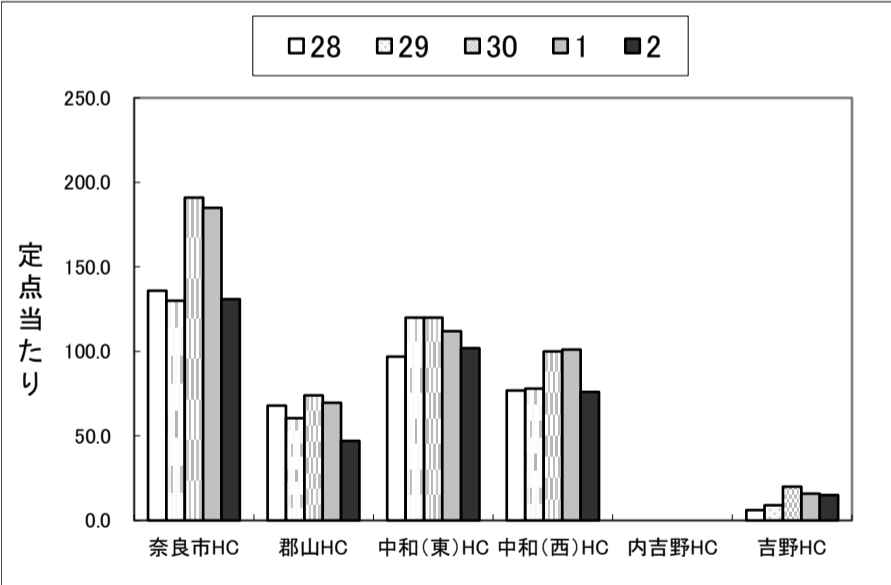


図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



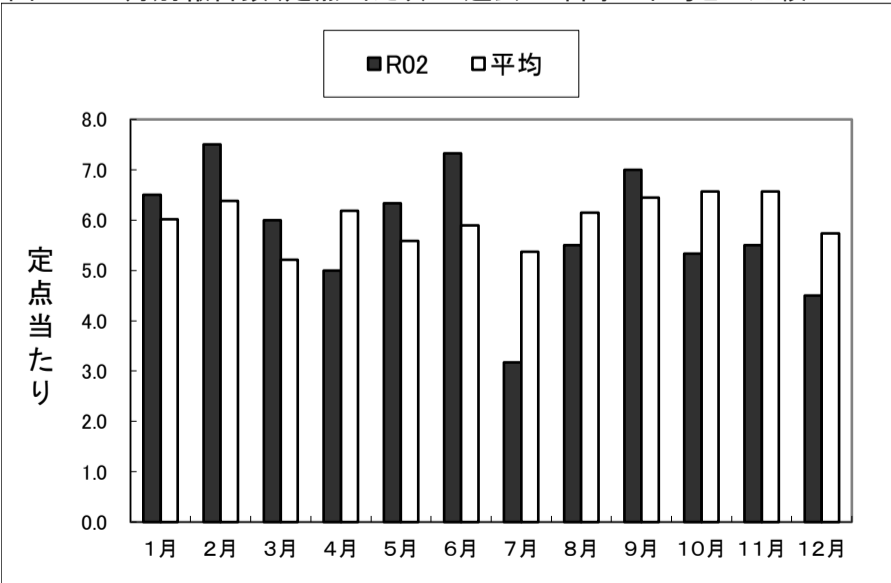
コメント

令和2年の奈良県における報告数は418例で、定点あたりの報告数は69.7であった。令和元年の報告数553例、定点あたりの報告数92.2と比べると減少傾向が見られるが、令和2年も平成28年以降同様全国ワースト1位で、5年連続ワースト1位となってしまった。分離数に季節性は見られず、年齢も70歳以上からの分離率が極めて高い点は令和元年と同様であった。

昨年も述べたが、近年、奈良県で市中感染型MRSAという耐性菌の報告が増えている。市中感染型MRSAは、従来の院内感染型MRSAに比べ病原性が高く伝播拡散しやすい性質があり、注意が必要である。奈良県において家族性で難治性の市中感染型MRSA感染症が報告されている。県内医療機関の医療関連感染対策のさらなる徹底が必要であろう。

(矢野 寿一 記)

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



24.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

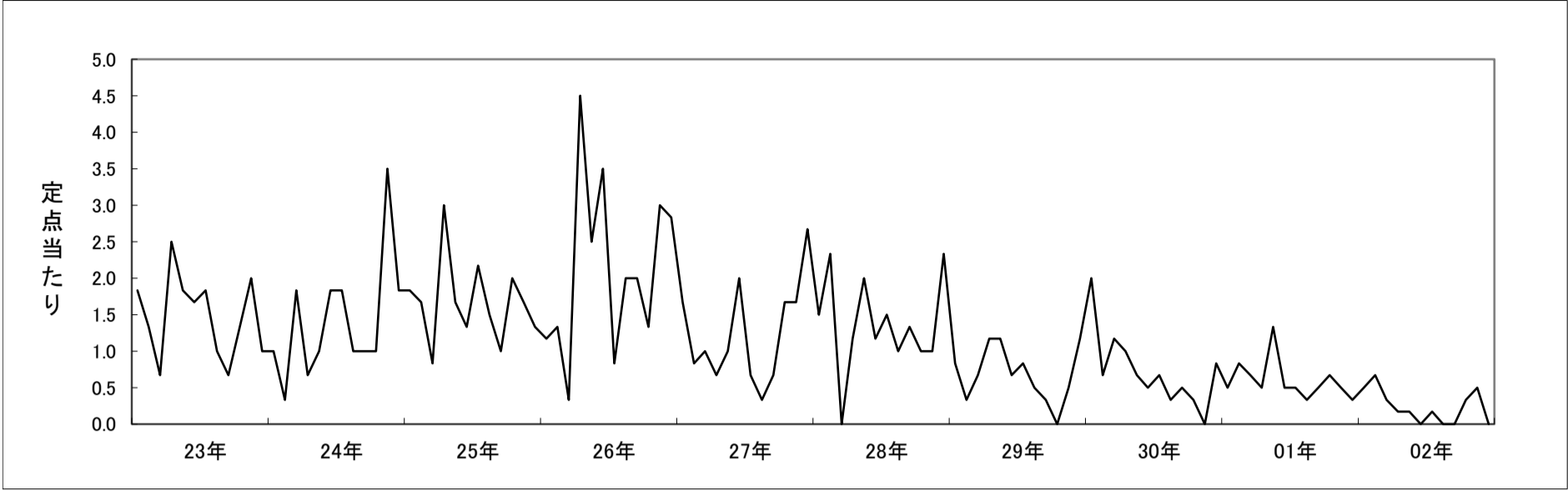


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

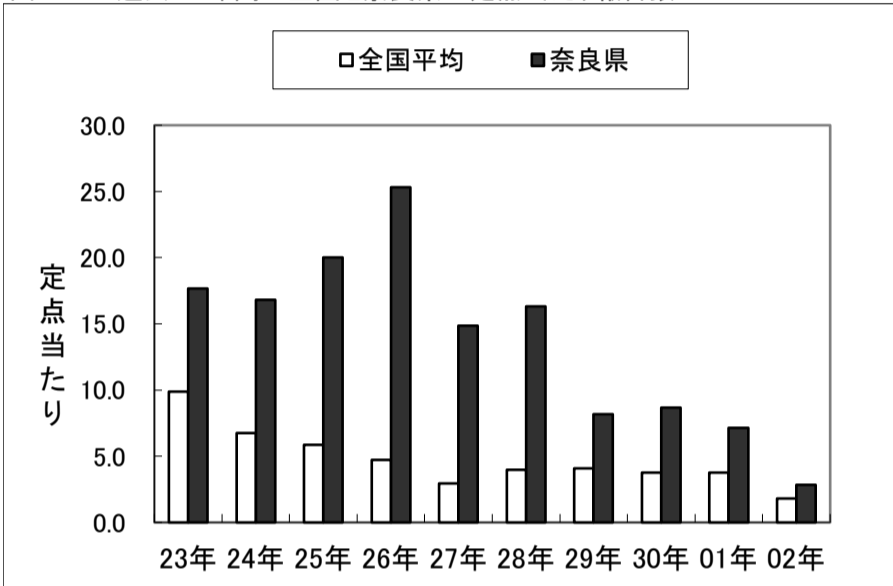


図 24-5 年齢別報告数(実数)

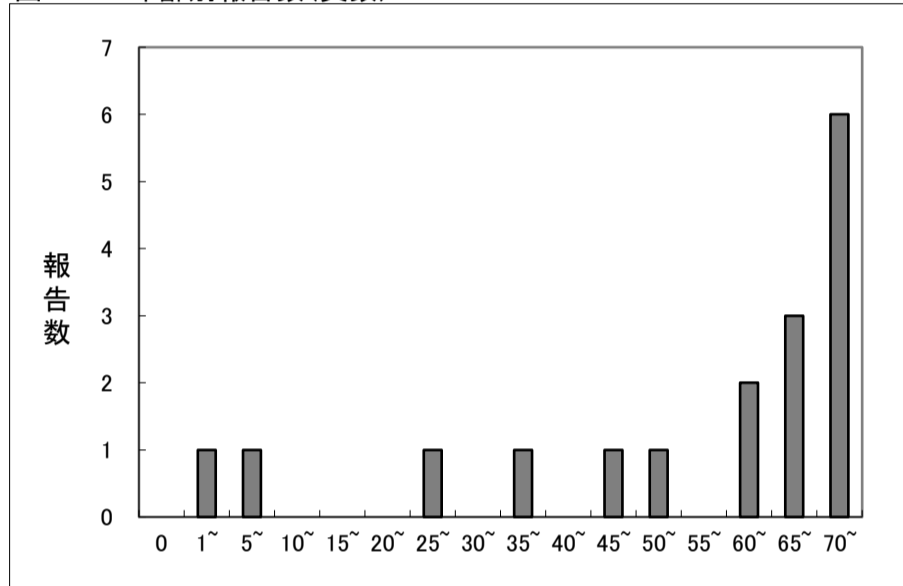
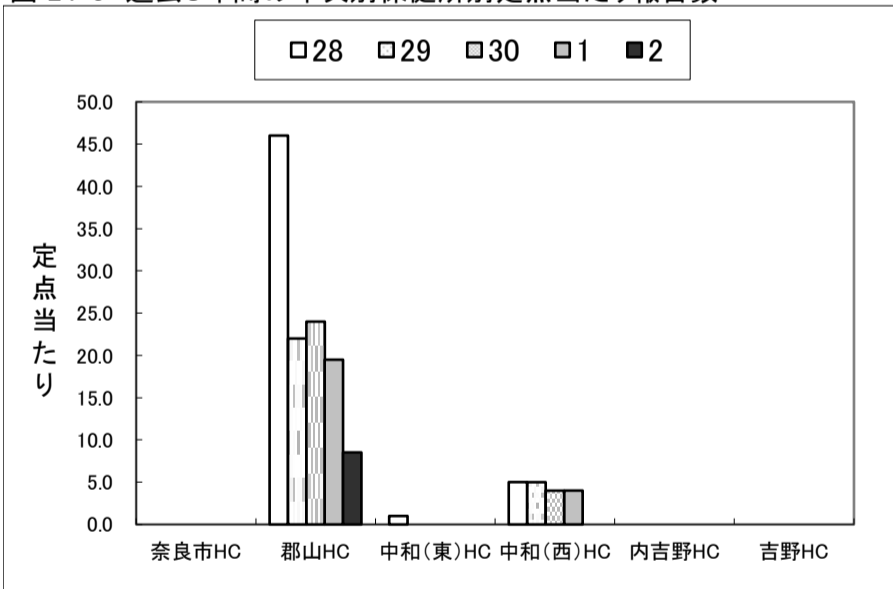


図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

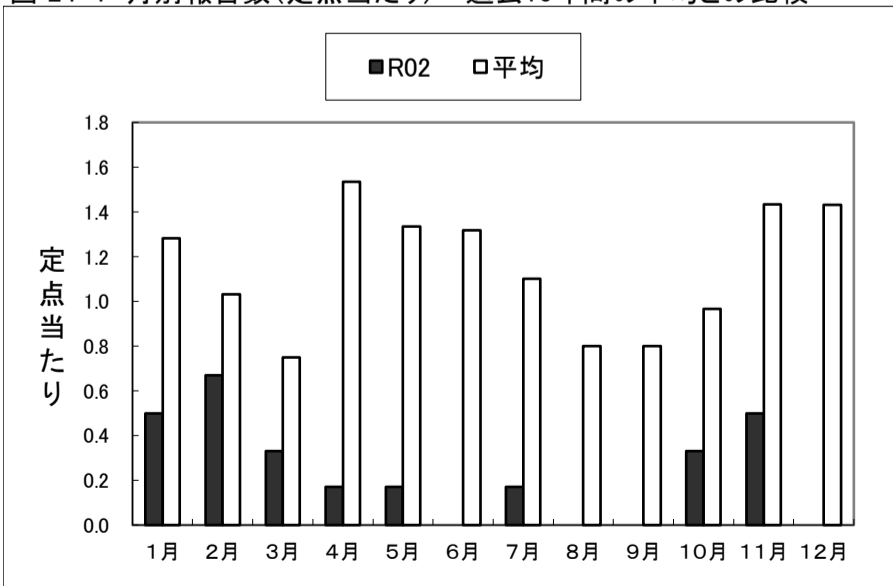


コメント

令和2年の奈良県における報告数は17例、定点あたりの報告数は2.83であった。令和元年、平成30年の報告数は43例、52例、定点あたり報告数は7.16、8.67と低下傾向にあり、全国順位も令和元年の7位から令和2年の12位と若干改善している。ただ、悪い順位で維持されていることに変わりはない。年齢別報告数は令和元年同様に70歳以上が多くを占めている。ワクチンがカバーしている肺炎球菌血清型は多く、ワクチン接種が肺炎球菌分離率を下げる事が知られている。奈良県におけるワクチン接種率は定かでないが、全国と比べてそれが低いことが示唆され(特に高齢者)、接種率増加を期待したい。

(矢野 寿一 記)

図 24-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



25.薬剤耐性緑膿菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

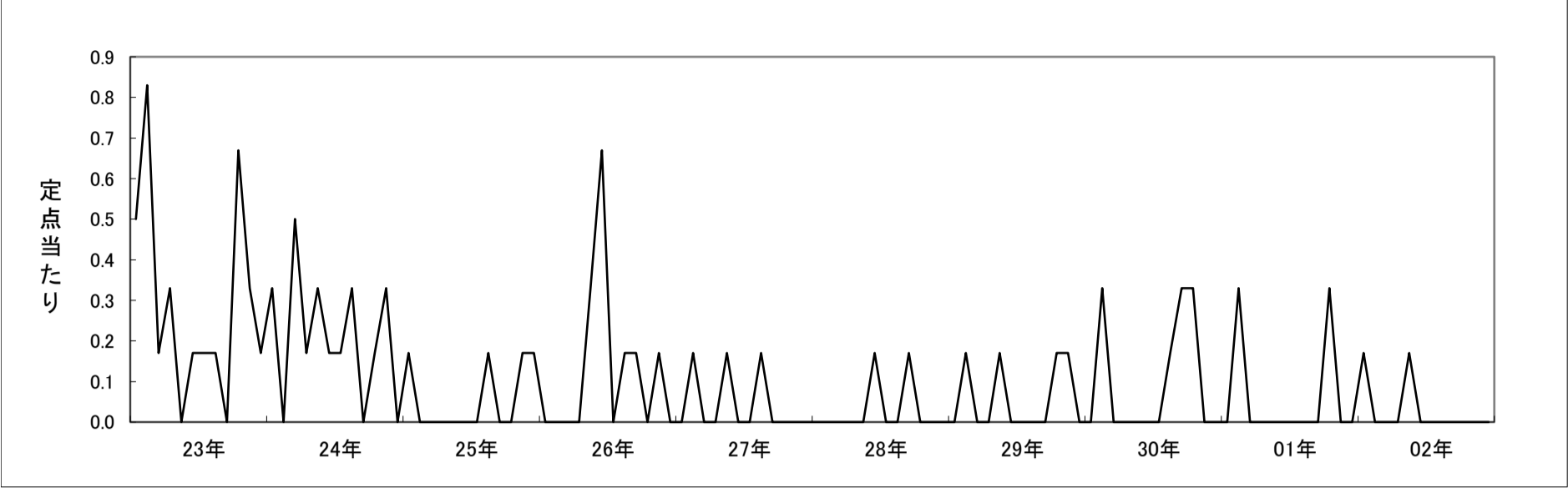


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

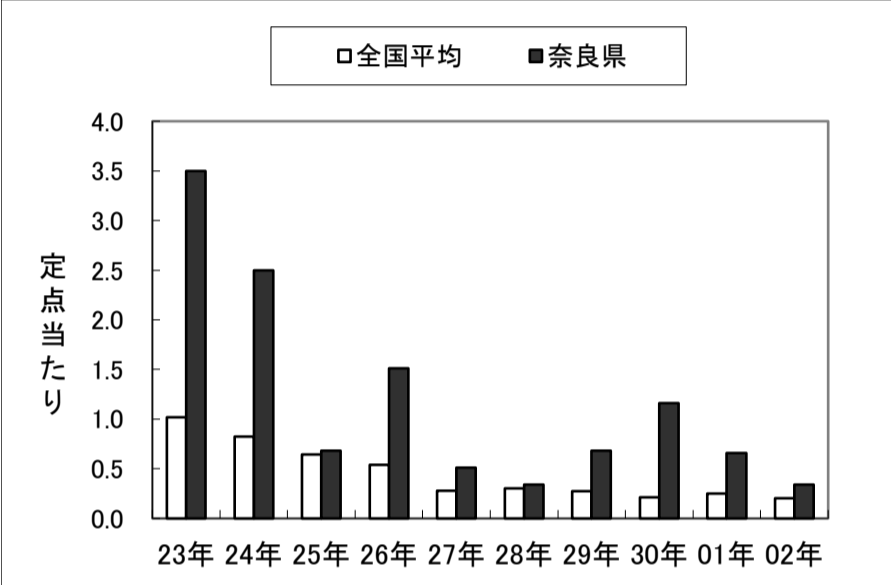


図 25-5 年齢別報告数(実数)

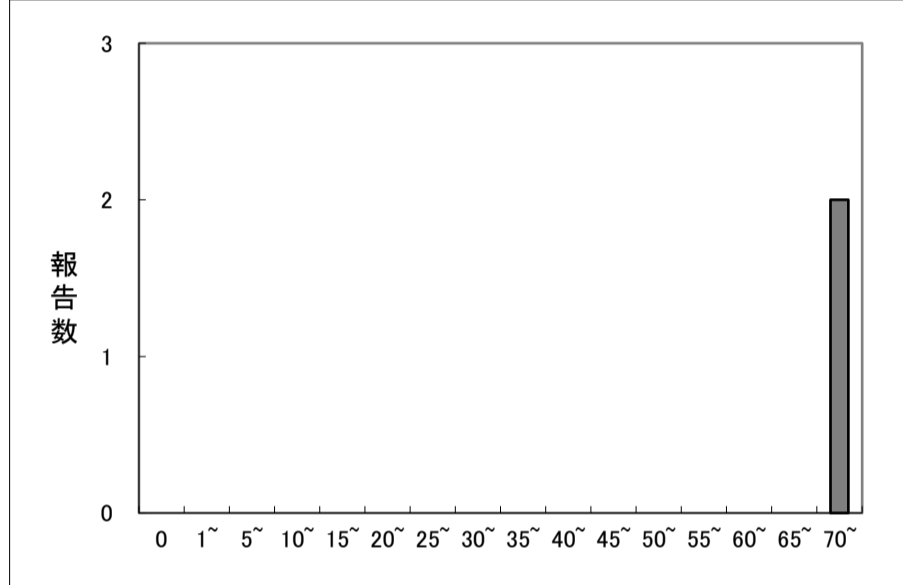
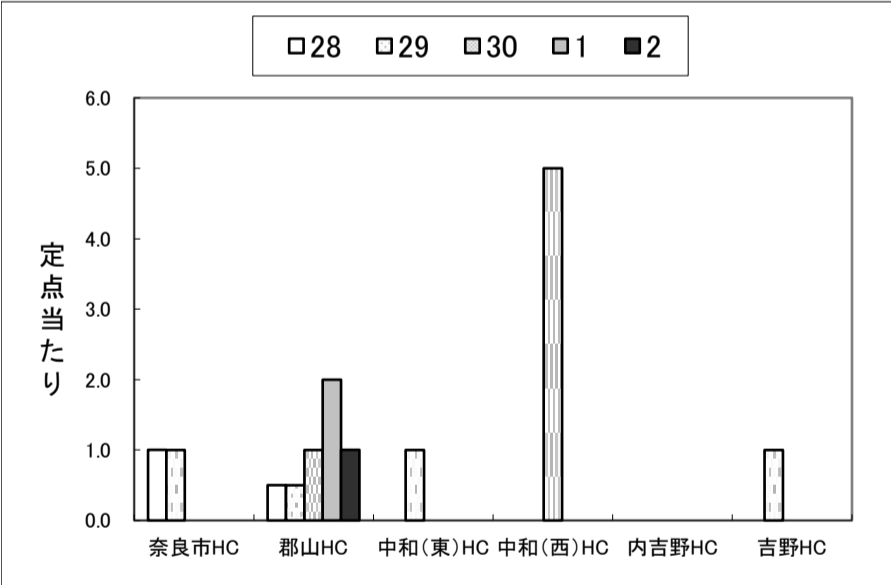


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

令和2年の奈良県における全報告数は2例で、定点あたりの報告数は0.33であった。令和元年の全報告数は4例、定点あたりの報告数0.66に比べ改善していて、全国順位も3位から12位となった。薬剤耐性緑膿菌の減少には感染対策と抗菌薬適正使用が重要となり、各医療機関における適切な対応により今後も減少傾向が維持されることを期待する。

(矢野 寿一 記)

図 25-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

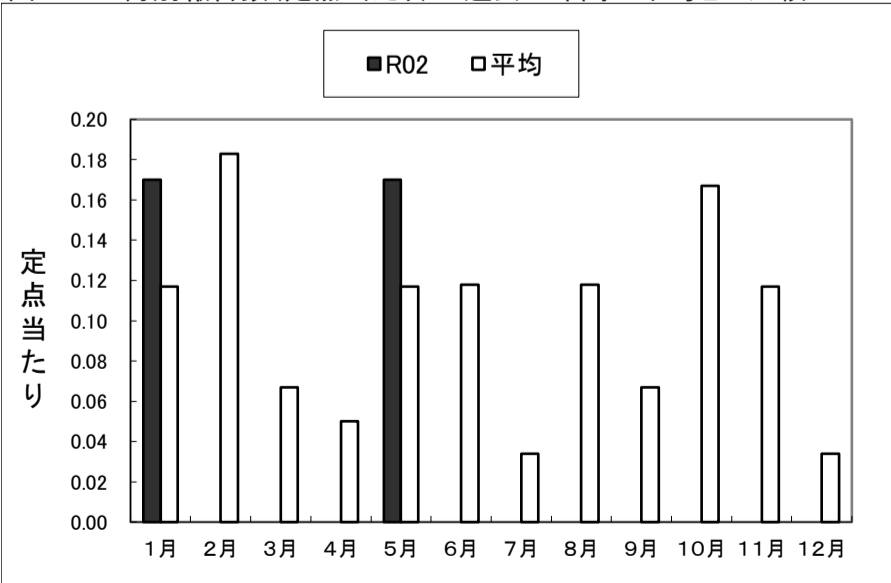


表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	3,729	1,769	415	15	0	0	0	0	0	1	0	0	5,929
RSウイルス感染症	70	59	35	9	0	0	1	0	0	0	0	0	174
咽頭結膜熱	33	40	33	25	14	6	22	21	22	21	18	56	311
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	248	271	233	175	26	73	84	28	48	59	39	71	1,355
感染症胃腸炎	889	606	334	222	108	195	307	207	219	269	247	211	3,814
水痘	40	43	36	5	3	5	13	11	23	40	26	16	261
手足口病	17	23	9	27	8	17	22	17	11	5	1	3	160
伝染性紅斑	130	61	48	24	7	3	2	2	0	1	1	0	279
突発性発しん	44	32	28	73	38	71	98	48	66	74	54	49	675
ヘルパンギーナ	1	0	1	11	5	6	11	41	74	135	20	6	311
流行性耳下腺炎	2	4	1	4	1	3	5	2	2	6	1	4	35
計	1,474	1,139	758	575	210	379	565	377	465	610	407	416	7,375
急性出血性結膜炎	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3
流行性角結膜炎	4	13	7	3	5	13	8	9	5	8	6	8	89
計	4	13	7	4	5	13	9	9	5	8	6	9	92
細菌性髄膜炎	1	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	1	7
無菌性髄膜炎	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	2	1	8
マイコプラズマ肺炎	10	10	6	0	0	2	0	1	0	0	0	1	30
クラミジア肺炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	4	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	10
計	13	16	8	2	0	4	1	4	1	1	2	4	56
性器クラミジア感染症	15	20	15	19	19	10	14	11	15	10	19	16	183
性器ヘルペスウイルス感染症	4	8	6	2	6	5	3	5	8	6	5	5	63
尖圭コンジローマ	5	2	3	8	3	2	2	2	2	1	4	1	35
淋菌感染症	3	6	5	2	5	3	5	6	3	4	4	3	49
計	27	36	29	31	33	20	24	24	28	21	32	25	330
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	39	45	36	30	38	44	19	33	42	32	33	27	418
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	4	2	1	1	0	1	0	0	2	3	0	17
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	43	49	38	31	40	44	20	33	42	34	36	27	437

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	67.80	32.16	7.55	0.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	107.80
RSウイルス感染症	2.06	1.74	1.03	0.26	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.12
咽頭結膜熱	0.97	1.18	0.97	0.74	0.41	0.18	0.65	0.62	0.65	0.62	0.53	1.65	9.15
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7.29	7.97	6.85	5.15	0.76	2.15	2.47	0.82	1.41	1.74	1.15	2.09	39.85
感染症胃腸炎	26.15	17.82	9.82	6.53	3.18	5.74	9.03	6.09	6.44	7.91	7.26	6.21	112.18
水痘	1.18	1.26	1.06	0.15	0.09	0.15	0.38	0.32	0.68	1.18	0.76	0.47	7.68
手足口病	0.50	0.68	0.26	0.79	0.24	0.50	0.65	0.50	0.32	0.15	0.03	0.09	4.71
伝染性紅斑	3.82	1.79	1.41	0.71	0.21	0.09	0.06	0.06	0.00	0.03	0.03	0.00	8.21
突発性発しん	1.29	0.94	0.82	2.15	1.12	2.09	2.88	1.41	1.94	2.18	1.59	1.44	19.85
ヘルパンギーナ	0.03	0.00	0.03	0.32	0.15	0.18	0.32	1.21	2.18	3.97	0.59	0.18	9.15
流行性耳下腺炎	0.06	0.12	0.03	0.12	0.03	0.09	0.15	0.06	0.06	0.18	0.03	0.12	1.03
計	43.35	33.50	22.29	16.91	6.18	11.15	16.62	11.09	13.68	17.94	11.97	12.24	216.91
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.30
流行性角結膜炎	0.40	1.30	0.70	0.30	0.50	1.30	0.80	0.90	0.50	0.80	0.60	0.80	8.90
計	0.40	1.30	0.70	0.40	0.50	1.30	0.90	0.90	0.50	0.80	0.60	0.90	9.20
細菌性髄膜炎	0.17	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.17	0.33	0.00	0.00	0.00	0.17	1.17
無菌性髄膜炎	0.17	0.33	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.17	0.33	0.17	1.33
マイコプラズマ肺炎	1.67	1.67	1.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.17	5.00
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.17	0.67	0.17	0.00	0.00	0.17	0.00	0.17	0.17	0.00	0.00	0.17	1.67
計	2.17	2.67	1.33	0.33	0.00	0.67	0.17	0.67	0.17	0.17	0.33	0.67	9.33
性器クラミジア感染症	1.36	1.82	1.36	1.73	1.73	0.91	1.27	1.00	1.36	0.91	1.73	1.45	16.64
性器ヘルペスウイルス感染症	0.36	0.73	0.55	0.18	0.55	0.45	0.27	0.45	0.73	0.55	0.45	0.45	5.73
尖圭コンジローマ	0.45	0.18	0.27	0.73	0.27	0.18	0.18	0.18	0.18	0.09	0.36	0.09	3.18
淋菌感染症	0.27	0.55	0.45	0.18	0.45	0.27	0.45	0.55	0.27	0.36	0.36	0.27	4.45
計	2.45	3.27	2.64	2.82	3.00	1.82	2.18	2.18	2.55	1.91	2.91	2.27	30.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6.50	7.50	6.00	5.00	6.33	7.33	3.17	5.50	7.00	5.33	5.50	4.50	69.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.50	0.67	0.33	0.17	0.17	0.00	0.17	0.00	0.00	0.33	0.50	0.00	2.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.17	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	7.17	8.17	6.33	5.17	6.67	7.33	3.33	5.50	7.00	5.67	6.00	4.50	72.83

表3 疾患別・保健所別報告数

報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	1,212	1,191	1,171	1,809	127	419	2,403	2,980	546	5,929
RSウイルス感染症	42	44	32	50	0	6	86	82	6	174
咽頭結膜熱	37	72	71	99	1	31	109	170	32	311
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	191	224	447	432	12	49	415	879	61	1,355
感染症胃腸炎	737	1,108	658	1,114	111	86	1,845	1,772	197	3,814
水痘	99	39	47	60	5	11	138	107	16	261
手足口病	67	34	28	28	0	3	101	56	3	160
伝染性紅斑	116	72	27	63	0	1	188	90	1	279
突発性発しん	167	112	171	205	1	19	279	376	20	675
ヘルパンギーナ	65	31	90	98	0	27	96	188	27	311
流行性耳下腺炎	10	9	2	8	2	4	19	10	6	35
計	1,531	1,745	1,573	2,157	132	237	3,276	3,730	369	7,375
急性出血性結膜炎	1	0	0	2	0	0	1	2	0	3
流行性角結膜炎	20	21	38	10	0	0	41	48	0	89
計	21	21	38	12	0	0	42	50	0	92
細菌性髄膜炎	0	4	3	0	0	0	4	3	0	7
無菌性髄膜炎	0	1	4	3	0	0	1	7	0	8
マイコプラズマ肺炎	0	1	0	25	0	4	1	25	4	30
クラミジア肺炎	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	2	0	7	0	1	2	7	1	10
計	0	8	7	36	0	5	8	43	5	56
性器クラミジア感染症	35	71	12	65	0	0	106	77	0	183
性器ヘルペスウイルス感染症	21	15	1	26	0	0	36	27	0	63
尖圭コンジローマ	3	15	1	16	0	0	18	17	0	35
淋菌感染症	5	40	0	4	0	0	45	4	0	49
計	64	141	14	111	0	0	205	125	0	330
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	131	94	102	76	0	15	225	178	15	418
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	17	0	0	0	0	17	0	0	17
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	131	113	102	76	0	15	244	178	15	437

定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	86.57	85.07	106.45	180.90	63.50	104.75	85.82	141.90	91.00	107.80
RSウイルス感染症	4.67	4.89	4.57	8.33	0.00	3.00	4.78	6.31	2.00	5.12
咽頭結膜熱	4.11	8.00	10.14	16.50	1.00	15.50	6.06	13.08	10.67	9.15
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21.22	24.89	63.86	72.00	12.00	24.50	23.06	67.62	20.33	39.85
感染症胃腸炎	81.89	123.11	94.00	185.67	111.00	43.00	102.50	136.31	65.67	112.18
水痘	11.00	4.33	6.71	10.00	5.00	5.50	7.67	8.23	5.33	7.68
手足口病	7.44	3.78	4.00	4.67	0.00	1.50	5.61	4.31	1.00	4.71
伝染性紅斑	12.89	8.00	3.86	10.50	0.00	0.50	10.44	6.92	0.33	8.21
突発性発しん	18.56	12.44	24.43	34.17	1.00	9.50	15.50	28.92	6.67	19.85
ヘルパンギーナ	7.22	3.44	12.86	16.33	0.00	13.50	5.33	14.46	9.00	9.15
流行性耳下腺炎	1.11	1.00	0.29	1.33	2.00	2.00	1.06	0.77	2.00	1.03
計	170.11	193.89	224.71	359.50	132.00	118.50	182.00	286.92	123.00	216.91
急性出血性結膜炎	0.33	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.17	0.50	0.00	0.30
流行性角結膜炎	6.67	7.00	19.00	5.00	0.00	0.00	6.83	12.00	0.00	8.90
計	7.00	7.00	19.00	6.00	0.00	0.00	7.00	12.50	0.00	9.20
細菌性髄膜炎	0.00	2.00	3.00	0.00	0.00	0.00	1.33	1.50	0.00	1.17
無菌性髄膜炎	0.00	0.50	4.00	3.00	0.00	0.00	0.33	3.50	0.00	1.33
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.50	0.00	25.00	0.00	4.00	0.33	12.50	4.00	5.00
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.17
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	1.00	0.00	7.00	0.00	1.00	0.67	3.50	1.00	1.67
計	0.00	4.00	7.00	36.00	0.00	5.00	2.67	21.50	5.00	9.33
性器クラミジア感染症	11.67	23.67	6.00	21.67	0.00	0.00	17.67	15.40	0.00	16.64
性器ヘルペスウイルス感染症	7.00	5.00	0.50	8.67	0.00	0.00	6.00	5.40	0.00	5.73
尖圭コンジローマ	1.00	5.00	0.50	5.33	0.00	0.00	3.00	3.40	0.00	3.18
淋菌感染症	1.67	13.33	0.00	1.33	0.00	0.00	7.50	0.80	0.00	4.45
計	21.33	47.00	7.00	37.00	0.00	0.00	34.17	25.00	0.00	30.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	131.00	47.00	102.00	76.00	0.00	15.00	75.00	89.00	15.00	69.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	8.50	0.00	0.00	0.00	0.00	5.67	0.00	0.00	2.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.33
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	131.00	56.50	102.00	76.00	0.00	15.00	81.33	89.00	15.00	72.83